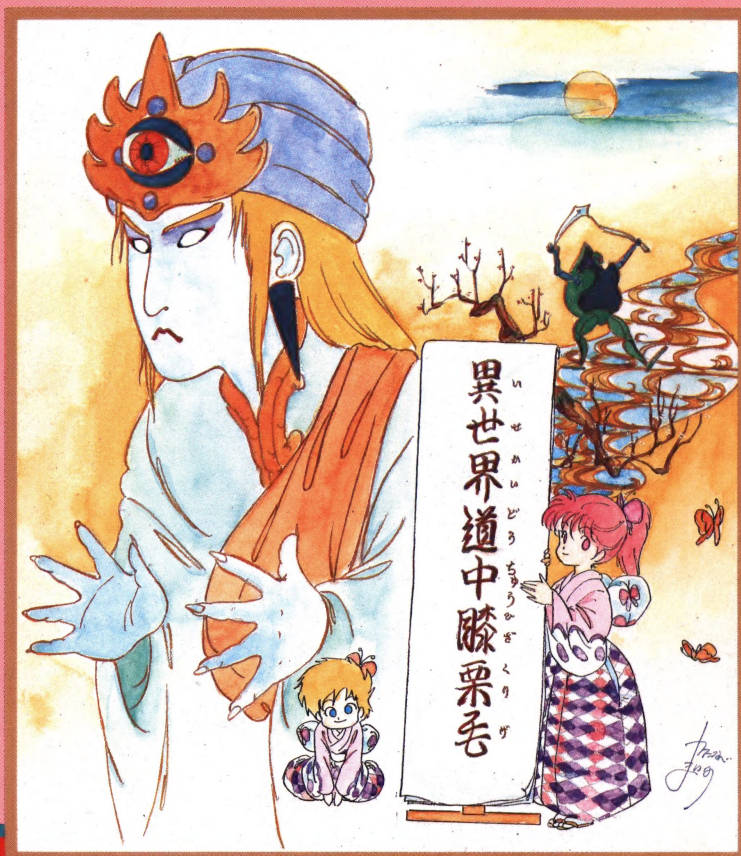
コミックボンボン スペシャル 4
幻夢戦記
レダ
CHARACTER DESIGN
いのまたむつみ
プラス
NOVEL
菊地秀行
ILLUSTRATION
豊増 隆寛
山内 英子
渡辺 真由美
影山 楙倫
Fantastic Adventure of Yohko
定価1000円
幻夢戦記 レダ
Fantastic Adventure of Yohko
講談社

Fantastic Adventure of Yohko

Leda

Comic World

陽子，ヨニ，そしてリンガムに，ゼルたちがからんでくりひろげられる，滑稽な道中記。

渡辺 真由美

パロディのイラストを描けといわれても，あまりユーモアのセンスがないもので‥‥思いあまって，「レダ」の10年まえというイメージで描いてみました。

山内 英子

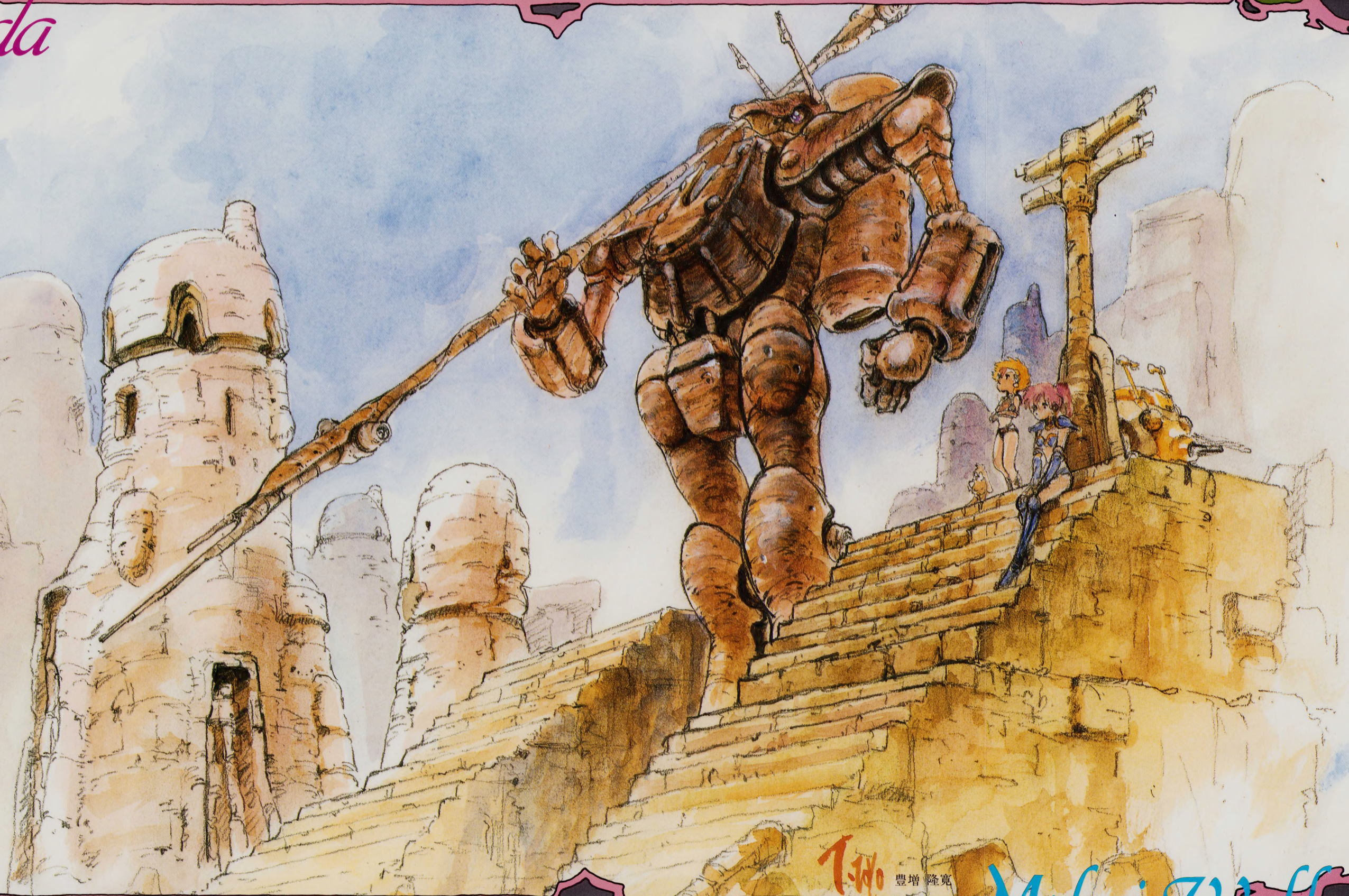
Fantastic Adventure of Yohko

Leda

T-Toyo

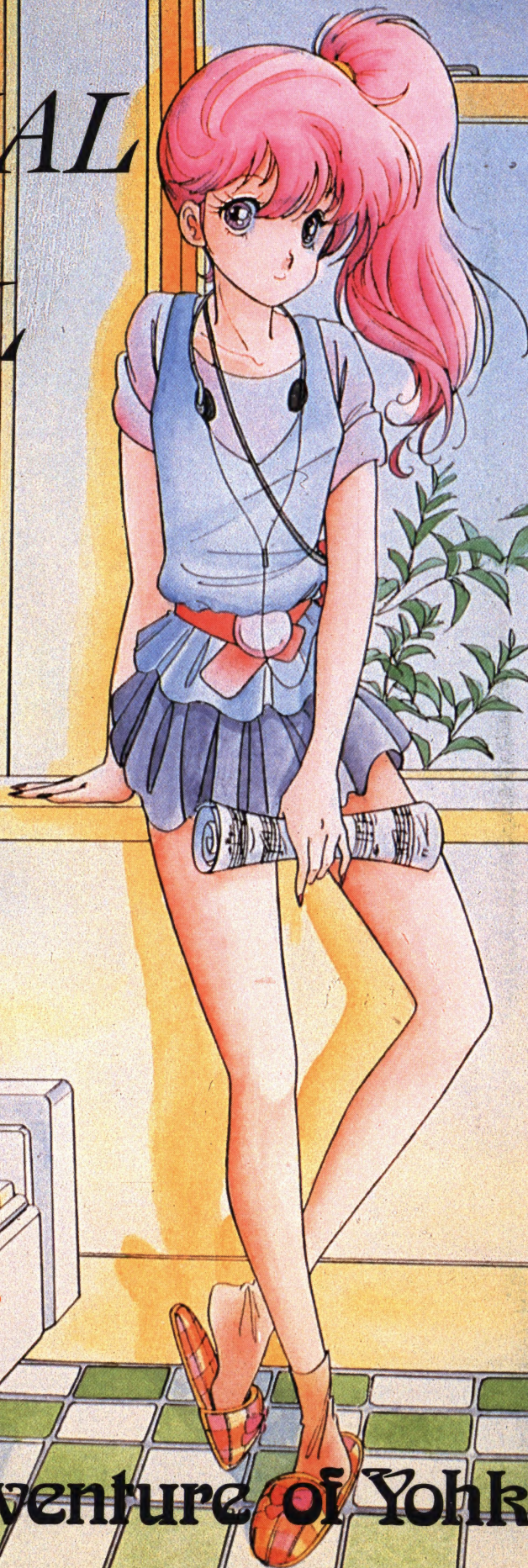
豊増 隆寛

Mechanic World

Fantastic Adventure of Yohko

Leda

豊増 隆寛

Mechanic World

PICTORIAL
and
NOVEL
*COPY
Hideyuki Kikuchi
*ILLUSTRATION
Mayumi Watanabe
Hideko Yamauchi
Takahiro Toyomasu
陽子は、一つの曲をつくった。ある少年への思いをこめた、美しいピアノ曲。それが、異次元の戦いへと彼女を導く鍵だった。
Leda
Fantastic Adventure of Yohko

アシャンティ

秋の午後、陽子はその少年と、落ち葉の道ですれちがった。腰のヘッドホンステレオから流れる曲に勇気づけられ、話しかけようとして‥‥陽子は消えた。

異次元へ落ちる陽子に、女性と見まがうばかりに美しい青年、ゼルの黒い手がせまる。しかし、間一髪、陽子はその手からのがれ、不思議な世界へ落ちていった。

「ここは、どこだろう。あたしの世界じゃないわ。」不安げにつぶやく陽子の足の下で、地面が動いた。

①少年への思いをこめ，ピアノをひく陽子。

②思いを伝える決心をした陽子ではあったが，いざ少年のまえにでると‥‥。

③ことばをだすこともできなかった。

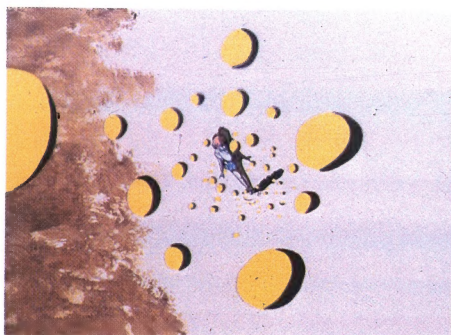
④陽子とすれちがい，去っていく少年。

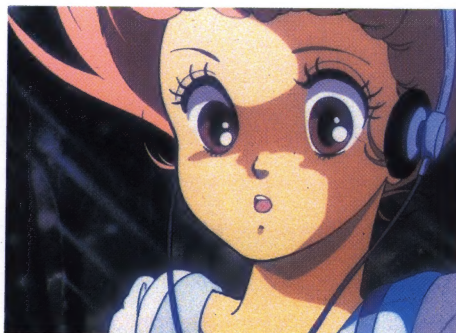
Fantastic Adventure of Yohko

⑧なにがおこったのかと，おどろく陽子。

⑨謎の男が現れる。

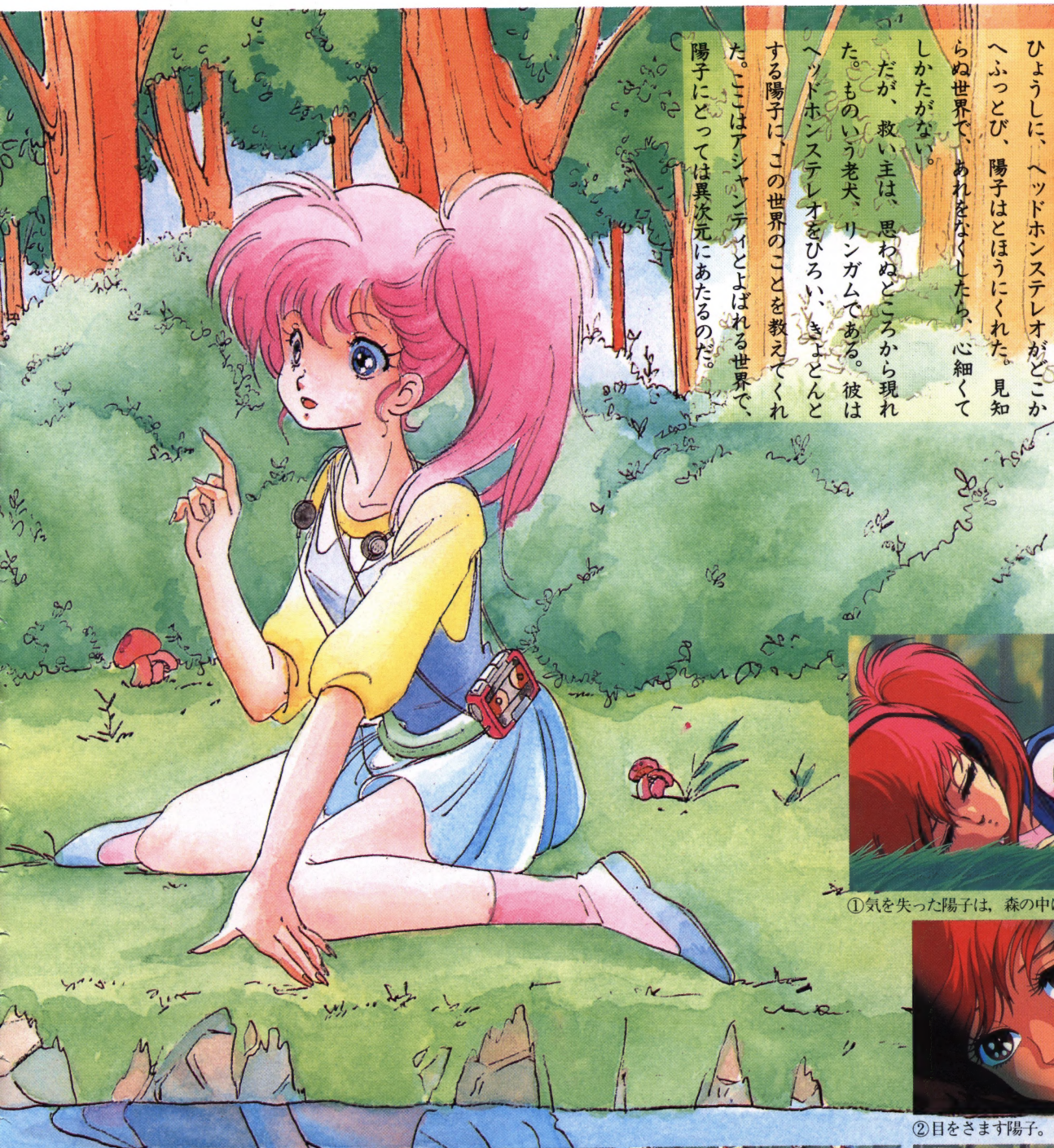
⑩巨大な手がせまる。

⑪突然，陽子は消えた。

⑦陽子は，異次元アシャンティにすいこまれていく。

⑥ふいに，陽子は風に包まれる。

⑤話しかけられなかった陽子は，立ちつくす。

リンガム

なんと、地面と思ったのは、巨大な亀の甲羅だったのだ。「きゃっ。」と、すべったひょうしに、ヘッドホンステレオがどこかへふっとび、陽子はとほうにくれた。見知らぬ世界で、あれをなくしたら、心細くてしかたがない。

だが、救い主は、思わぬところから現れた。ものいう老犬、リンガムである。彼はヘッドホンステレオをひろい、きょとんとする陽子に、この世界のことを教えてくれた。ここはアシャンティとよばれる世界で、陽子にとっては異次元にあたるのだ。

①気を失った陽子は，森の中にいた。

②目をさます陽子。

③そこは，見知らぬ森だった。

④見たこともない蝶が飛びたつ。

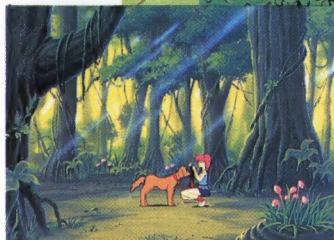
⑤陽子は，巨大な亀の上にいたのだ。

⑥亀の背から木にとびつき，脱出。

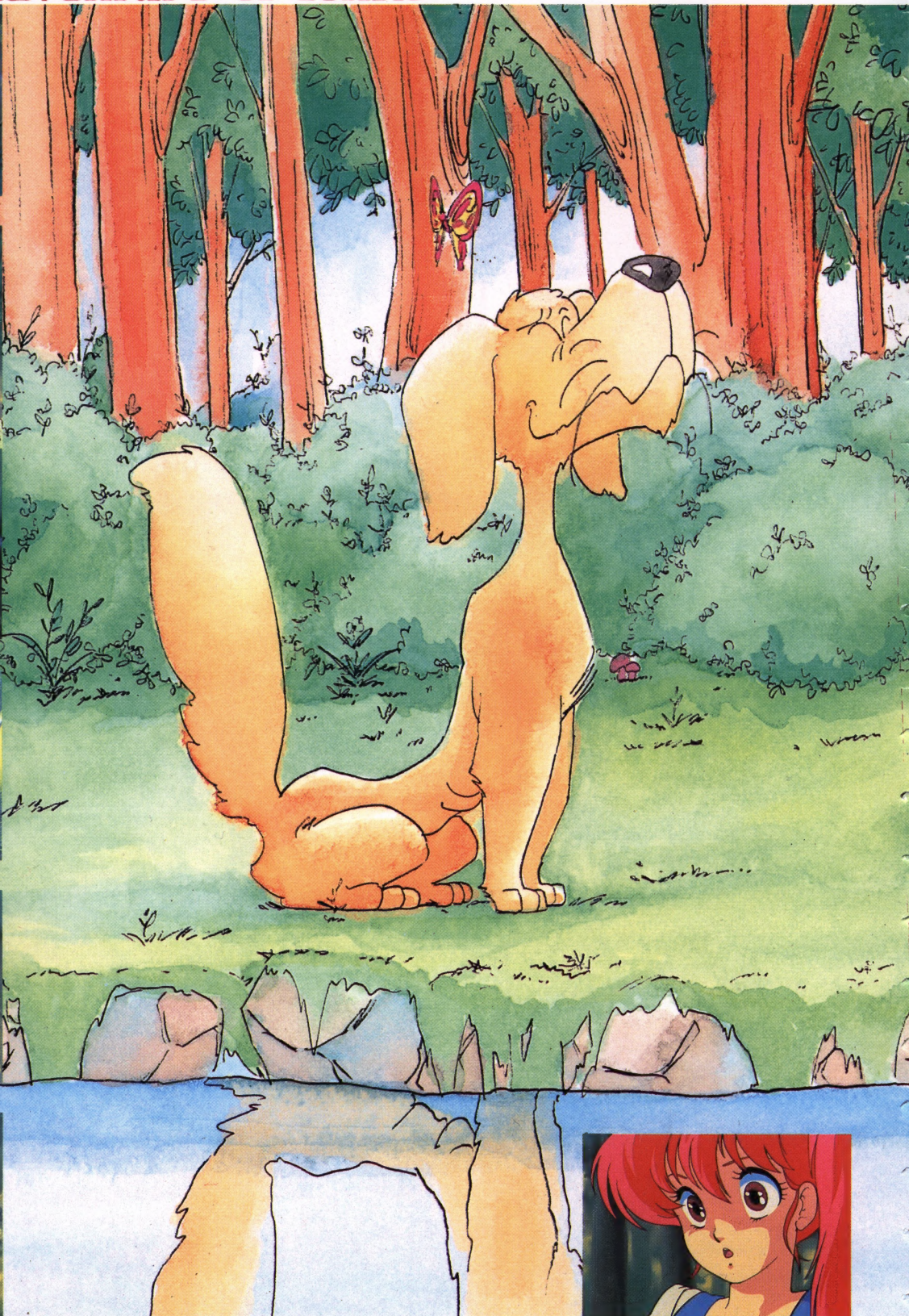
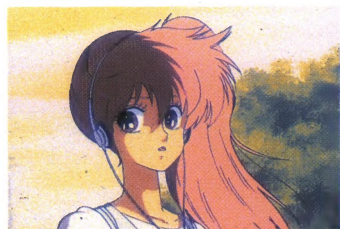
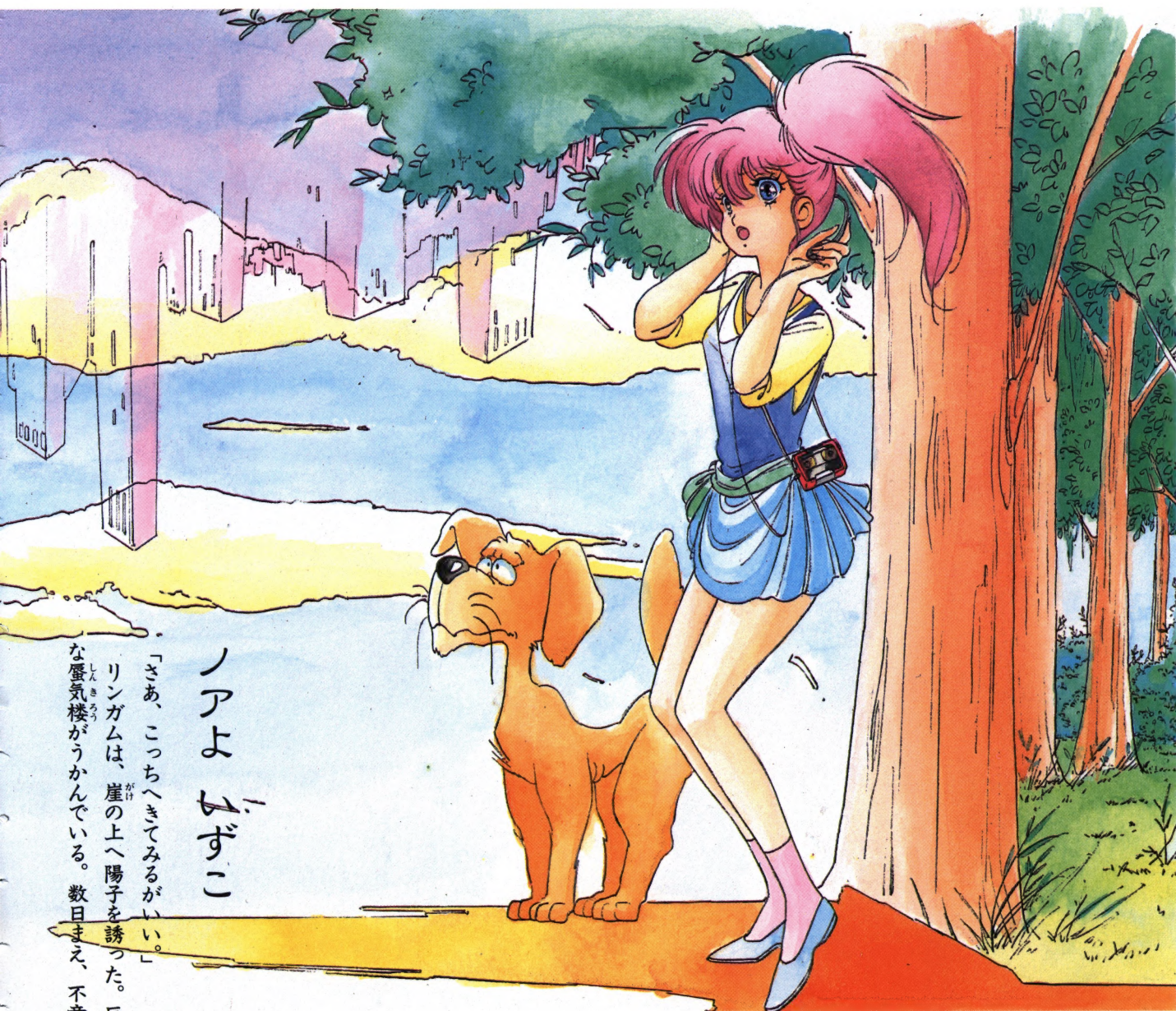
Fantastic Adventure of Yohko

⑧「落とし物じゃよ。」

⑨陽子の落としたヘッドホンステレオ。

⑩「ええと，どうも。」

⑪「わたしの名は，リンガム。」

⑫「ええと，あたしは朝霧陽子。」

⑬「おぬし，この世界の人間ではないのか。」

⑦犬に話しかけられ，おどろく陽子。

ノアよ いずこ

「さあ、こっちへきてみるがいい。」
リンガムは、崖の上へ陽子を誘った。巨大な蜃気楼がうかんでいる。数日まえ、不意に

①「あの景色に，見おぼえはないかな。」

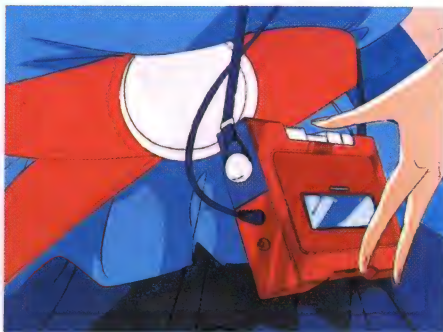
②蜃気楼を見て，おどろく陽子。

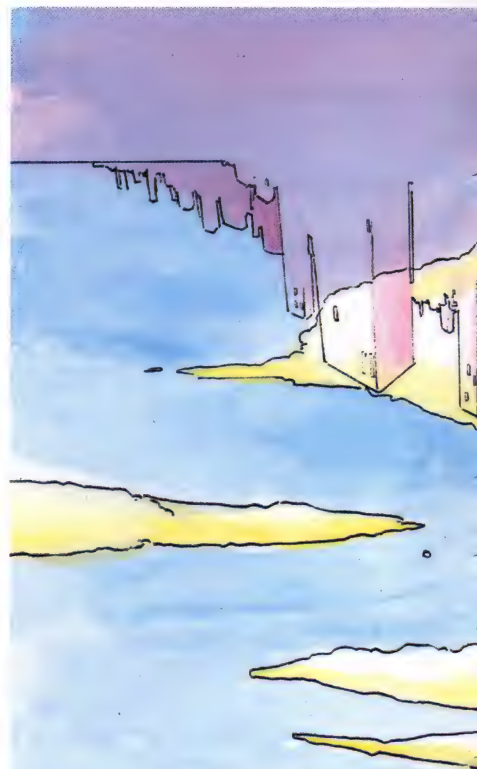
③二つの世界について語るリンガム。

④ヘッドホンステレオのスイッチを入れると‥‥。

Fantastic Adventure of Yohko

⑥だが，すぐにアシャンティにもどった。

⑧「帰りたい。」と，つぶやく陽子。

⑦ヘッドホンステレオのスイッチを切る。

⑨リンガムは，カセットが二つの世界を結ぶ鍵(かぎ)だという。

現れたのだという。ここの人たちがノアとよぶ、その蜃気楼は、どうみても、東京の街だった。

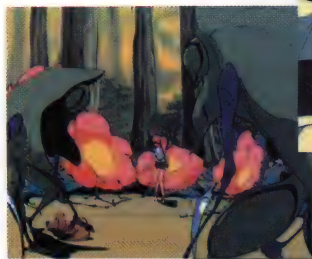
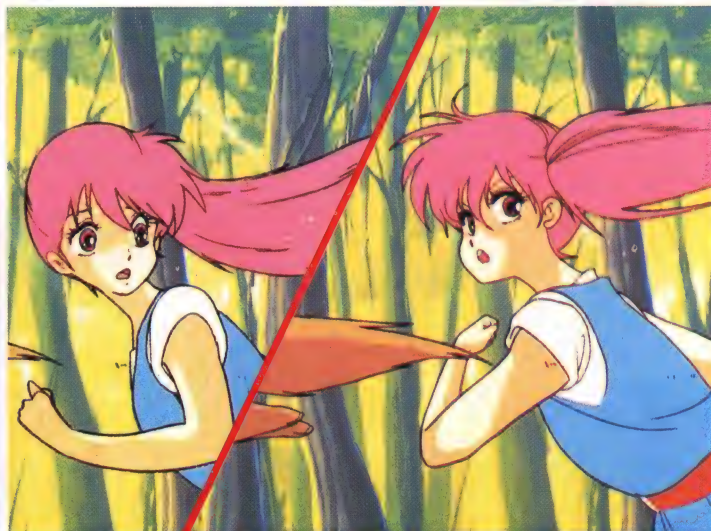
「伝説によれば、ノアの蜃気楼ができるとき、こことノアとのあいだに次元の道ができる。あんたは、そこをとおってきたんじゃろ。」

なつかしさでいっぱいになった陽子は、ヘッドホンステレオのスイッチを入れた。白い光が全身を包み、陽子はあの並木道にいた。

⑤曲が流れ，一瞬，もとの世界に。

②ロボットの正体は？

①ヘッドホンステレオがうばわれた。

③エアバイクに乗った男たちが，陽子をとり囲む。

⑤行く手をはばまれてしまう。

④必死に逃げようとする陽子だが・・・。

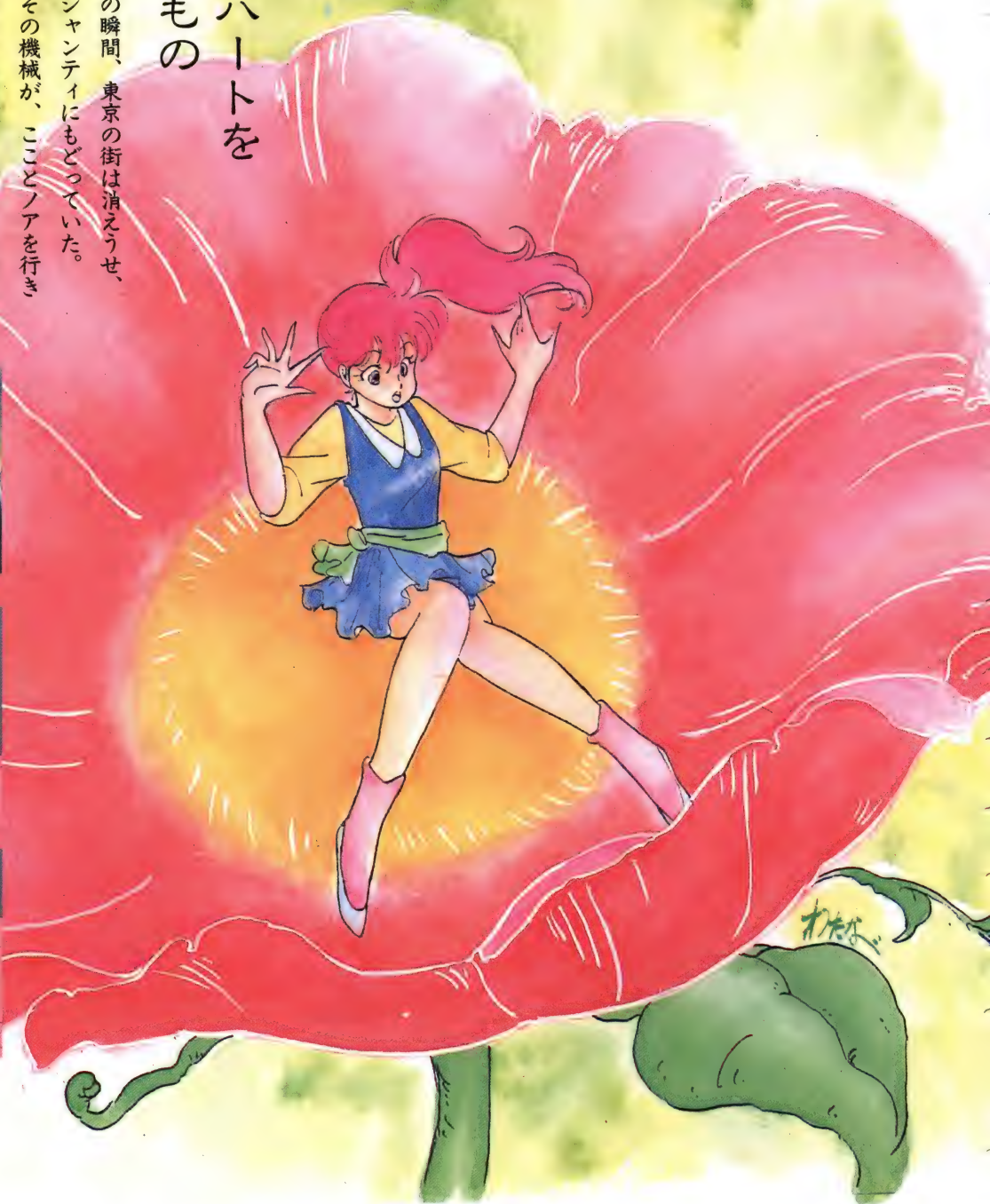
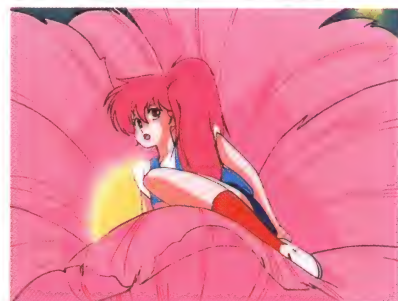
Fantastic Adventure of Yohko

レダのハートをねらうもの

　だが、つぎの瞬間、東京の街は消えうせ、陽子は再びアシャンティにもどっていた。
「どうやら、その機械が、ここと ノアを行き来する鍵をにぎっておるらしい。もう一度、かけてみろ。」
　リンガムにうながされ、ヘッドホンステレオに手をふれたとき、うなりをたててのびてきた奇怪な触手が、それをうばいとった。邪悪なロボット、ウォーリアと偵察ポッドだ。つづく一撃をうけ、陽子は悲鳴をあげて、巨大な花の中へ落ちた。

⑥追いつめられる陽子。

⑦ジャンプして逃げるが,

⑧大きな花の上に落ちてしまう。

①どこに落ちたのかわからない陽子。

②花の上に落ちたと知って，ほっとする。

③花びらが陽子を包みこむ。

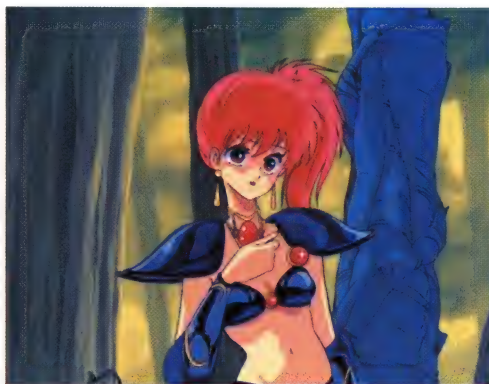
④陽子のからだに異変が！

⑤光に包まれる陽子。

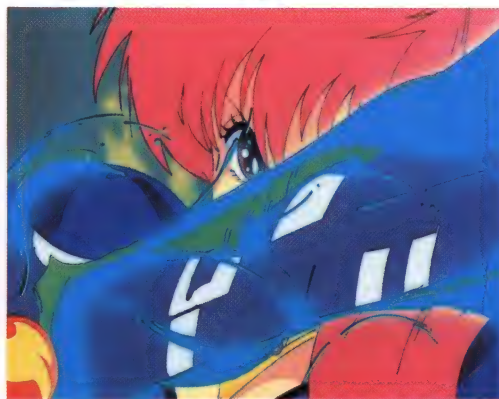
レダの戦士 誕生

陽子の声は、すぐとだえた。花は食肉植物だったのだ。リンガムも、ウォーリアに捕らえられた。一人がヘッドホンステレオをひろった。そのはずみに、ボリュームが最大になる。流れだす美しい調べ。純真な心をこめた曲。陽子をのんで天空くのびあがった花は、世にも美しい光芒(こうぼう)に包まれた。ウォーリアたちが、それをレダパワーのもたらしたものだと知ったとき、花は大きく開き、一人の女戦士をはじきだした。

⑥陽子は，レダの戦士となったのだ。

⑦ウォーリアが襲いかかる。

①自分の姿におどろく陽子。

③ジャンプしてかわす陽子。

②ウォーリアが，陽子に切りかかる。

④剣でウォーリアに立ちむかう。

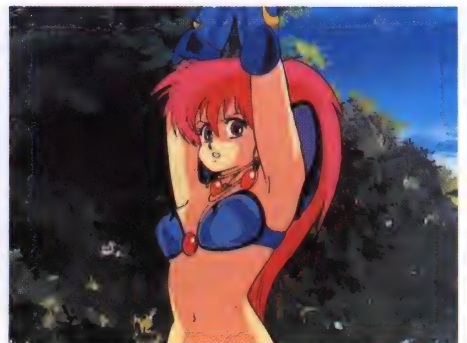
戦闘

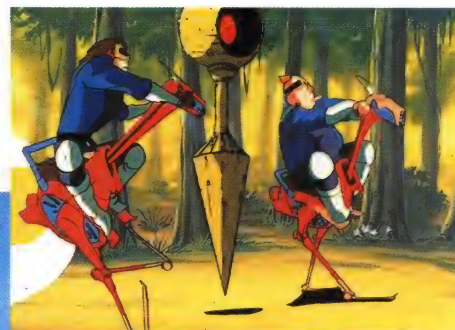
不思議な鎧を身にまとい、長剣片手に陽子はとびおりた。襲いかかるウォーリア。長剣が舞った。それは奇跡のようであった。一介の女子高生がふるう刃のまえに、ロボットたちは、なす術もなく切りすてられたのである。生き残った三人の兵士と偵察ポッドは逃亡した。

「レダの戦士。」と、リンガムがつぶやいた。

⑤陽子の剣が，ウォーリアを両断する。

Fantastic Adventure of Yohko

⑦「陽子，おぬし，いったい何者なんじゃ。」

⑥ウォーリアから，リンガムを助けようとする。

②それを追いかけようとする陽子。

①エアバイクの男たちが，ヘッドホンステレオをもって逃げようとする。

⑤「レダ？　なに，それ？」

④バイクの男たちを追う陽子とリンガム。

③敵の発光弾を見るヨニ。

Fantastic Adventure of Yohko

追跡

リンガムは、陽子こそ、かつてこの世界を治めた女神レダが、この世の平和を守るために選びだした、レダの戦士にちがいないという。

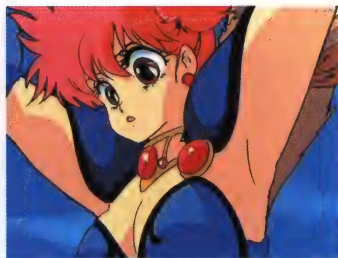
半信半疑のまま陽子は、ウォーリアの残した電子カー、ステードでヘッドホンステレオをもって逃げた敵を追う。森をぬけ、岩山へ。逆襲にでる敵をけりたおし、あとひと息のところまで追いつめたとき、頭上に巨大な敵機が現れた。無数の攻撃用ポッドが襲いかかってくる。

⑦バイクの男たちは，巨大な飛行メカの中に。

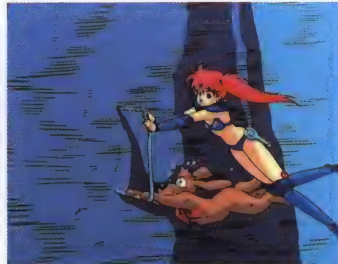
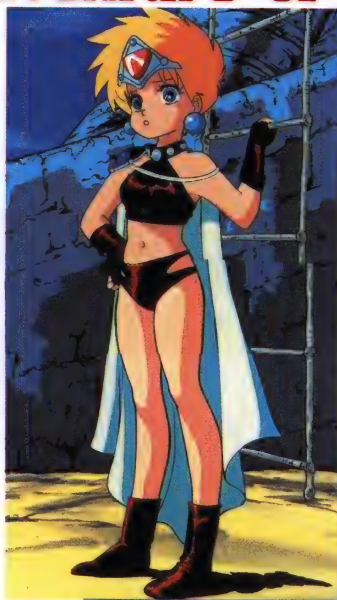
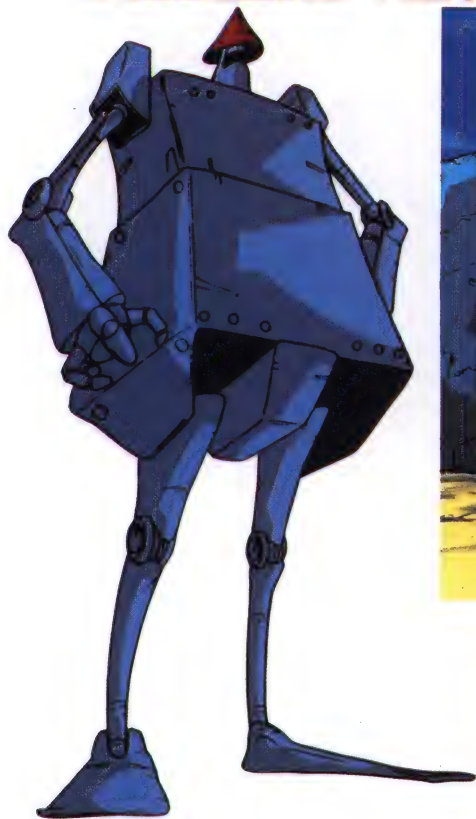
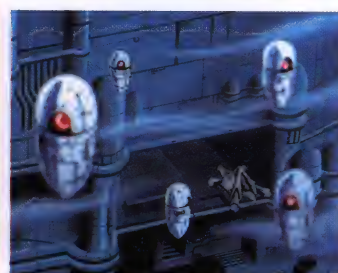
⑥宙に舞う陽子のエアバイク。

④ふり落とされそうになる陽子。

③ロボットは，攻撃ポッドを破壊する。

②巨大なロボットの頭にしがみつく。

①爆風で，バイクからふり落とされる。

⑦ロボットを追いかける陽子たち。

⑥敵がひきあげていく。

⑤しがみつくが，ついに‥‥。

⑨「レダの戦士？」

⑧空にうかぶ無数のメカ群。

ヨニ

ポッドの攻撃をうけ、崖から落ちた二人だが、なんとか地上の三角屋根に着陸した。だが、それは屋根ではなく、巨大ロボットの頭部だった。攻撃ポッドは巨大ロボットによって撃退された。ロボットを操縦していたのは、なんと女の子で、レダの巫女、ヨニと名のった。リンガムとヨニの話によると、かつてはレダの神学者であったゼルが、無限の力をもつ浮遊城ガルバを使い、アシャンティとノアを征服しようとしているという。

浮遊城ガルバ

そのとき、三人のまえに、天空をゆるがせて超巨大な浮遊城ガルバが出現した。戦いの時はせまっている。二人の話から、陽子は、レダパワーの秘密が、あのヘッドホンステレオに秘めた曲にあると知った。一人の少年への熱い思いをこめた曲。それにレダの発した信号が共鳴し、陽子を戦士に変えたのだ。そして、ガルバ城内では、ゼルもこのことに気づいていた。

②「いま，世界の運命は，レダのパワーとともに，あなたの中にあるのよ。」

①「ねえ，あたしがレダの戦士って，どういうこと？」

Fantastic Adventure of Yohko

③ロボットは神殿地下へかくれる。

④「ゼルたちが裏切って‥‥。」

⑤ゼルの野望をきいておどろく陽子。

⑧玉座にのぼる陽子。

⑦「おねがい。このいすにすわって。」

⑥少年のことを思いだす‥‥。

⑨後ろの壁が，ゆっくりと開いていく。

Fantastic Adventure of Yohko

レダの神殿

ゼルをたおすものは、もはや、レダの戦士しかいない。その力を得るべく、三人はレダ神殿の遺跡へとむかった。

神殿の奥深く、翼の壁画のまえにもうけられた玉座へ、ヨニは陽子を導いた。玉座にすわる陽子。と、戦士の到来を察知してか、すさまじい音とともに壁が割れ、巨大な飛行メカ、ウイングが姿を現した。玉座は、そのままコクピットとなる。自分の使命に気がついた陽子が操縦桿をにぎると、ウイングは鎧武者、アーマーに変わった。

レダの鎧

「レダの翼羽ばたくとき、レダの鎧、力の門をくぐり、戦士を守るべし。レダの鎧だあ！」

ヨニが叫んだ。

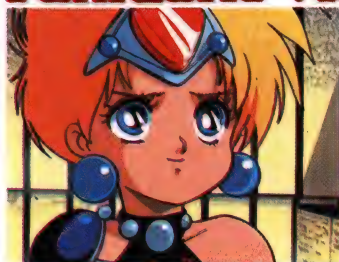
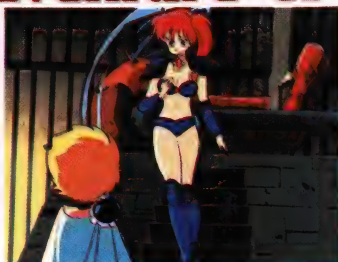
一方、ガルバでは、悪の化身ゼルが、カセットの曲にひそむレダパワーを身につけようとしていた。これができぬかぎり、二つの世界の征服など、とうていおぼつかない。しかし、試みは失敗した。

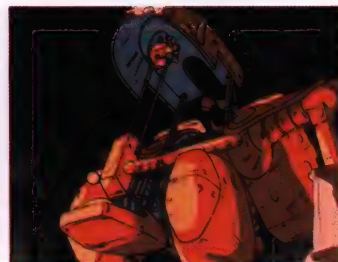
「レダパワーをコントロールできる、レダの戦士を捕らえるのだ！」

美しい目が妖しく光り、攻撃ポッドが陽子を求めて、神殿に急降下していく。

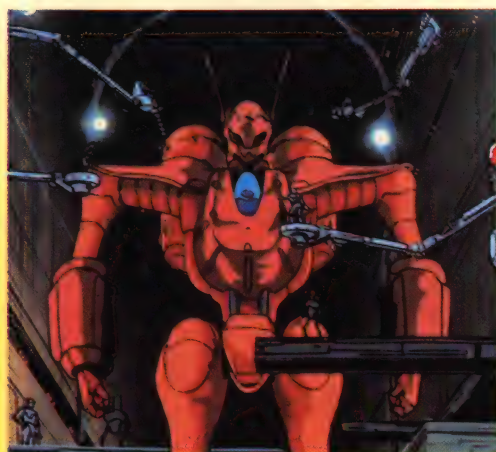
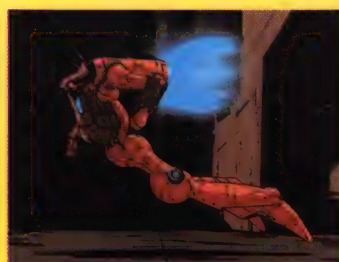
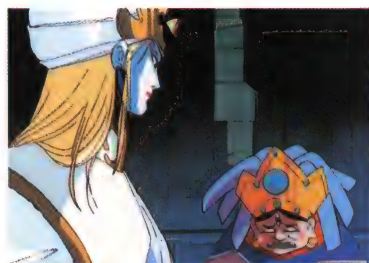
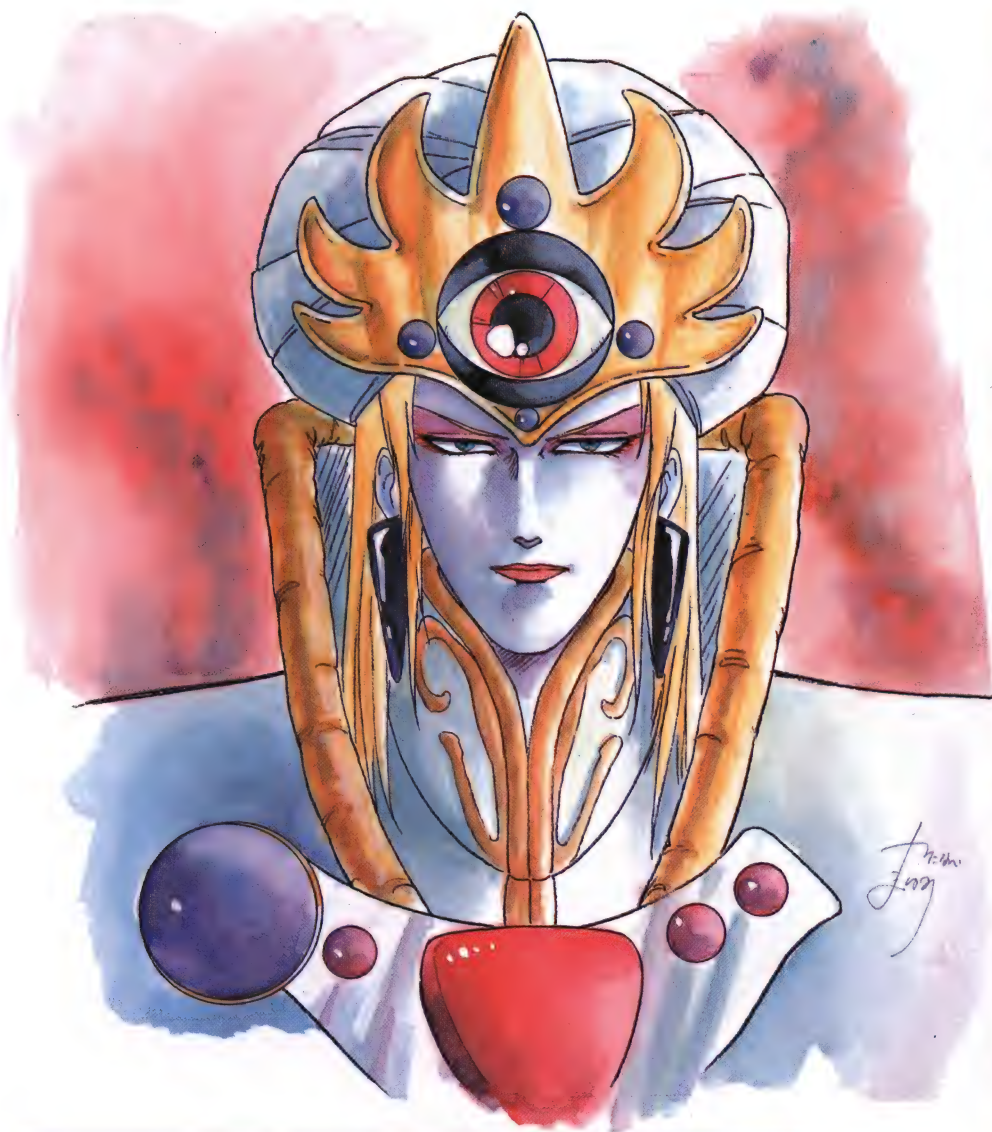
①振動が，陽子にも伝わる。

②「やったあ。これが，レダの翼だ。」

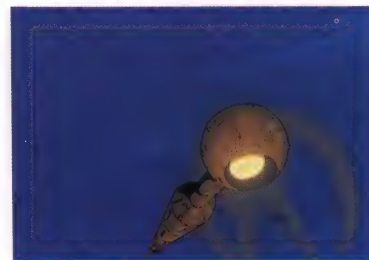
Fantastic Adventure of Yohko

⑥陽子の決心に，よろこぶヨニ。

⑤「あたし，レダのハート，とりもどす。」

④なにがおきたのかわからぬ陽子。

③レダの翼が変形をはじめる。

⑦「そして，かならず，自分の世界へ帰るわ。」

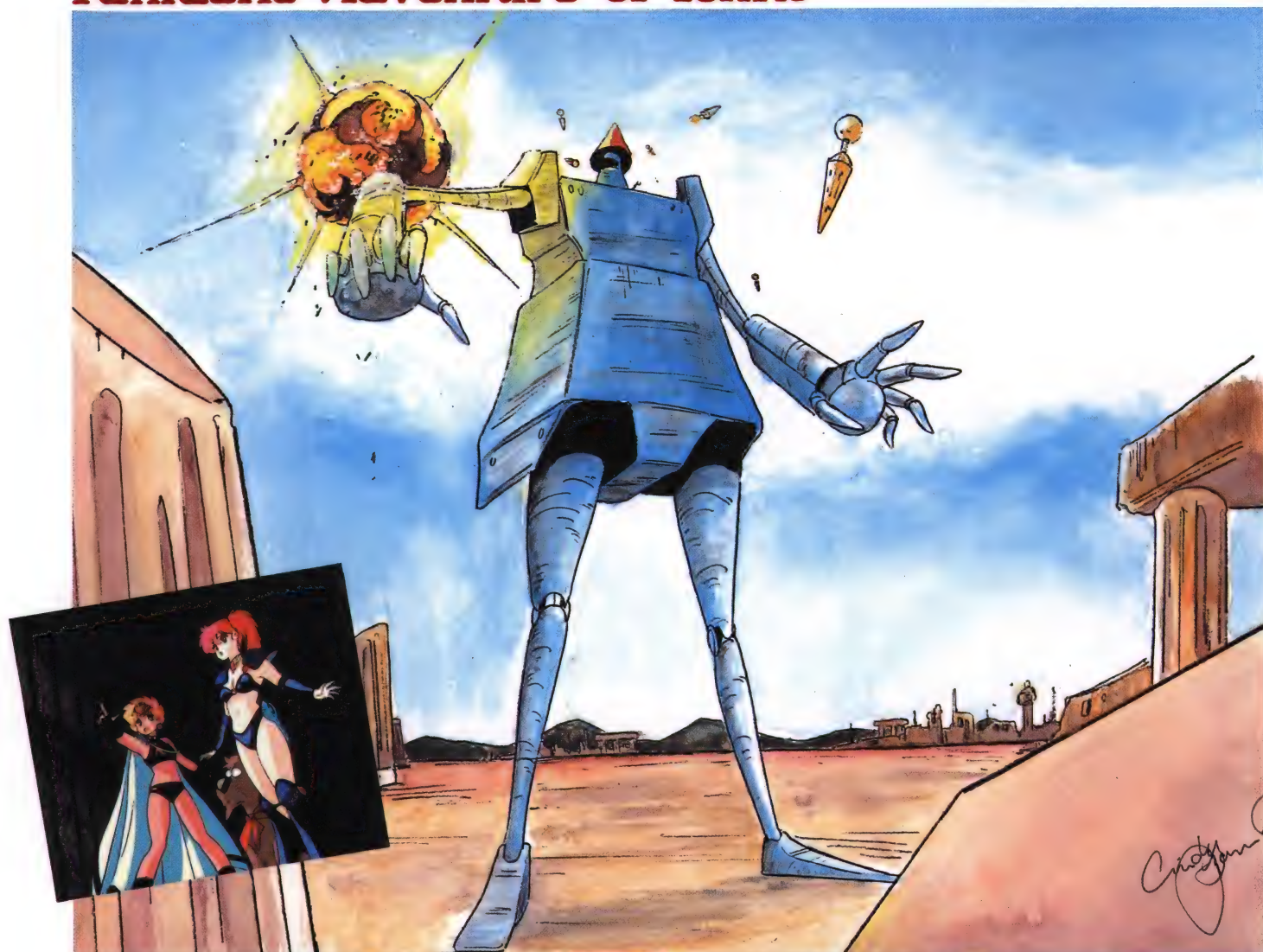
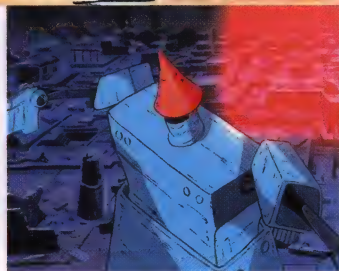
レダの翼

←—レダの翼から鎧への変形プロセス

①「ゼル様のお力を疑うわけでは‥‥。」

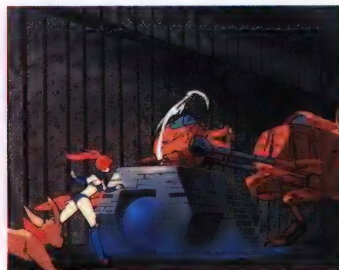
②「レダの戦士か。」

③陽子たちを探しに，ポッドが飛びたつ。

ゼルの野望

迎え撃つヨニの巨大ロボット。怪力をふるい、つぎつぎにポッドを撃墜するものの、空を飛べぬかなしさ、ミサイルを全身にあびて、はちの巣になってしまった。

陽子は、レダの翼で出動した。空中でウイングをアーマーにチェンジし、おしよせるポッドを鉄腕でたたきふせる。巨大ロボットを助けるため、あと少しのところまで近づいたとき‥‥。

Fantastic Adventure of Yohko

⑧全速力で地上へむかう。

⑥攻撃ポッドをたたき落とす。

④敵襲に，ロボットへ走るヨニ。

⑦レダの翼に急ぐ陽子。

⑤急いで出動させる。

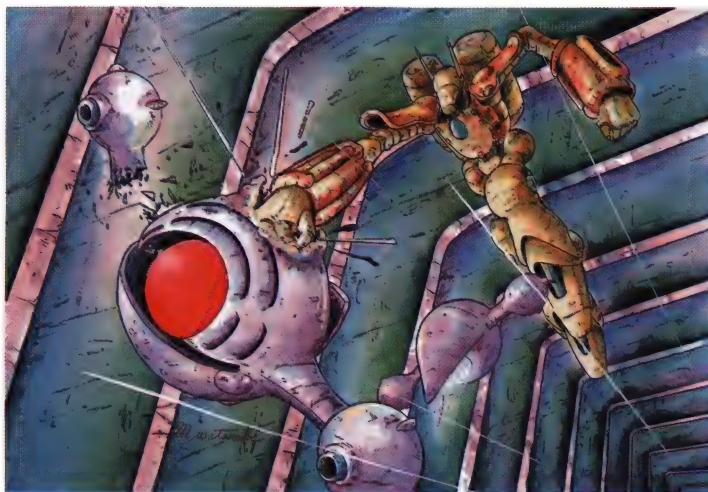
反撃

巨大ロボットが崩壊した。地響きをたててくずおれる巨体。だが、ヨニはぶじだった。コクピットが飛行体となり、宙にうかんだ。

「ようし、みてらっしゃい。」

いまや、完全にレダの戦士と化した陽子の操縦で、ウイングは縦横無尽に飛び、たちまちポッドを全滅させた。

いよいよ、敵の本拠になぐりこみだ。

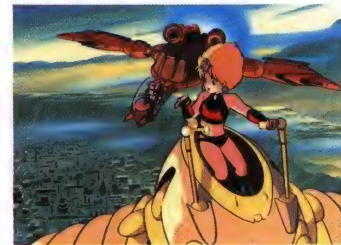
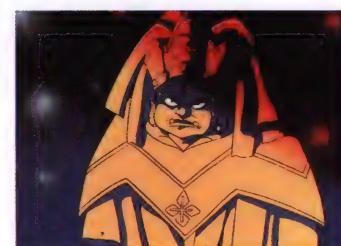
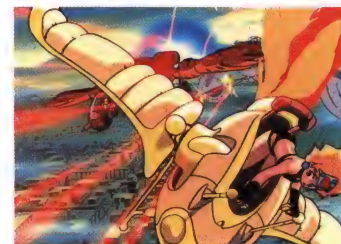
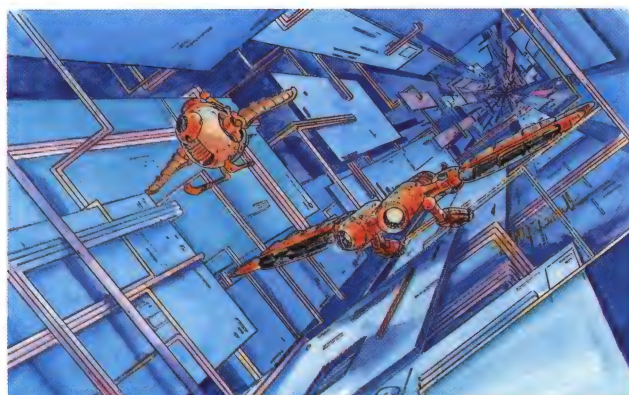
不思議なことに、なんの攻撃もなく、三人はガルバにはいりこんだ。城内の大カタパルトに降下する三人。その奥の広間には、豪華な食事と――ゼルが待っていた。

③炎に包まれていく。

④くずれ落ちる巨大ロボット。

①巨大ロボットに迫る攻撃ポッド。

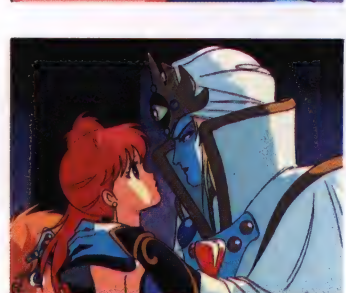
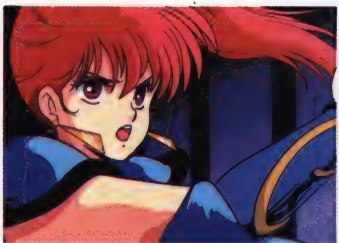
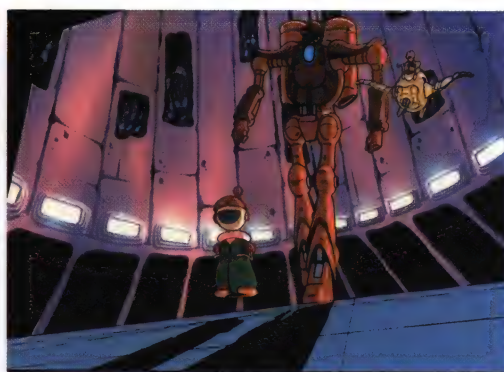
②ミサイルが，巨大ロボットに命中。

Fantastic Adventure of Yohko

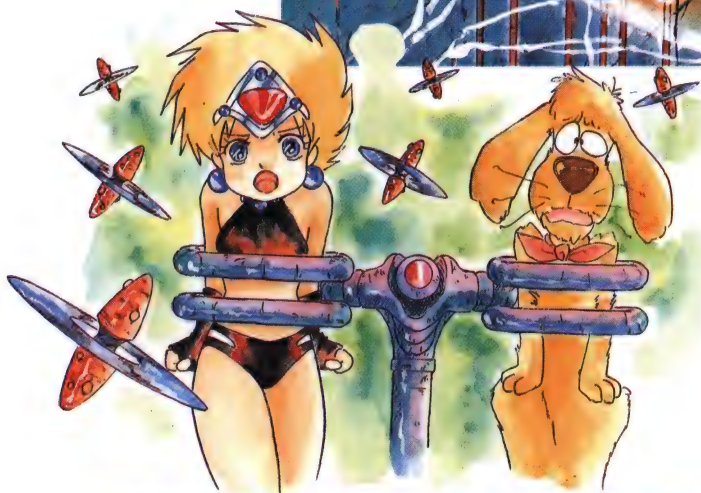
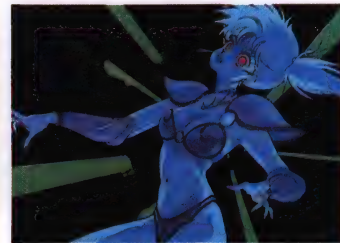
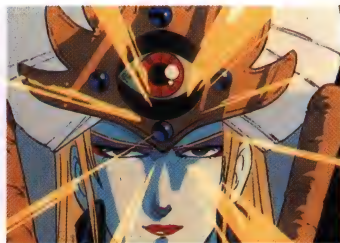
⑤ヨニは小型ポッドで脱出。

⑥レダの翼と合流，ガルバにむかう。

⑦ゼルは，なにをたくらむ？

①ゼルと対峙する陽子,ヨニ,リンガム。

②バリヤーにはじき飛ばされるヨニ。

③必死に叫ぶヨニだが‥‥。

④剣をかまえる陽子。

⑤「もっと優しくしてほしかったな。」

Fantastic Adventure of Yohko

危機

「レダのハートは、ここにある。」
さしだされたヘッドホンステレオに近よった陽子の背後にバリヤーがはられ、ヨニとリンガムはあっさり捕らえられた。剣をぬく陽子に、ゼルは語りかける。
「君は、心の傷つかぬ世界へくることを望んでいた。わたしたちは、愛しあえるはずだ。」
ゼルの額の宝石に瞳をうたれ、陽子は深い眠りに沈んだ。

⑦陽子の身を心配するヨニ。

⑥ゼルの幻覚に落ちる陽子。

①「彼女は，いま，夢の中だ。」

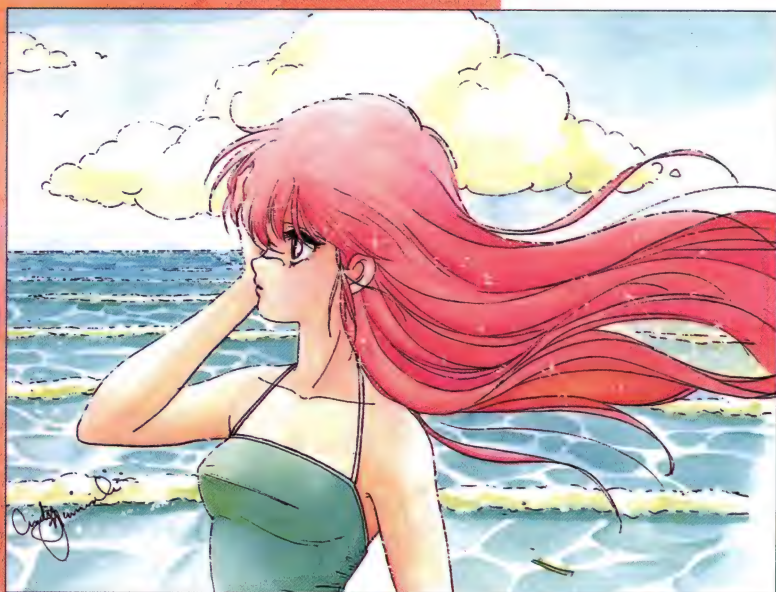
②夢の中で，陽子はプールサイドに。

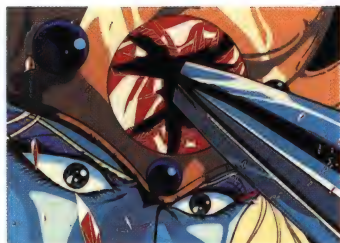
③そばには，あの少年も。

逆転

光ファイバーで包まれた陽子は、意識下でゼルの力と戦っていた。

好きな少年と歩む青い海辺。愛をかわす唇。だが——ついに、陽子は気づいた。これは、ゼルがつくった夢の世界だ。

光ファイバーが火花をふき、ガルバは、みるみる火に包まれる。もはやこれまでと、陽子に切りかかるゼル。だが、一瞬、陽子の剣が、ゼルの額の宝石をつらぬいた。

④ゼルの幻覚からさめる陽子。

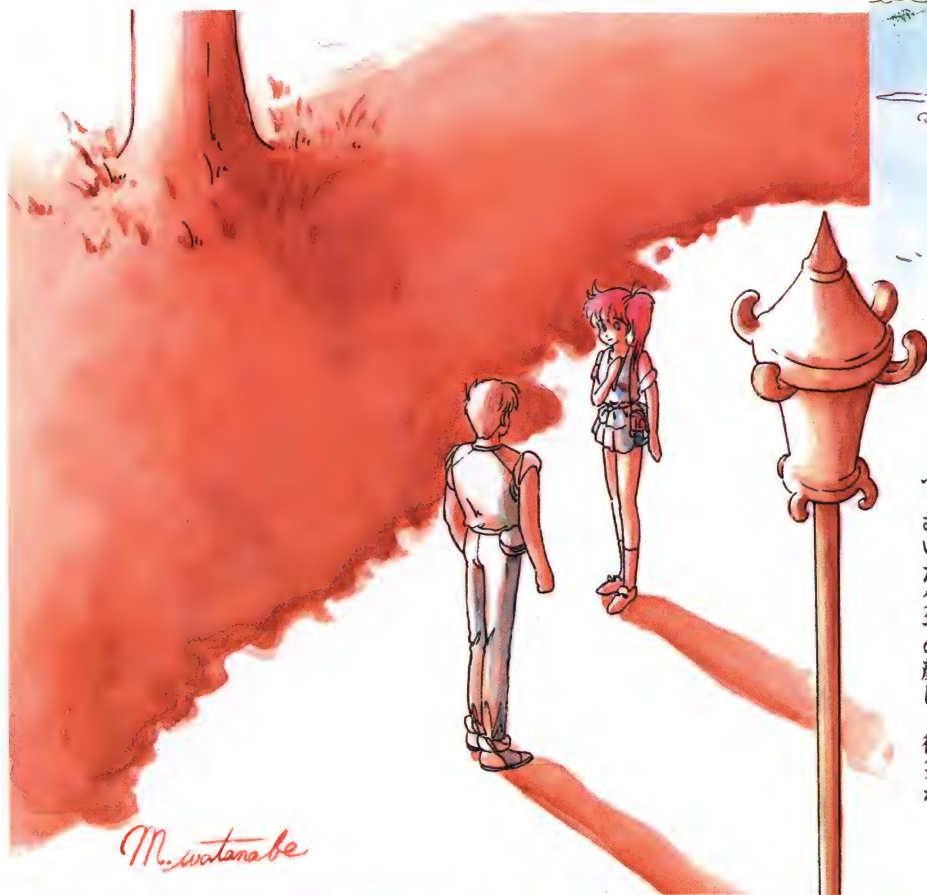
Fantastic Adventure of Yohko

⑤攻撃メカをつぎつぎに切りすてる。

⑥陽子の剣が，ゼルの額に。

⑦奈落の底に落ちていくゼル。

⑨陽子は，ノアの世界へもどっていく。

⑧ついに，ガルバは破壊された。

Fantastic Adventure of Yohko

ふたたびノアへ

すべては終わった。ヨニとリンガムに別れをつげ、陽子はヘッドホンステレオのスイッチを入れた。光と、美しい曲が交錯し、気がつくと、あの並木道にいた。

ふりむくと、少年は歩み去ろうとしている。陽子の心が、決まった。強くなった、と思った。少年にむかって走る。走る。

ふりむいた少年の顔に、微笑が。

STAFF TITLE

Novel 幻夢戦記 レダ

ファンタジー・アドベンチャー・オブ・ヨーコ

菊地秀行
HIDEYUKI KIKUCHI

1

白い陽射しの落ちる並木道を、陽子は一人で歩いていた。

いや、ある調べがいっしょだった。小さなヘッドホンからこぼれるそれは、もの哀しい枯れ葉に舞いあがる力をあたえ、陽子には勇気を授けてくれるはずだった。美しいピアノ曲をつくるために、陽子は一年と五か月をかけたのである。

「きょうこそ、あの男に。」

それが、一年五か月の思いであった。

光の生んだかげろうのように、道のむこうから一人の少年が現れた。

陽子は近づき、やがて、すれちがった。

男らしい横顔は、陽子のほうをむくこともなくとおりすぎた。

「また、いえなかった。たったひと言、口にすればよかったのに……。」

何万回、胸のなかでくりかえしても、声にならないことばは無意味だ。

陽子は哀しげにうつむき、光の道を歩いていった。

その姿が、ふっと消えた。

「きゃ〜〜っ。」

小さな叫びに少年がふりむいたとき、ついさっきすれちがったばかりの少女は、白い光に溶けた妖精のようにかき消えていた。

不可思議な空間へ落ちた陽子をめがけて、ぞっとするほど美しい青年が右手をさしのばしてきた。

「待っていたよ。わたしはゼル。さ、レダのハートをわたすんだ。」

美しさの陰に潜む邪悪なかがやきと、悪魔のような手に、陽子が悲鳴をあげたとたん、白い光が彼女を包んだ。ゼルの手は虚しく空をつかみ、陽子は消えていた。

「逃げたか――!? くそ。追え。レダのハートは、確実にこちらの世界へひきこんだ。かならず手に入れるのだ！」

陽子が倒れているのは、奇妙な森の中であった。

おかしな住人が、あちこちをうろついている。珍奇な声で鳴くイタチモドキ、水にとびこむカエルモドキ、信じられないくらい美しい模様をもった蝶の群れ。

異次元の世界である。

はじけとんで根をおろす花の音が響き、陽子はやっと気がついた。

「ここは、どこ？ いまは、いつ？ わたしは……？」

ぼんやりと立ちあがり、耳からヘッドホンをはずして、腰のカセットにひっかけた。

そのとき、目のまえを蝶の群れが横切り、陽子は思わず足をとめた。ふっと後ろをふりむく。くさび形の細長いメカが、空中に浮いていた。森の中を監視する偵察ポッドだ。ふわふわと近づいてくる。

気味がわるくなって、陽子は夢中で走りだした。

突然、地面がもちあがった。なんと、それは巨大な亀の背中だったのだ。

目のまえにきた木の枝にとびついて亀をやりすごし、陽子は大急ぎで地面へとびおりた。

ヘッドホンステレオがずり落ち、みえなくなってしまった。

やむをえない。

こんな世界で、あれをなくしたら、心細くてたまらない。それに、あれには、陽子が一年五か月の思いをこめてつくった曲がはいっているのだ。

「ヘッドホンステレオを……あの男にささげる曲が……。」

2

「落とし物じゃよ、お嬢さん。」
なんと、ヘッドホンステレオをくわえて現れたのは、口をきく犬だった。
「あっ、どうもありがと。」
「礼にはおよばん。親切はわしのモットー。名まえはリンガムじゃ。」
「ええと、わたし、朝霧陽子。ふつうの女子高生。」
「ジョシコオセ？ なんじゃ、それは？」
陽子は並木道での事件を話した。だまってきいていたリンガムは、陽子を空がみわたせる崖の上へつれていった。巨大な蜃気楼が空に浮かんでいる。
「あれは…東京の街？」
リンガムの説明によると、その蜃気楼は「封印された世界〝ノア〟」であり、ここは「アシャンティ」という世界だった。二つの世界はもともと一つであり、ノアの蜃気楼が出現するとき、次元の道ができるという。
わけがわからず、陽子はヘッドホンステレオのスイッチを入れた。
あの甘い調べが流れだす。つぎの瞬間、陽子はあの並木道に立っていた。
「帰ってこられたんだ！」
「おいおい、なんとかしてくれ。」
ふりむいた目のまえに、空中に浮かぶリンガムの顔があった。悲鳴とともに、陽子のからだははねとばされた。
気がつくと、アシャンティの森の中にいた。
「わしの経験と知性と教養から考えるに、その機械が次元の道に、なんらかのかかわりをもっているのではないか？ もう一度、動かしてみんしゃい。」
リンガムにはげまされ、しぶしぶながら、陽子はスイッチに手をのばした。
その刹那、ウォーリアの触手がのび、ヘッドホンステレオを奪いとっていった。

ふりむいた陽子の目に、馬のようなステードに乗ったウォーリアがうつった。そして、偵察ポッドが。逃げようとしても、行く手はたちまちふさがれた。敵は空を飛べるのだ！
ビュッと、かまのような武器で攻撃され、かろうじて身をかわした陽子は、かたわらの巨大な花の中へ落ちた。
「きゃあっ……。」
花びらに包まれた声は、すぐにとぎれた。花は食肉植物だったのである。
「ジョシコオセ！」
叫ぶリンガムのしっぽを、ウォーリアの邪悪な手がつかみあげた。
「ふふふ、つぎはおまえだ。」
ゼルの兵士の一人が、先刻、リンガムがとびかかったさいにとり落としたヘッドホンステレオをひろいあげた。はずみで、ボリュームが最大になる。美しいピアノの調べが流れはじめた。いとしいもののために、一人の少女が心をこめてつくった愛の調べ……。
そこに、いかなる神秘がかくされていたものか、陽子を胃の中におさめ、天高く舞いあがっていた花は、世にも美しい光を放ちだしたのである。
「なんだ、この反応は？」
「解読してみます。」
兵士の一人が手にした解読機のランプは、はげしく点滅した。はじめてみる、不思議な現象であった。
「こ、これは、強力なレダパワー！」
「なにっ！」
愕然とみあげるウォーリアと兵士たちの顔を、光はまばゆく照らした。
驚愕する邪悪なものたちの中にあって、ただ一つ、リンガムの顔だけが歓喜にみちていた。夢多きおとぎ話が目のまえで現実となるのをみつめる幼子のように、リンガムだけは光の意味を知っていたのである。
陽子は、いったい、どうなったのか？

音もなく、花は四方にはじけ、光芒は人の形をとって、いならぶものたちの目をひいた。陽子である。しかし、姿形はそのままに、天空の高みより彼らをみおろす、その双眸の強さと美しさよ。
全身を、金属とも皮ともつかぬ鎧がおおい、腰の長剣が、人なつこい童顔を、戦うものの、たくましいそれに変えた。
美の女神が海の泡から生まれるように、これは光の申し子——女戦士の誕生であった。
陽子にも、自身になにが生じたのかはわからなかった。理解できるのはただ一つ、全身にみなぎる熱いパワーだけであった。
「強くなったみたい。どんな悪者にも負けないくらい強く。」
いきなり、ウォーリアが、身をかがめざま跳躍した。戦闘開始！
そいつのからだをとび箱の要領でとびこえ、陽子は地上に着地した。
どっと、ウォーリアが迫る。行動におくれはない。さすが、ゼルの部下だ。だが、陽子はすでに陽子ではなかった。わけのわからぬまま、戦いの術は、その遺伝子にまでたたきこまれていたのだ。
右手が長剣にかかった。それは奇跡のようであった。ただの女子高生の身ごなしは、ウォーリアの剣をあざやかにかわし、ほとばしる長剣一過、ウォーリアたちの金属ボディーはまっぷたつに切断されていた。陽子が剣をふるうたび、敵の数は確実に少なくなっていった。
リンガムを放し、生き残った三人の兵士は、ほうほうのていで逃げ去った。
「すごいぞ、ジョシコオセ！」
「ええっ、うそーっ！」
戦果をたしかめるひまもなく、陽子はこちらをみつめる偵察ポッドに気づいた。一気にかけより、剣でなぐ。両断されたポッドの頭部は、空中へ舞いあがり、光の球と化した。

3

一方、ガルバ城では、側近チザムからウォーリア全滅の連絡を受けたゼルが、緊張のおもちでつぶやいていた。

「伝説――まさか……レダの戦士が。」

ウォーリアの残したステードに乗って、森の中を疾走しながら、陽子はリンガムから、とある伝説をきかされていた。

レダの伝説と呼ばれるそれは、かつてこの世に降臨した全宇宙を支配する女神レダが、争いの絶えぬ世をみすてて立ち去ったあと、この世界の悪が別の世におよぼうとするとき、戦士の姿を借りてふたたび現れるというものであった。

「だけど、わたしは、ふつうの女の子よ。」

「ふつうの女の子は、ウォーリアをやっつけたりはできん。」

「でも、レダさんとわたしを結びつけるものって、なにもないはずよ！」

みずからの運命と姿に、まだ半信半疑の陽子へ、リンガムは物知り顔で、

「わしの経験と知性からいわせてもらえば、あのヘッドホンステレオじゃよ！　あれが不思議な音を発するとき、なにかがおこる。」

陽子の目がきらりと光った。

前方を、さっきの兵士たちが逃げていく。問題のヘッドホンステレオは彼らの手にあるのだ。

あっというまに、陽子は追いついた。

「かえしてよ。わたしのヘッドホンステレオなんだからあ。」

もちろん、かえしてくれるわけがない。猛スピードで追いつ追われつ、四機は岩山へ突入した。せまい谷間をぐんぐんとばすスピード感に、陽子は会心の笑みを浮かべた。

不意に兵士の乗った一機が後方へまわり、猛烈な機銃掃射をかけてきた。左右を走る火花と砂煙。

前方から迫る岩壁へステードの足をかけて、陽子は後方へジャンプし、兵士の後ろをとった。ガツンと足でけりとばす。

兵士は岩壁へ激突し、炎に包まれた。

「おみごと、ジョシコオセ！」

「ようこってよんで。」

残る二人の兵士は、岩山にあいた洞窟へ逃げこみ、陽子もあとを追った。

前方に、出口らしい明かりがみえた。飛びだす二機のステード。一万メートルの大岩壁だ。

はるか下方に、巨大なゼルの救援機が滞空し、兵士たちは、たちまちこの内部へのみこまれた。負けじと陽子は翼の上へおりたが、すさまじい風圧ではねとばされてしまう。

追い打ちをかけるように、救援機から攻撃ポッドが発進した。

耳もとで風がうなった。

落ちていく！　陽子の頭に、こっぱみじんにくだける自分とリンガムのイメージが浮かんだ。

間一髪でステードの逆噴射。それでも馬力がたらず、急坂をころげ落ちていく。二人は空中に投げだされた。

「うひゃあーっ！」

そろって恐怖の叫びをあげる二人の目のまえに、巨大な三角屋根が突きだした。

地響きをたて、動きだす。その巨大なからだと金属の肌――ロボットだ！　攻撃ポッドが方向を転じて襲いかかる。ロボットとは敵同士であった。巨大な手の中にポッドが吸いこまれ、ぐいと指がとじるや、すさまじい爆発光が指のあいだからほとばしる。あたりは黄金に染まった。四方から攻撃するポッドも、巨人には蚊とんぼにすぎなかった。

両腕が空気をさき、指がとじるたびに、爆音と火炎がふきあがる。ポッドはみるみる少なくなっていった。

陽子とリンガムの運命は、いかに？

あまりの激しい動きに、陽子とリンガムは耐えきれず、三角屋根――ロボットの頭部からはねとばされてしまった。

二度めの地獄行き……。

「もう、だめえ！」

「わしにつかまれ！」

いわれたとおりにしたとたん、リンガムの耳が、ぱっと左右に開いた。即製パラシュートだ。とにかく、ぶじ、軟着陸に成功したから、文句はいえない。

「福耳でよかったね!?」

ようやくそういったとき、生き残りのポッドを収容した迎撃機を追って、崖のかなたへと歩みだすロボットの姿がうつった。器用に崖を登っていく。その後ろにつづいて登りきった二人のまえに、すさまじい光景が出現したのだ。

たれこめた雲の切れめにのぞく、巨大なカタパルト。いるのだ。雲の中に、なにかとほうもなく巨大なものが……。

「あれは……？」

つぶやく陽子へ、

「ついに、よみがえらせてしもうたか。」

リンガムが重い声でつぶやいた。

問いかえそうとしたそのとき……。

ごうごうと吹く風に雲がちぎれ、巨大なものは、その全貌を二人の眼前にさらした。天地を震撼させる、そのすさまじい咆哮――浮遊城「ガルバ」だ！

茫然とたたずむ二人のまえに、ロボットのはしごを伝わって、レダの巫女ヨニがおりたった。彼女は、ノアの世界を救う仲間を探し求めていたのだ。たちまち意気投合する三人。陽子は、リンガムがレダ教最高の神学者と知って驚き、ポッドと浮遊城をあやつる敵も、もと神学者ゼルと知った。アシャンティの心臓ともいうべき、超エネルギーをもつガルバ。ゼルはそれを使って、ノアの世界侵略をたくらんでいたのだ。

4

一方、ガルバの王室では、ゼルと側近のチザムが、陽子から奪いとったヘッドホンステレオをみつめていた。

「この磁性体中に記憶された音声パターンが、レダのパワーをひきだす鍵か！」

それをコントロールすることが、音声パターンに感応する力をもつもののみに可能と知ったとき、ゼルは、みずから実験台となる決意をかためた。ああ、ガルバの力は、いま、完璧になろうとしている。

くちはてた神殿の廃墟へはいっていくロボットの内部で、陽子は、テープの内容を二人の仲間に説明していた。

西陽があわい人影を床に落とす放課後の教室で、陽子はじっとグラウンドの少年をみつめていたのだった。多感な乙女がかならずかみしめる、青春のあまく哀しい思い……。

「告白しちゃえ、と思ったの。その結果が、ヘッドホンステレオの中の音楽――わたしの作曲した愛の曲よ。」

ヨニの目が、らんらんとかがやいた。

「レダのハートって、きっと音の組み合わせなのよ！」

「それで、音楽を楽しむ習慣のないこの世界では、レダのハートが発見できなかったのか。」

レダが助けを求めた信号に、陽子が感応して曲をつくり、ゼルはそれに気づいたのだ。

リンガムは青ざめていた。

「儀式を急げ！ アシャンティを救うのは、もう、レダの戦士しかおらん！」

ロボットはやがて立ちどまり、一本の柱を押した。太古のしかけが、なお生き残っていたものか、眼前の池にみちた水はみるみる姿を消し、巨大な踏み石が現れたのである。ロボットがそれに乗るや、石はぐんぐんと降下し、池ではふたたび水が光をはねかえした。

「ほんとうに、わたしがレダの戦士？」

「すべては明らかになります。」

池の底には、奇妙な壁画にかこまれた巨大な空間がひろがっていた。

そのはるか奥に、祭壇らしきものがある。

ロボットからおりた三人は、無言で進んだ。

「ことわりきれない性格なのよね……。」

つぶやく陽子のからだを、突如、壁画の宝石から飛来した緑の光線がつらぬいた。

「ああっ。」緑色の炎に包まれながらも、陽子の声に苦痛の色はない。燃えつきて地に落ちたのは、不潔な布きれだけだった。炎は優雅な鎧とかわり、愕然とみつめるヨニとリンガムのまえで、陽子は変身をとげた。レダの戦士へと――。

「玉座について。」と、ヨニがうつろな声でいった。

ヨニのことばにしたがったとたん、背後の壁がにぶい音をたてて開きはじめた。出現する美しいウイングタイプの飛行メカ――レダの翼。

玉座はコクピットと化して、ウイングと結合した。

「レダの戦士、きたりてここへ座すとき、力の門は開かれ、レダの翼は天に羽ばたく。」

ヨニとリンガムの声が流れた。

不思議な確信にみちて、陽子が操縦桿をにぎる。

と、ウイングタイプのレダ翼は、みるみるアーマータイプのメカに変形していった。

「レ、レダの鎧よォ！」

ヨニの声を冷たくはねかえす、その鋼鉄の戦士のたくましさ。

陽子はついに、みずからの使命を確信した。それは、壮絶な戦いに挑む、悲愴な決意でもあった。

操縦桿を操作すると、アーマーはふたたびウイングへもどった。

「わたし、レダのハートをとりもどして、ノア……いや、わたしの世界へもどるわ！」

5

ゼルは、苦痛のきわみにあった。全身から周囲の計器につないだ光ファイバーが火をふく。ヘッドホンステレオからレダパワーをとりだす試みは、失敗に終わったのである。

「耐えられん――思いが……ノアへの思いがたりないのか……。」

美しい顔に苦渋がみちた。

「人間が神の力を利用しようなどとは、やはり、だいそれた行いなのかも……。」

ゼルの腹心、チザムの顔にも、脂汗がうかんでいる。

「そうだ。レダパワーをコントロールできるものが一人おる。ノアの戦士だ――ノアの娘をさがしだして、つれてこい！」

ついに、ゼルは気づいた。その叫びに応じて、偵察ポッドがつぎつぎと浮遊城ガルバを飛びたっていく。

そのうちの二機が、神殿の上空に現れた。サーチライトが池の周囲を照らし、ついに気づいたか、つぎつぎとミサイルを撃ちこむ。すさまじい火花と轟音。

地下広場の天井に穴があき、水がほとばしった。

「ゼルよ。みつかったのよ！」

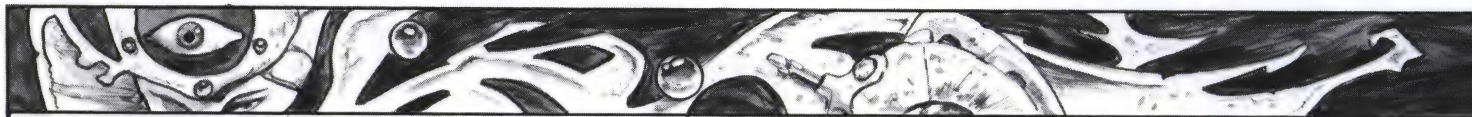
ヨニのことばと同時に、二人はコクピットへ身を躍らせた。

ヨニは巨大ロボット、陽子とリンガムはウイングへ。

出動！ ぐいとひざを曲げ、一気に跳躍するロボット。その巨大な頭部に、集まってきた偵察ポッドの一機がぶつかり、火をふく。戦いのはじまりであった。

「わたしもいくわよ！」

陽子の手が操縦桿にさわると同時に、パネル中央のガラス球に光が走った。

ウイングは、神殿地下の幅広い廊下を滑空していく。

前方に戦闘ポッド。ウイングはアーマーへと変形した。機関砲の火線をはねかえし、豪腕をふるう。ポッドは、はえのようにたたき落とされた。

神殿を飛びだし、急上昇に移る。広い空間では、飛行スタイルのほうが有利だ。

アーマーはふたたびウイングに変じた。その優美なチェンジング！

殺到するポッドの攻撃を、陽子はたくみに避けた。むこうの世界では想像もつかぬ運動神経だ。血がたけっている。燃えている。女戦士にふさわしく。

「いくわよォ！」

すさまじい機関砲の猛攻に、ポッドはつぎつぎと撃墜されていく。レダの戦士は無敵なのだ！

地上では、ヨニが苦戦中であった。敵の数が多すぎるのである。空を飛べぬロボットにとって、不利な戦いだった。ミサイルが命中し、ひびがはいった。

装甲が破壊され、巨大な歯車やチェーンが地上に落ちる。

「ヨニがあぶない！」

「むこうの数が多すぎるんじゃ。いかん！」

ウイングは救援にむかうが、ポッドがじゃまをする。ついに、巨大ロボットは倒れた。

青ざめる陽子。

だが――ヨニのコクピットは、飛行艇バッグと化して宙に浮いたのだ。

「よかった！　どうしようかと思っちゃった！」

陽子の安堵にこたえるかのように、ウイングとバッグは、たちまちポッドを撃墜していった。白煙をひいて、神殿のかなたへ降下するポッド。その爆発は、邪悪なものの断末魔を告げているようだ。

「レダの翼です。あの娘……まちがいなく、レダの戦士で……。」

チザムのことばに、あやしく笑うゼル。

「よし、でむかえの準備だ。」

「はっ、しかし、レダの戦士を利用するといっても……どのようにして……？」

「ぬすむのだ。レダの戦士の心をな。」

悪計を感づかれてはまずいと、ゼルはさらに激しい攻撃を命じた。

浮遊城の出撃口から、奇怪な形状の戦闘機が飛びだし、見張り塔も下降していく。

シャワーのような火線が、ウイングとバッグを襲った。微笑さえ浮かべて相対する陽子とヨニ。

世界は炎と閃光に包まれていた。

二つの戦闘艇が無傷なのは、奇跡にちかい。ばつぐんの反射神経と、超メカニズムのなせるわざだ。敵戦闘機のメカがすべて電子装置を採用しているのに対し、ウイングとバッグは光メカ、すなわち光のスピードで作動する装置類を使っているのである。

飛行速度は、機関銃やミサイルをしのぐのだ。

「二手にわかれてかたづけよう！」

陽子の叫びに、ヨニは分離した。雨あられとふりそそぐ火線をたくみに避けて、戦闘機群へつっこむ。左右から接近する敵の二機。間一髪でそのあいだをすりぬけると、勢いあまって敵同士が激突した！

「やったあ。ようし、わたしも！」

「上から敵じゃ、ジョシコオセ。」

リンガムは、頭上に迫る戦闘機を発見した。周囲にきらめく閃光と黒煙。コクピットが激しくゆれる。陽子は一気に高度をさげて、運河へはいった。逃げるとみたか、敵も追いすがってくる。急上昇！　何機かは地上に激突し、くだけちった。

見張り塔の砲門も開いた。コクピットのまわりを白光が包む。陽子はおそれなかった。追撃する戦闘機などに目もくれず、見張り塔へ迫る。機関砲の発射ボタンを押す。光点が見張り塔へあたり、無数の穴をうがった。

視界いっぱいにひろがる見張り塔の外装。ぶつかる！

と思った刹那、塔は紅蓮の炎に包まれて四散し、ウイングは炎をつき破って青空の下に飛びだした。猛スピードのせいで、炎と煙の一部がついてくる。

一気に急降下。戦闘機をふりきり、かわいた運河へ突入する。コクピットの左右を、運河の壁がすっとんでいく。猛烈な速さだ。

上空から火線。

「敵だ。二機おるぞ！」

「まっかしといて！」

すさまじい勢いで運河にそってまがるウイング。まったくスピードを落とさない。原子がそのまま分子を構成する絶対金属の機体と、慣性コントローラーの成果だ。方向転換のさい、一方向に消費されるエネルギーがスムーズに別方向へ移動し、機体に負荷がかからないのである。

敵戦闘機は、そうはいかなかった。まがるときは、どうしてもスピードを落とさねばならない。

陽子は、わざと速度をダウンさせた。うまくひっかかり、全速で襲いくる敵。機関砲の射程圏内へはいる寸前、陽子は上昇し、コーナーをまがった。

「うわあっ！」

勢いあまって壁面に激突する戦闘機の炎。

攻撃は、ぴたりとやんだ。

「ん、攻撃してこんぞ。」

「レダの翼をみて、おじけづいたんじゃない？」

ウイングとバッグは、浮遊城へと上昇を開始した。攻撃は、いっさいなし。不気味な沈黙に包まれるうちに、巨大な入り口が近づいてくる。

城内は、巨大な中空都市であった。二機はその中心へ、ひきつけられるように降下していく。

6

「こりゃあ、地面にひっぱられる力が、城の中心に集まっているんじゃな。」
「城を浮かせる装置のせいね。」
ヨニとリンガムの会話も、陽子にはちんぷんかんぷんだ。
やがて、はるか下方に、巨大な怪物の口のような出入口が見えた。地下カタパルトである。
「ヨニ、あそこ、入り口じゃないかしら?」
「らしいわね。――いく、ヨウコ?」
ちょっぴり不安だったが、陽子はきっぱりとうなずいた。
「ここまできて、ひきかえす手はないわ!」
ウイングとバッグは、急降下に移った。
やがて、二機は、巨大な地下のカタパルトに着陸した。ウイングはみるみるアーマーに変身した。いざ地上戦となれば、人形のほうが戦いやすいのである。ヨニの乗るバッグもとなりにおりた。ウォーリアや攻撃ポッドのアタックもない。
「うまくいきすぎて、かえって不気味じゃなあ。」
リンガムの声にこたえるかのごとく、一台のロボットが走りより、食事の用意が整っていると告げた。不審を感じながらも三人が案内されたのは、巨大な広間であった。テーブルには山海の珍味がならび、その端には――ゼル!
「ようこそ、レダの戦士よ。」
にっこりほほえむ美貌へ、
「わたしのヘッドホンステレオ――いや、レダのハートをかえして!」
と、陽子は叫んだ。
「ちゃんと、ここにある。」
はっとしてゼルのもとへ歩み寄ったのが、罠だった。目にみえぬ空気の壁で、ヨニとリンガムはさえぎられた。

陽子は、ゼルとむかいあい、きらりと剣をぬいた。
身がまえる陽子に、ゼルは驚くべきことを物語った。陽子がこの世界へきたのは、陽子自身の意志によるものだというのである。
「君はあのとき、望んでいた。自分の心が傷つくことのない世界へいきたいと。」
陽子の脳裏に、あの少年の顔がよみがえった。あまずっぱい青春の恋。
陽子は首をふった。
「たとえ心が傷ついても、なんにもおこんない世界なんかより、ずっとすてきよ。わたしはノアに帰るの!」
「だったら、われわれといっしょにいこう。レダの戦士はレダそのものではない……。その肉体はわたしと変わらぬ生身の女。」
ゼルの額の宝石が、陽子の瞳を射た。催眠術と気づいたときはおそかった。
「愛しあうことだってできるはずだよ。」
ゼルのあまく不気味な声を、陽子は夢うつつの中できいた。
ヨニもリンガムも捕らわれた。
「やい、いったい、ヨウコになにをした?」
「われわれのかわりに、レダのハートのエネルギーを操ってもらうのさ。」
陽子は幸福な夢をみていた。プールサイドで、あの少年とすごしている。さしだされる缶コーラ。そのあまい味。ふと、あることが気になった。
「ねえ、わたしがヘッドホンステレオで聞いてたテープ、どこへいっちゃったのかしら?」
「ははは、なにいってるんだ。」と、少年は笑った。「君はそんなもん、つけてなかったよ。
ほんとさ。」
「そうだったかしら……。」
光ファイバーに包まれて眠る陽子のかたわらで、ヨニとリンガムは牙をむくボールのえじきになりかかっていた。

それればかりか、陽子の放出するレダパワーをエネルギーに変えて、浮遊城ガルバは次元の扉めがけて――陽子の住んでいた世界めがけて進軍しようとしていたのである。すさまじい質量の移動にともなう重力変動のため、周囲の廃墟がみるみる崩れ落ちていく。
陽子の夢は、なおつづいていた。人気のない海辺で、シーサイドホテルの一室で、あの恋する少年といっしょに、陽子は幸福――のはずだった。しかし――。
「愛しているよ、陽子。」
「ねえ……あの曲は、たしかにあったわ。」
「愛しているよ。君が好きだ。愛している……。」
まるで機械のように、愛のことばをくりかえす青年に、陽子ははっと天井をみあげた。ゆうゆうと泳ぐ巨大なエイ。はじめて、陽子は、この世界がいつわりとみやぶった。
陽子とガルバ。二つの強大な精神力の戦いに、ガルバのエネルギー室は、まばゆい放電現象に包まれた。
「ヨウコ、おきて。早く目をさまして!」
ヨニとリンガムの悲痛な叫びは、はたして通じるか!?
ふっと、陽子は目をあけた。放課後の夕焼け色に染まる教室である。あの少年が、いっしょに帰ろうとさそいにきた。陽子は首をふった。
「だめ――思いだしているの。わたしがあなたに声をかけたときもってたテープの、あの曲を。」
指を動かしながら、メロディーを口ずさむ。少年は顔をふせた。低いうめきがもれる。赤い光が全身を包み、顔をあげたその姿は――ゼル! 怒りの形相もすさまじく、
「忘れられないのか!?」
突如、天地がゆれた。黒板に亀裂が走り、破壊音とともに、エイが出現した。わけもわからぬまま、陽子は教室からかけだした。

一気に階段へと走る。無限につづく階段であった。あとを巨大なエイが追う。いうまでもなく、ゼルの化身である。レダの戦士にもどらぬかぎり、陽子に勝ちめはない。

「屋上のドアはどこ⁉」

悲痛な声をだれかがきいたか、目のまえに忽然とドアが出現した。エイが迫る。陽子の手はドアに！ つぎの瞬間――。

あふれる光の中で、セーラー服がはじけとび、陽子はレダの戦士に変身していた。すべてを理解し、すらりと長剣をかまえる。ほれぼれするほどのかっこよさだ。正義のために戦うものの強みである。床がもりあがった。飛びだすエイの背中へ、陽子はあわてたふうもなく長剣をつきたてた。ゼルの悲鳴が、どこかであがった。

ガルバは崩壊にむかっていた。陽子のエネルギー炉をコントロールしそこない、エネルギー炉も光ファイバーも火をふいた。

ゼルは、窓の外に広がる蜃気楼をみつめていた。丈の高い建物――新宿の高層ビルだ！ 行きかう人々。彼の支配するはずだったもう一つの世界。すべては火に包まれて、終わろうとしていた。

すでに陽子は、牙つきボールをなぎはらい、ヨニとリンガムを救出していた。襲いかかるウォーリアたち。だが、運のいいときはいいことがかさなる。壁をぶちぬいて出現したアーマーが、あっという間に小物たちをかたづけてくれたのだ。

「ほれ、おまえさんのヘッドホンステレオじゃ。」

リンガムが、ゼルのかえしたヘッドホンステレオを手わたす。陽子は勇気百倍だった。これで帰れる。愛するもののいる世界に。

エネルギー炉を火花が包んだ。

「伝説のとおりだ……。」

茫然とつぶやくチザムのかたわらで、ゼルの瞳が狂気に彩られた。

凄絶な叫びとともに、陽子へ剣をふるう。

正義の刃が迎え撃った。鋼の激突に火花が飛び、つぎの瞬間、陽子の切っ先は、みごとゼルの宝石をつらぬいていた。そして、宝石がくだけると同時に、ゼルのからだもエネルギー炉の火柱に吸いこまれていった……。

ガルバの断末魔を、陽子たちはウイングの中からみとどけた。

巨体がゆがみ、かたむき、分厚い空気をはねのけつつ地上へ落ちていく。目もくらむばかりの炎が花弁をひろげ――すべて終わった。

「みてみい、ジョシコオセ。」

リンガムの指さすかなたで、ノアの世界の幻影がうすれていくところだった。不思議な哀しみが陽子の胸をみたした。

「ゆっくりお別れしているひまもないわね。」

「なあに、そのうち会えるさ。会いたいと思えばな。」

「そのときは、わたしもヨウコみたいに、恋人をつくっとく。」

陽子はうなずいた。

「おとなになって……きっと、すばらしい恋をするわ――。」

こんどは、ヨニがうなずいた。

「ありがとう、ヨニ。ありがとう、リンガム。」

万感の思いをこめて、陽子はヘッドホンステレオのヘッドホンをつけ、スイッチを入れた。

かがやく虹が全身を包む。

その虹が、やさしく陽子を運びあげる……。

陽子は虹の中を飛んだ。

そうだ、飛んでいくのだ。

さまざまな思いが、胸を横切った。

ヨニ、リンガム、そしてゼル。

憎いはずのウォーリア、ポッド、そして浮遊城ガルバさえもが、いまは、なつかしい友のような気がした。

「さようなら、アシャンティ……わたしはノアへ帰ります……そして……。」

7

みなれた風景が、陽子の帰還をむかえた。

光あふれる並木道。

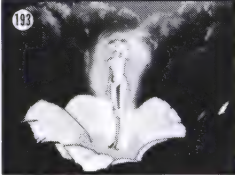
すでに陽子の姿は、レダの戦士のそれではなく、ありふれた女子高校生となっていた。

気がつくと、あの少年が歩いていく。

陽子は道の端に、白いシャツの背中を追いかけていった。

耳の奥で、なつかしい調べがあまくせつなく鳴っている。

わたしはあなたといっしょにいたのよ、そうささやきたかった。夏の海辺で。リゾートホテルで。おぼえてる？ 愛しているっていったこと。

少年がふりかえって、陽子をみた。白い歯がきらめいた。何かを決心したように、陽子もヘッドホンステレオをはずし、歩きだす。二つの世界の距離は遠いが、二人のあいだは数秒の光の道だった。

「幻夢戦記レダ」のノベライズは、『コミックボンボン』昭和五十九年十一月号から六十年三月号に連載された作品を、菊地秀行氏が加筆修正したものです。小説化にあたっては、絵コンテとシナリオをもとにしてあるため、完成したアニメ作品とは異なる記述や内容があることをおことわりします。

Scenario

●アフレコ台本を完全収録！

カメラ	画面	音声
1	F・I ①黒コマ　②みず色ベタ 中O・L　③BGトーカ光 (白)　波ガラス　T・B アブク↑　熱帯魚（色Ⓣ） →次々とin　動きあって ピアノを弾く陽子　シルエット ゆれながら見えてくる　影が広がっていくように　その間も、 手前熱帯魚、泳いでる	S・E（ピアノ曲～～～～）
2	ピアノ曲の楽譜　PANきまって、ピンスポット（F・I）	陽子(M)「知ってましたか、私、あなたの事、ずっと好きでした。 ～ 一年五ヶ月という時が、人を想うのに長すぎるのか、短かすぎるのか、私にはわかりません」
3	A君の写真 T・B　ピンスポ（Wし）（O・L） ←引き　T・U　PAN　マイクスタンド（O・L）	
9		陽子(M)「この曲は、あなたへの想いをこめて私がつくったんです」
10	回転するテープ	
11	並木道　歩く少女　→引き 入射光	陽子(M)「この曲が出来た時、私は決心しました。 ～ 告白しようって……。そうなの、 ～ このメロディーが、 ～ 私に勇気を与えてくれたのかも……」
12	台↘	
13	ウォークマン　歩き	
14	歩き⇅ ハッ！として立ち止まる	
15	見た目　来る少年A（その場のくり返し）　入射光	
16	入射光　陽子UP （わ!!　来た……!!）	
17	来る少年A（その場でくり返し） 入射光	
18	陽子　兼用（どうしよう……）	
19	↙台　少年A　入射光	
20	陽子　ヘッドフォンステレオと手の震え	
21	①ハア～ッと深呼吸して ②気持を落ちつかせ 陽子、ぐい！と顔を上げ （決意!!）歩き出す（A・C）	
22	歩き出す←	
23	入射光	
24	入射光　↘台	
25	入射光　↙台	
26	兼用	
27	近づく　手前（パラ）マルチ 木の葉のカンジ	
28	→台　緊張してる陽子 少年A、in→out　しばしボー然と歩いて、うつむいて立ち止まる	陽子(M)「でも……」
29	入射光	
30		陽子(M)「云えなかった……」
31	入射光	
32	落ちる枯葉	
33	枯葉に付けてPAN　陽子の前をひらひら	
34	落ちてくる枯葉、地面すれすれでピタッと止まり、細く震動して、吹きちぎれる	S・E（ピアノのメロディー乱れる）
35	ハッとする陽子　枯葉の破片、吹き上ってくる	
36	泡立つ地面	
37	フカン　陽子のまわり、泡立つ地面　陽子、光に包まれる（光、陽子に吸いこまれていく感じで） 光、しゅん！と消える　地面も元通り　地面に波紋送る	（光消えると同時に、ピアノ曲もなくなる）
38	立ち止まる少年A	
39	振りむく	
40	何事もなかったような並木道 歩き出す少年A　T・U（O・L）	
41	入射光　少女の消えた地面 ↓PAN　木もれ陽の感じ 影（Wし）ゆらす F・O	
42	F・I ←PAN　次元洞・内	
43	↑PAN	
45	→PAN　ゼル、F・I	ゼル「待っていたよ……」
46		ゼル「さア、渡すんだ…レダのハートを…」
47	↘台	陽子「いやぁ――っ!!」
48	陽子、光につつまれ、消える ぐっとにぎる手	
49	顔を上げるゼル	
50	→PAN　手、ゆっくりと開き	ゼル「（こんなバカな…）逃げた……!?」
51	兵士A、B out	部下A「（心配気に）ゼル様」 ゼル「（立ち上り）追え！　レダのハートは確実にこちらの世界にひき込んだ！　必ず手に入れるのだ」 部下A・B「はっ！」
52	T・B　白、out	
Ⓣ	タイトル『幻夢戦記・レダ』	
56	←PAN　気絶している陽子	
57	陽子からT・B（O・L）マルチ ピン（下）　池のほとり　※設定よろしく　異世界風に（但、美しく…）	
58	小さな滝　カエルモドキ、ちゃぽーん！ととび込む	S・E（くえけけけ……）
59	気絶している陽子、ゆっくりと目を開ける	
60	体をおこす陽子　立ち上る ヘッドフォンに手をかけ（A・C）	

カット	画面	セリフ
61	取る T・B（密着）	
62	→PAN（4Fr）森の中（密着）	
63	なにやら原色のチョウ 羽根いっぱいから、奥へ群飛ぶチョウ達 来る陽子	歌（1コーラス）「はずれてばかりの星座占い 教えてよ 私達恋人になれますか ～ ♪ 夢見るだけならキレイでいいけど 傷ついてもいいからロマンスしたいわ ～
64	ハッと立ち止まる陽子 チョウの群、通り過ぎる	♪ Wowo One way love 臆病なのよ 好きと云えないなんて ～
65	去っていくチョウ達 ↖付けPAN	♪ Wowo One way love あなたに恋して飛び出したまま ～
66	陽子、見送って 歩き出す out	♪ 行方不明のハート達」
67・68・69・70・71・72	（C―72まで植物、虫の生態）	
73	浮遊植物 ↙引き しげみの中、かきわけ進む陽子	
74	←台 森の中を行く陽子	
77	偵察ポッドなめ、奥行く陽子 ポッド、左へout（引き）	
78	（フカン）森の中を行く陽子	
79	陽子、オヤ!?と立ち止まる	
80	ポッド	
81	ポカン	
82	ポッド、ツ〰〰と前へ	
83	陽子、後ずさり 駆け出す すーっとinしてくるポッド	
84	→台 走る陽子、足もとUP	
85	T・B ←Ⓐ →Ⓑ →Ⓒ →BOOK、おおっていく	
87	来る陽子、こける	陽子「キャッ!!」
88	たおれる ヘッドフォンステレオ、落ちる 手を伸ばしてとろうとする 地面上昇 ↗付けPAN ヘッドフォンステレオ、転がり落ちる	陽子「あっ……待って!」
89	out	
90	巨大なカメ	
91	歩き出すカメ	
92	→台	
93	←付けPAN（密着 FOLLOW）歩いていくカメ	
94	→台 木の枝inして、とびつく	
95	↑PAN 歩いていくカメ	
96	―間― みしみしっ……木の枝 折れて落ちる	陽子「きゃあ!!」

カット	画面	セリフ
97	バサッと飛び散る草の葉	（Ⓜ〰〰〰）
98	舞い落ちる草の葉	陽子「アタタタ……」
99	ハッとする	
100	落ちるヘッドフォンステレオ 兼用	
101		
102	振りむき、立ち上る	S・E（森の奇怪なざわめき高まる）～
103	陽子、どうしよう	
104	しげみ、ガサゴソ揺れて、ハッと見る陽子 出てくるリンガム	
105	首にヘッドフォンステレオをぶらさげてくる ↓PAN	リンガム「落しものじゃよ……お嬢さん」
106		陽子「（とまどって）あ……え・と……どうも……」
107	ヘッドフォンステレオをはずす	リンガム「いや何、礼にはおよばん。親切は、わしのモットー。受けとりなされ」 陽子「あ……ありがとう」 リンガム「うむ。わしの名はリンガム。すべてを見、すべてを聞き、すべてを知るために旅をしておる。おぬしは……」
108		陽子「エ・ト……わたしは朝霧陽子……普通の女子高校生……」 リンガム「ジョシコウコウセイ……? なんじゃそれは……」 陽子「うん、そのはずなんだけど、なんだかよく判らなくなってるの……」
109		リンガム「どういう事じゃ?」
110	?となって	陽子「私、ちょっと前まで、並木道を歩いてたはずなのに、いつのまにかこの森の中にいるの。そして、その森の中には見た事もない花や虫や、いろいろな生き物がいて……それに……それに…… ～ わ――っ! 犬がしゃべってる。どうして、どうして…… それに……ここは、どこ?」
111	立ち上り、やっとオドロイて	
112	ダラン……となり	リンガム「おぬし……この世界の人間ではないのか」
113		陽子「わ――っ! 又しゃべった」 リンガム「落ち着かんか。犬がしゃべって何が悪い!」 陽子「は……はい!」
114		リンガム「ここは、アシャンティじゃ。おぬしは、封印された世界"ノア"から来たのではないか。わしにちょっと思いあたる事がある」
115	←鳥の群に付けてPAN（森のはずれ）岩場の上、来る陽子、リンガム	
116	陽子、あっとなって立ち止まる T・B	
117	空に街のしんきろう	

118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137
	ボーゼンと見つめる陽子……	髪パサ →PAN 鳥の群 ノアのしんきろう			スイッチ		陽子の体、光に包まれる		まわるカセットテープ	光集まって、パシューンと散る	目をあけて、あっ！	並木道 フォーカスin	陽子、ニコッ（帰れた） PAN↙ 陽子、見る 宙に浮いてるリンガムの頭	パシューッ！	光、いっぱい集まっていく シュッ……と止まる	↑立ち上って、ヘッドフォンステレオ、スイッチをきる	↖鳥の群、横切る	のり出し、目パチクリ	

リンガム「何日か前からじゃ……あのしんきろうが現れたのは……。（陽子を見て）どうかな、あの景色に見覚えはないかな……」

（こぼす）

リンガム（off）「ふーむ、するとやはりあれはおぬし達の世界〝ノア〟の街なのか」

陽　子「ええ……でも、信じられない、ここが全然別の世界だなんて……」

リンガム「もともとは、一つの世界だったんじゃ。

ああやってノアのしんきろうが出る時には、ノアとアシャンティの間に次元の道ができるという……。おそらく、あんたは、何らかの力でその道を通って、こちらに来てしまっだのじゃろうな……」

陽　子「（ヘッドフォンつけながら）ますます信じられない……」

リンガム「そりゃ、なんの道具じゃ？」

陽　子「あ、コレ……知らないんだ……音楽を聞くものなのよ」

リンガム「ちょっとやってみとくれんか」

陽　子「いいけど……外には聞こえないのよ」

S・E（ピアノ曲）

陽子（M）「どうして、こんな事に……帰りたい……帰って、もう一度……」

S・E（メロディー）

リンガム（off）「オ……オイ」

リンガム「なんとかしちくれ」

陽　子「キャーーッ!!」

S・E（ピアノ曲、STOP）

リンガム「……い、いったい？　何が起こったのじゃ？」

陽　子「わかんない……でも……せっかく帰れたと思ったのに……」

リンガム「すると、今のは……ノアの世界……」

陽　子「（がっくりとして）うん……。あーあ……がっかりだなア……」

138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156
	木のかげ（マルチ）ガチャッ ウォーリアの足、in				（ニコッ）	スイッチに手を伸ばす A・C	↘台 パシューッ！ 伸びてくる触手	触手、ヘッドフォンステレオに吸いつき、取る 動画でT・B	↘付けPAN		→PAN 偵察ポッド、ウォーリア達		前に出るウォーリアの足	前に出るウォーリア 手前にA	じりっとあとずさって、逃げ出す だっと駆け出す	ウォーリア二機、ジャンプ	（森の中より）陽子、リンガム、手前にout ジャンプしてくるウォーリア二機 着地して、駆け出すウォーリア	ウォーリア、ヘッドフォンステレオを投げる 付けPAN↷ たっぷりと

リンガム「気をおとすのは早いぞ。わしの経験と知性と教養から、この事態を考えるとだな……」

リンガム「その機械が、ノアとアシャンティの次元の道に、何らかの関りを持っておるのではないか」

陽　子「エーッ……。まさか……コレが……」

リンガム「とにかく、もう一度それを動かしてみんしゃい」

陽　子「で、でも……」

リンガム「おぬし、自分の世界に帰りたくはないのか」

陽　子「……帰りたい」

リンガム「（はげます）だったら、何でもやってみる事じゃ。こっちに来れたのだから、帰り道は必ずどこかにある」

陽　子「（うなずき）……そうね……そうよね！」

「ああーーっ……」

陽　子「やだ、どうしよう……取られちゃった……」

リンガム「わしの経験から云わせてもらうが…逃げた方がいいみたいじゃぞ……」

陽　子「でも……もし、アレがないと帰れないんだったら……」

リンガム「そうは云っても、生きて帰らなくては、意味がなかろう」

陽　子「おどかさないでも……」

リンガム「おどしじゃない。う～、毛が逆立ってきおったぞ～」

陽　子「あン！　待ってよ」

兵士A「逃がすな！　追え」

シナリオ

カット	内容	セリフ
157	受け取るA カプセルを出す	兵士B「それが、レダのハート……」 兵士A「たぶんな。結論は技術部の連中が出すだろう」
158	兵士A、ヘッドフォンステレオをカプセルに収める	
159	森の中を走る陽子、リンガム →台	
160	駆けてくるウォーリア	
161	リンガム、ギョッとなって、足ばたつかせ、耳を広げ、宙に浮く（飛べるのです）	
162	→台　リンガム、宙に浮いて、陽子を追いぬいていく 手前（BOOK）→in～out	リンガム「急げ、追ってきたぞ！」
163	PAN→　巨大な花々　来る陽子、リンガム後からウォーリア ウォーリア、ジャンプして↑out 手前に着地　↓in　びっくりして立ち止まる陽子、リンガム ガチャリンと振りむく	
164	陽子、リンガム、じりっとあとずさり、逃げようとする （→PAN）目の前にウォーリアin	
165	→PAN	
166		リンガム「い……いったい、おまえら、わしらに何の用じゃ……」
167		兵士A「用があるのは、この〃レダのハート〃だけだ……。おまえ達には用がない。だから（—間—）死んでもらう」
168		陽子「レダのハート……？　ちがいます！　それは……それは……ちがいます！」
169	カエル兵士、↗ジャンプ	
170	ハッと振りむいて、逃げる 手前にカエル兵、in　追う	
171	奥へ逃げる陽子、リンガム 目の前にウォーリア↓in　手前にもin↓	
172	左右キョロキョロ	
173	陽子なめ、うなるリンガム（前にくる）リンガム、ダッととびだす	リンガム「うう～、おのれー」
174	↙付けPAN　飛びかかるリンガム、はねとばされ（スロー）	
175	リンガム、地面に叩きつけられ苦し気に……	
176	後からせまるウォーリア（in） 陽子、ハッとふりむき、間一髪、よける　髪の毛、少し散る	陽子「（のり出し）リンガム!!」 陽子「キャッ！」
177	陽子、奥へふりむく$^{A \cdot C}$ウォーリア （左）リンガムを拾いあげる	
178	アオリ　リンガムを持ち上げ、カマを尻尾に	リンガム「うわーっ、やめろ！　尻尾は犬の誇りなんじゃ」
179	↘台　迫るウォーリア	
180	↙奥へ	
181	↗付けPAN　ウォーリア、カマを振り上げる　陽子の足、巨大な花ビラにひっかかる	
182	のけぞって、花の上に倒れる ↓台　花ビラ、閉じながら上昇	
183	→PAN　見上げる一同	
184	アオリ　輝き出す花　T・B （光が集まっていく感じ）	
185	花に浮かぶ陽子のシルエット ↑PAN　トーカ光	Ⓜ（〜〜〜）
186		
187	ポッド、狂ったように反応	S・E（ピコポキャ〜〜〜）
188		兵士A「何だ、この反応は……」 兵士B「解読してみます」
189	激しく点滅　騎馬の首あてる	
190	見る	兵士B「こ……これは！　強烈なレダエネルギーです」 兵士A「なんだと!!」
191	ゆっくり花弁が開いていく　花の中、戦士に変身した陽子　光輝いて、形ははっきりと見えない　↑PAN	
192	あとずさるA	
193	花、開き終り、光消え、戦士、〃陽子〃の姿が見える	
194	↖付けPAN　ジャンプしてくるカエル兵	
195	カエル兵、陽子に切りかかる 思わずジャンプする陽子、とび箱みたいにとび越えて降りる out	陽子「キャアッ！」
196	ローアングル　陽子、↓in　着地　後ずさるカエル兵	
197		リンガム「陽子……どうしたんじゃ、その格好は？」
198	↑PAN	陽子「わからない……急に目がくらんで息がつまって……体の中で何かがはじけたわ……それで……」
199	花からとび降りてくるカエル兵 ↓付けPAN	
200	振りあおぐ陽子　切りかかるカエル兵　ジャンプしてよける陽子（陽子のアクションつなぎ）	
201	陽子、画面いっぱいより ↷付けPAN　奥へジャンプ 着地　手前にinするカエル兵	
202	陽子の手、腰の剣に ↶付けPAN　かまえる しゅぱっと剣が出る	陽子「だけど……とにかく、すごく強くなったみたい」
203	↙台　つっこんでくるカエル兵	

カット	内容
204	つっこむ陽子、切る！ cut尻、スロー
205	スロー カエル兵、胴をきられ、手前に歩きながら、バラバラになってくる
206	(ノーマルスピード)破片、バラバラと落ちる 頭、コロン！と落ちて(死ぬ！)
207	あとずさるカエル兵
208	⌒付けPAN
209	ウォーリア、背中いっぱい↙光走る 横なぎに割れる むこう、切り終った陽子が見える(スロー)
210	(スロー)↖台 バラバラになっていくウォーリア
211	リンガムin
212	あとずさるA うろたえているA、B 騎馬、足をたたんで浮上 ぐるんとむきをかえて、飛び出す
213	あっと見る
214	同ポ 残っているポッド、手前に来る ↑付けPAN
215	ローアングル ポッド、陽子の方に よける 態勢をたて直し、すれちがい、ターンして、ズコッと切る
216	ポッド頭部、上昇して↗付けPAN 頭部だけ切りはなし、噴射あって↗付けPAN 空へぐんぐん上昇 点になり、ボワッ！と光の玉になる
217	見上げてる陽子、リンガム
218	光の玉 T・B 高台より見ているヨニ
219	ヨニ
220	

リンガム「陽子、おぬし、いったい何者なんじゃ！」

陽子「何者って……フツーの女子高校生のはずなんだけど……」

リンガム「ふーん……ジョシコウコウセイというのは、たいしたものなんじゃなァ…」

ヨニ「あれは……」

側近「ゼル様……捜索隊からの救援信号があり、ただちに救援機をさしむけましたが」

ゼル「レダのハートは……」

側近「そちらの方は、無事手に入れたようなのですが、ノアの人間を追跡中に、不可解な事が起ったようです」

ゼル「不可解な事？」

側近「そのノアの人間が、戦士の姿に変身し、しかも、その際、強烈なレダパワーを発ったそうです」

カット	内容
220	
221	
222	→台 ←引き 森の中
223	←付けPAN 奥へ
224	森の中 走るエアバイク
225	森の中 背動 グワッと森がきれて、BGトーカ光 ノーマルBG(荒野)背動 ↑二段引き
226	大フカン T・B 荒野を走るエアバイク 引き↙
227	BG→二段 ←引き 背動
228	背動
229	ノアのしんきろう 台↘(二段)
230	↖引き(ゆっくり)背動
231	←引き
232	同ポ

ゼル「(立ち上り)なんだと……!?」

ゼル「(目を細め)……まさか……レダの戦士!?」

陽子「レダ？……なにそれ？」

リンガム「うむ。ヤツら、あの機械の事を、レダのハートと言っておったじゃろ。おぬしのその力、ジョシコウコウセイ独自のものでないとすると、"レダ"がからんでるとしか思えんのじゃ」

陽子「どういう事？」

リンガム「ウム、順追って話そう」

S・E(ドキューン……)

陽子「……つまり、私のいた世界も、大昔にはこの世界につながっていて、自由に行き来できたっていうわけなのね」

リンガム「そうじゃ。争いが絶えぬこの世界に絶望して、"女神・レダ"が、おぬし達の世界を封印してしまったのじゃ。その世界に希望を託してな」

陽子「……レダ」

陽子「"レダ"って……?」

リンガム「伝説では女神となっているが、その正体は今となっては誰にも判らん。ただ確かな事は、次元の間に横たわる膨大なエネルギーを自由に操れたという事だな……

〜

たとえば、おぬしのパワーとその変身……。"レダ"であれば、その位の事、いたって簡単な事であろう」

陽子「私と、そのレダさんと、何か関係あるのかしら」

リンガム「わしは、あると睨んでおる。

〜

というのは、レダの秘密を知りたがっている者は大勢いるからのォ。あんたをこの世界に引き込んだのも、そういう輩ではないかと思っとる」

陽子「ふーん……でも、どうしてかなァ…」

リンガム「その答は、やつ等の持ち去った、あんたの機械……あの中にあるはずじゃ」

陽子「そんな大げさなものじゃないんだけど……」

リンガム「しかし、アレ以外には、今の処、帰り道を捜す手がかりはないわけじゃからな」

陽子「そうね……。でも、こんな格好でバイク飛ばしてるなんて……人生観、変っちゃいそう」

リンガム「フム……。変身前とはだいぶちがう

シナリオ

カット	内容	セリフ
232	のびをして	陽子「のかな」 「そりゃもう……体中に力がみなぎっているカンジ！」 リンガム「頼もしいのォ！」 陽子「これが、そのレダさんの力なら、感謝しなくちゃね」
233	前方見てあっ！となる	
234	前方に土ケムリ↖台　背動	
234	じっと見る　T・U	
235	↖台　T・U	
236	PAN←（密着）丘士達背動	
237	兵士Aのバイク　ヘッドフォンステレオ、透明なカプセルに入っている　T・B　ハイライト、キラーン！	
238	陽子、表情変り（見つけた！）動画でT・B　表情きびしく！↓台	陽子「追いついたわ！」 リンガム「ようし、とっつかまえて、あの機械をとり返すんじゃ!!」
239	ぐい！とお尻をつきあげ　じわっと引き→　推進器（光の玉が出る）背動	リンガム「行けーっ！　行けーっ！」 S・E（キイイイイィ……ドキュ——ン）
240	光の玉、大きくなり、噴射！	
241	砂ケムリを後方に飛ばし↖付けPAN　ぐいーんとまわり込んで　BG変え↙付けPAN〝ギューン〟と奥へ	
242	フカン　岩場の谷間へ入ってくる	
243	兵士達、大きくinして奥へ奥へ行く、out　続いて追う陽子↑PAN　in↗してくる兵士続いて陽子	
244	谷間→inしてくる陽子　背動	
245	陽子、正面	陽子「逃がすもんですか」
246	©、手前に来る　ひゅん！と、↗右上に	
247	はっと見上げる陽子　動画でT・B　同時に兵士©、inして、陽子の後にまわり込む　後方から撃つ	
248	↖引き　足出して少し走って、後へジャンプ	
249	ぶあっと後方に流れてくる陽子のエアバイク　この間も©は撃っている	
250	すれ違いざま、A・C　エアバイクの足でける！ポーズつなぎ	S・E（ゴキッ）
251	→背動　©は落ちて→out　バイク、落ちて二、三回はずんで、火を吹いて爆発！	
252	体を起こす兵士©　その上をドキューンと通過する陽子のエアバイク　その風圧でバラバラになる©　コキッと	
253	燃えているバイクの横を通過する陽子のバイク　in～out	
254	追いついてくる陽子　動画でパース変る	
255	兵士達、噴射して加速　陽子もin　トンネル、背動で迫ってきて　トンネル内に追いついていく陽子（暗い）	
256	追いついてくる陽子　引き←	
257		陽子「それを返して！　あなた達には用がないはずよ」 リンガム「そうじゃ！　おまえら、いったい何者なんじゃ」
258	トンネル、出口近づく、外（トーカ光）　背動	
259	↙光来て　中O・L　ハッと見る	
260	背動　出口迫る　全面トーカ光にO・L　ノーマルBG　大フカシ　↖台（ゆっくり）下に広がる八百沼	
261	高度一万メートルの断崖絶壁とび出してくる陽子のバイク↙兵士達、out↙付けPAN　カメラ、陽子につけて↙降下してくる	
261	↗台　陽子、↙引き（in気味）兵士、動画で奥へ　迎撃機、in↗引き	
262	エアバイク、迎撃機の中へ、しゅん！しゅん！と消える	
263	うしろの絶壁見せて　ゴンドラT・B　パースつけて落ちてくる	「うわ〜〜っ！」
266	↗台　アオリ　落ちてくる陽子	
267	八百沼に落ちていく	
268	↗台　バイクを立てて、ジェットエンジン点火　噴射　スピード、ガクン！と落ちる	
269	八百沼　↙付けPAN　陸地へ↗台	
271	迎撃機　アオリ　↘台　ポッド、落下　キャラ合わせ	
272	フカン　↘台　陽子のバイクのまわりに、ポッド	
273	↘台　背動　バイクのまわりにワラワラと押しよせてくるポッド（圧死させようとしてるかん	

カット	内容	セリフ
273	じ）それを右に左に前に後にかわすバイク　ポッド、ガチャガチャとぶつかりあう　cut尻、手前へ	
274	崖をのぼるバイク　ポッドもまわりに	
275	崖のむこう側、ボン！と飛びだすバイク　斜面に落ちてバランス失う	
276	斜面　バランス失い、バイクからとび降りる陽子、勢いで走る	
277	さらに崖、駆け降りてきて、勢い余ってジャンプする陽子　↶付けPAN　バイクout　リンガム、必死に陽子をつかまえる	
278	トンガリ屋根にとびつく（ラバスターの頭）付けPAN　そのまわりにポッドin	
279	↓付けPAN　落ちていくバイク、下で爆発	
280	ポッドを目で追う感じあってブレ⇅ ↑トンガリ屋根、上昇↓台(ゆっくり)↘すべる陽子達　↓台　ヘリにつかまる陽子達　まわり、ポッドin〜outしながらぐんぐん上昇　ロボット……	「あららら……」
281	ぶらさがってふんばるが……　→台　→肩　←頭　落ちる	
282	肩のあたりに着地	S・E（ギギィ……）「おっとっと……」
283	↙台　左手があがって、ポッドをむんず　ぐしゃっ……　光が吹き出し、爆発（アト四つ）	
284	首根っこにいる陽子　破片飛んでくる　ポッド↗	リンガム「やった！味方のようじゃぞ！」
285	台←　ぐーんと奥へロボットが動いてるのです　↙ポッド　↗右手in　↙台　ポッドをつかむ　ぐしゃっ！	S・E（ギギギ〜〜ッ……）
286	T・B　光吹き出し、爆発（アト三つ）　まわりを飛び交うポッド	
287	台→　A・C　右手で払う	
288	逃げるポッド　台→　ロボットの手、大きくinして奥へ動きのいきおいつなぐ	
289	急ブレーキ↗戻る　こらえきれず、はね出される陽子、リンガム	
290	落ちる陽子、リンガム　付けPAN　リンガム、陽子をうけとめる	
291	↘付けPAN　軟着陸!!	
292	←引き　→台　迎撃機	
293	見上げる	
294	ポッド、奥へ　↗台　次々と、迎撃機の中へ	
295	登って見る	
296	↙引き　迎撃機　ラバスター、奥	
297	飛び降りる陽子	リンガム「わしらも行こう」 陽子「ええ！」
298		
299	→台　奥、ロボット　手前、陽子、←in〜out	
300	崖を登っていく	
301	崖の向こう　↙引き　迎撃機	
302	崖を登っていく陽子、ロボット	
303	崖の上　inする陽子、リンガム見る！	
304	陽子、ああっ!!となる……	
305	リンガム、おどろく	
306	登りきるロボット	
307	見張り塔の間を飛ぶ迎撃機　→台　見張り塔　BOOK→引き	
308	ボーゼン	
309	↗↙↗引き三段＋マルチ	
310	ボーゼン	
311	浮遊城の中に入っていく	
312	浮遊城を見渡す↓PAN　大阪　T・B	S・E（浮遊城吠える、ウオオオォ……）
313	ロボットの股、扉が開いて、はしご降りる　見る	陽子「何……アレ!?……」 リンガム「う、浮いとる……」
314	はしご降りてくる　ヨニ、↓in　すばやく	
315	!?と見てる陽子　↓目線追う	
316	降り立つヨニ　↑PAN　cut尻、陽子の方を見る	ヨニ「あ〜あ……逃がしちゃったか……」
317	ギクッとなる陽子	
318	好奇心!!　ヨニ、前へ	
319	つかつかと歩みより　←付けPAN　ヨニ、陽子のまわりを品定め　←PAN　とか、おどかしてみたりして	ヨニ「フム……フム、フムフム……」 ヨニ「フーム……。わっ!!　フーン……。これが〃レダの戦士〃かァ……」
320	はっと見る	陽子「……レダの……戦士……!?」 S・E（ヴオオオオォ〜〜〜ン……）
321	（不気味に響き渡る）	〜〜
322	風が吹く……	リンガム「娘さん……何か知っとるなら教えてくれんか。わしは、しがないさすらい犬で、この娘は封印された国から来たばっかりでな……。何が起っているのか、よく判らんのじゃ」 陽子「お願いします。私、朝霧陽子」 リンガム「わし、リンガム」

シナリオ

シーン	画面	セリフ
323		ヨ　ニ「お安い御用よ。私は、レダの巫女で、ヨニってんだ」
324		リンガム「レダの巫女……!? まだそんなのがおったのか……」 ヨ　ニ「とにかく、立話もなんだから、乗って!」
325	ロボットの股下のはしご ↑ヨニ、in～out リンガムin 続いて陽子 リンガム	リンガム「ヨニ、まず聞きたいんじゃが……あの大きなタマゴみたいのは何じゃ」
326		ヨ　ニ「ゼルの浮遊城〝ガルバ〟」 陽　子「浮遊城!?……アレ、お城なの」
327		ヨニ(off)「あの城の城主、総統ゼルが、あなたをこの世界に引き込んだのよ」 陽　子「ゼル……?」
328		側　近「ゼル様……捜索隊が戻ってまいりました」
329		ゼ　ル「レダのハートは?」 側　近「すでに分析作業に入らせました」 ゼ　ル「ノアから来た娘はどうした」 側　近「とり逃がしました」 ゼ　ル「とり逃がした……」
330		側　近「思わぬジャマが入りまして。おそらくレダ教徒の生き残りかと。 ～ いかがいたします」
331		ゼ　ル「放っておけ。奴らには何もできん。 ～ 我々には、もう恐れるものはない!」
332	ゼル	
333	神殿　歩くロボット・ラバスター　巨大感出して	
334	↙台　その頭部　↓↑ローリング	陽　子「ねえ、私がレダの戦士って、どういう事……」
335	↓↑ローリング	ヨ　ニ「伝説は云う。レダの力、悪しき行いに利用しようとする時、異世界・ノアより戦士が現れ、それをはばまん」 陽　子「それが私だっていうの」
336		ヨ　ニ「そう、今、世界の運命は、レダのパワーと共に、あなたの中にあるのよ」
337	ピンとこない陽子	
338	池　ロボット　水に映ってin	
339	柱を押す	
340	池が割れて、中に空洞	S・E（ゴオオオォ……）
341	空洞内	
342	開ききる	S・E（ゴゴーン）
343	空洞内の柱にのるロボット	
344	↓降下するロボット	
345	柱、収まる	S・E（ガコーーン）
346	閉まる　円柱、↑上昇	
347		
348	閉まる　O・L	S・E（ガシーーン）
349	二つの夕陽　波ガラス	（Ⓜ〰〰伝説・遺跡）
350	PAN　神殿	ヨ　ニ「ここは昔、レダの神殿だったの……。レダが伝説の彼方に消えさって、今はこの有様……。 ～ でも、地下には昔のままの仕かけや部屋が残ってるわ。私の乗ってた巨人もその一つ。 ～ でも、その事を知ってるのは、レダ教徒の中でも数少ない、レダの巫女達だけ。ゼルみたいに、レダの力を自分の欲望のために使おうとする人達から守るためにね」
351	フカン　↙歩いてくるヨニ、陽子、リンガム	
352	ヨニ、ピョンとはねてすわり　陽子も腰かける	陽　子「レダ教徒って?」
353	ふっと顔色くもって	ヨ　ニ「失われたレダの力を、もう一度この世界によみがえらせようとしてる人達なの。ゼルも、その一人だったんだけど…」
354		陽子・リンガム「え!?……」
355	建物・塔　↑PAN	
356	その頂上　バルコニー風の処に出てくるヨニ、陽子、リンガム	
357	陽子、ヨニなめ、浮遊城、ノアのしんきろう見える	ヨ　ニ「あの浮遊城は、レダパワーを集めるための古代の遺跡だったの。レダ教徒達が、復活しようとしてたんだけど… ～ ゼル達が裏切ってのっとってしまったの。仲間達は、みんな殺されたり、散りぢりになって、この神殿に逃げ込んだ時には、私一人だけになってた…」
358		陽　子「（同情）まァ……」 リンガム「ゼルはいったい何をしようとしておるんじゃ」 ヨ　ニ「……ノアのしんきろうが見えるでしょ……」
359	見る陽子、ヨニ	ヨ　ニ「アレは、浮遊城のパワーが、次元のゆがみを起こしているためなの」 リンガム「なんじゃと!?」
360		ヨ　ニ「ゼルは、次元の扉をこじあけようとしてるのよ。ノアに行き、その世界を征服するためにね」
361		陽　子「そんな事になったら大変!　私達の世界の人、別に世界があるなんて知らないもの。大パニックよ」
362		ヨ　ニ「今のところは大丈夫。かなりの処まできているみたいだけど、レダのハートがないかぎり、次元をこえる事はできないわ」
363	ギョッとなり顔を見合わす	リンガム「レダのハート……?」
364	目パチ	

カット	内容	台詞
365	T・B 分析機にかかっているヘッドフォンステレオ（設定合わせ）	側近「この機械は、磁気変化として記録された音を再生する装置です。そして、その音声パターンが、大気中のレダのパワーを共鳴して、次元移動のエネルギーを発動させるようです。」
366		ゼル「なるほど、レダの鼓動というわけか」 側近「はい。それが、我々のつけた次元の道をたどってきたというわけです」 セル「で、使えそうか」
367	→PAN 分析室（設定合わせ）	側近「その音声パターンを変換して、動力炉に流し込むだけですから、数時間後には……」
368	遺跡 登ってくる陽子、ヨニ、リンガム	ヨニ「たいへんだよ、ゼルが奪っていったその機械って、きっとレダのハートと関係あるんだわ。そうか、そうよね。陽子は次元をこえて来たんだもの、不思議はないわね」
369		陽子「じゃあ、アレがないと、やっぱり私、自分の世界へは戻れないのね……」
370		ヨニ「それどころか、ゼルがレダのハートを使いこなせたら、戻る世界そのものがなくなっちゃうわよ」
371	かぶりを振って うつむいて	陽子「そんな……そんな事って……。アレはただのヘッドフォンステレオだし。それに……それに……（ぐっとつまり…）あれに入ってるテープだって…」
372	陽子、うつむいて柱にもたれる	リンガム「……テープ?」
373	ヨニ、ポカン	
374		リンガム「……陽子、おぬしのあの機械……ホントはいったい何なのじゃ」
375	うつむいている陽子、うなだれ、ゆっくり顔を上げる	S・E（前奏）
376		歌 ♬「星くずが流れてく 〜〜夜空を見上げるふりして
377	雪（①小 ②中〈まわりブラシ〉③大〈トーカ光・ブルーホワイト・シャン〉）→PAN（青系）	〜〜涙を〜
378	雪（①ぬり＋ブラシ ②トーカ光）カサ ふりむく陽子（冬コート）住宅街	〜〜とめたーいのよ〜
379	学校（廊下）夕方（赤系） 窓すべてトーカ光（赤系） 動画でまわり込み T・U 教室 ドアのすき間に、中O・L トーカ光 ノーマルBG →教室側 ←ドア側 引き 教室内、A君見える	♬ 〜〜BLUE BLUE 〜〜こんな夜〜
380	!?と見る陽子	〜〜この次に会うまでに〜
381	A君からT・B	〜〜少しは大人になる〜
382	陽子からT・B	

カット	内容	台詞
383	BGトーカ光 スローモーション 雲、タッチのみで ←台サッカーをしているA君 楽しそうに アクションつないで、ける（全キャラ、止メなしで A・C）	〜〜だから見てて 〜〜遠くで〜
384	スロー 楽しそうなA君	
385	サッカーボール、空高くまい上り 中O・L トーカ光にぱっ!と散って、雪（トーカ光）になる	〜〜BLUE BLUE
386	（ブルー系）兼用 ふりむく陽子、ニコッとなる（描き足し）白い息	〜〜ロンリーブルー
387	←小走りに行くA君（白い息）	帰りたい
388	A君 ↑引き BG	〜〜帰れない
397	ピアノの鍵盤 ↑PAN	〜〜もう一度 あなたの
398	五線譜とA君の写真 C—2兼用 PAN→	腕の中〜
401	ピアノを弾く陽子 T・B	〜〜夢かしら 夢じゃない
402	←PAN ピアノを弾いている陽子	一人ぼっちのドリーマー
403	←PAN O・L 遺跡 柱にもたれている陽子 陽子、苦笑して	帰りたい 帰れない〜 陽子（歌、以下適当な処でF・O）「なんか、バカみたいだったわ……一人でいい気になってて……。それがイヤで、思いきって告白しちゃえって思ったの……でも……」 リンガム（off）「で、そのキッカケになったのが、あの機械の中に入っているオンガク…」
404		陽子「うん、そう。だから、アレがレダのハートだなんて、なんかのまちがいよ」 リンガム「しかし、おぬし、現実にレダの戦士になっておるし……」 陽子「それも何かのまちがいじゃない…。まァ、そのおかげで、ここまで追っかけてこれたんだけど……」
405	ヨニ、かぶりをふって	ヨニ「まちがいじゃない!レダのハートって、音の組み合わせなの。だから誰にも見つけられなかったの」
406	ヨニ、駆け降りる	陽子「ええっ!?……じゃあ、私のつくった曲が、偶然……」 ヨニ「偶然じゃないわ。レダはきっと、ノアに助けを求めて、レダのハートを送ったのよ。

407
陽子　そして、陽子の心にレダのハートがとどいて、その曲ができたのよ」

408
陽子　「じゃあ、ゼルは……」
ヨニ　「その曲をキャッチして、陽子をこっちの世界にひきこんだのね」
リンガム「そして、その陽子がゼルをたおす、レダの戦士になったというわけか。しかし、ひとつ間違えば、ゼルのおもうつぼではないか。現にそうなりつつある」

409　降りていく　続いて陽子、out
ヨニ　「レダの力は、絶対じゃないわ。もしそうなら、ゼルみたいな奴がのさばってるはずないもの。
〜
よーし、こうなったらぐずぐずしてらんない。連いて来て！」

413　地下　ロボット　PAN↓

414　ロボットの足なめ　T・U

415　翼の間　PAN→

416　※ナスカの地上絵風の絵
陽子　「ここは……？」
ヨニ　「レダの翼の間」
陽子　「翼の間……？」
ヨニ　「そう。レダの戦士に力をあたえてくれるはずよ。
〜
しかも、レダの戦士だけに許された力をね」

417　一同、イスの前に→
ヨニ　「さア、このイスに座って」

418
陽子　「どうするの？」
ヨニ　「座るだけでいいの。さ、早く」

419　イスの上に
ヨニ　「(むこうむき)云う通りにして。お願い」
陽子　「ええ……。なんか固そう……」

420
ヨニ　「レダの戦士に来たりて、ここに座す時、力の門は開かれ、レダの翼は天空へはばたく……」

421
リンガム「レダの翼？」
ヨニ　「いいつたえ…。でも、ホントいうと、ワタシも意味は知らないの」
〜
だから、陽子、早く座って。どういう事かきっと判るわ」

422

423　座る
陽子　「え……ええ……」

424　ヨニ、ごくりと生ツバ

425A　壁画　アオリ　ブレ⇅
S・E　(ガゴォ……)

425B　台→引き（BOOK）

426　振りむく陽子　ブレ⇅

427　壁画面　↔左右に開いていく　ブレ⇅
S・E　(ゴゴゴ……)

428　内側からの見た目

429　PAN↓
S・E　(ガゴーーン……と開ききる音)
〜

430

431

432　PAN↓
ヨニ　「やったア！これがレダの翼だア！」

433

434　→PAN　操縦盤

435　アオリ　パースつけて（広角レンズ的）手を差し出す

436　(広角レンズ的) 操縦桿をにぎる　中央の玉が光る

437　光をうける陽子　↙ガクンとリアクションつけて、↗上昇　↙台

438　伸び上り　A・C

439　足が決まり　A・C

440　なんかよく判らんが、コックピット頭部にきまる

441　ジェット？エンジン、背中にきまる

442　ロボットに変形！↑PAN

443
ヨニ　「レダの翼、はばたく時！　レダのヨロイ、力の門をくぐり、戦士を守るべし！レダのヨロイだア！」

444　コックピットの陽子　↙付けPAN降下

445　コックピット、ジェットエンジン、元に戻り、グインと上体を

446　後方よりアングル　足開いて、手ついて、元通り

447　T・B　O・L　B・G　O・L→（密着）引き

448　ホヨヨ……　ヨニ、感激!!
ヨニ　「感激!!　カンゲキだわ！いいつたえが、こうやって目の前でホントになるなんて！」

449　陽子、立ち上り　座席より降りてヨニの方へ
陽子　「ヨニ……
(階段降りながら)レダがどうして私を選んだのか判らないけど……
〜

450　ヨニ
(off)　私、レダのハートを取りもどす。
〜
そして、必ず自分の世界へ帰るわ」

451

452　浮遊城　フカン

453　レダのハート、エネルギー変換システム　ヘッドフォンステレオ　PAN↓　〈設定〉〈なにやらメカおおって〉〈何やらメカニック〉
S・E　(ピアノ曲
〜
メカ音
〜
シンセメロディー)

454　→PAN　エネルギー炉　光が走る
声A　「レダハート変換エネルギー、注入開始……。次元移動エネルギー、発動」

455　浮遊城なめ、ノアの……　←→台引き

456　PAN↓

カット	内容	セリフ
457	T・B	ゼル(M)「レダのハートよ……美しき鼓動よ……わたしを、ノアの世界に〰〰
458	ショックがはしる	ゼル 連れていってくれ……」 ゼル「……う！……」
459	ゼル玉、激しく放電	
460	うろたえる側近	
461	エネルギー炉 あちこち火花が走る（エネルギーがふき出るカンジ） 次元移動エネルギー、乱れています ↑PAN	
462	放電	
463		ゼル「ダメだ!!」
464	エネルギー炉 あちこちで小爆発がおきる（PAN合わして） PAN↓	
465	ゼル、光消える 橋をわたる	
466	←付けPAN	側近「ゼル様……」 ゼル「ダメだ……次元移動エネルギーをコントロールできない……。想いが……ノアへの想いが足りないのか……」 側近「ゼル様、やはり人間の力では、次元を越える事はできないのでは……」
467	キッ！と見るゼル	
468		側近「（ビクついて）いや……ゼル様のお力を疑うわけではありません。ただ、ノアから来た娘の事が気になりまして…」
469		ゼル「レダの戦士か……」
470		側近「ハイ、もし我々が、伝説のあやまちをくり返しているとしたら、世界の終り……。ゼル様、今一度お考えを……」
471	額の宝石に映っている側近 ↑PAN ずおーっと画面いっぱいに ヒュン！と奥へ	ゼル「どうした、おじけづいたか」
472	BG（トーカ光）アシャンティ大フカン PAN↓ 大フカン	ゼル「見るがいい、レダにみすてられたアシャンティの大地を。〜 老いさらばえ、活力を失い、かつての栄光は、見るかげもない」
473A		ゼル「今さら何を恐れる。我々のなすべき事は一つ、美しいノアの世界をこの手におさめるのだ！〜 それが判らぬというのなら、アシャンティの大地と共に朽ち果てるがよい！」
473B	T・U	
474A	↓ちょい付けPAN 大地、大フカン ヒューンと落ちていく	側近「うわ――っ！」
474B	ハッと顔をあげる側近	
475A	元の場所	
475B	側近、ヨロッとあとずさる →付けPAN	ゼル「次元移動エネルギーを操れる者がいる」 側近「ハ？」

カット	内容	セリフ
476A		ゼル「レダの戦士ならそれができるはずだ。（―間―）ノアの娘をあぶり出せ。どうせあの神殿あたりだろう」 側近「は……はい」
476B		ゼル「本当にレダの戦士かどうか、確かめるのだ」
477	←PAN 遺跡 暗闇に光が二つ近づいてくる 偵察ポッド、二機、大きくout	
478	池 水面、光がよぎる	
479	池の前 偵察ポッド、ウロウロしてる	
480	ミサイル発射	
481	中央の渡りが破かいされる	
482	天井 ヒビが入り、水ふき出す	
483	水、巨人ロボットの上にふりそそぐ	
484	ロボット足元なめ	
485	立ち止まり	陽子「どうしたの？」 ヨニ「ゼルよ！見つかったんだわ……」
489	池 水が吸いこまれていく 偵察ポッド、照明弾発射！	
490	遺跡 アオリ 照明弾、上昇して光る！ 強烈な光に照らし出される遺跡 フカン そこに次々と降下してくる戦闘ポッド	S・E（ヒュルルル……パンッ）
492	地下神殿 台← 走る陽子、リンガム	
493		
494	巨人内・コックピット ハシゴを登ってくるヨニ、操縦席へ	
495	スイッチ類をいじる	
496	巨人 アオリ 天井が開いていくむこう、戦闘ポッド↗in〜 out	
497	レバーを引くヨニ	
498	腰かがめる巨人 A・C	
499	天井開ききる	
500	巨人、足を踏んばって、ジャンプ！	
501	外 飛び出してくる巨人	
502	↶付けPAN 空中で戦闘ポッドに当り、こわれる	S・E（ズ〜〜〜ン……）
503	着地	
504	↘付けPAN こわれた戦闘ポッド、地下神殿の中へout して、爆発	
505	巨人のまわりを飛び交う戦闘ポッド 二、三機叩き落とす	
506	台→ 機銃を撃つポッド	

シナリオ

カット	内容	セリフ
507	ポッド見た目 ぐいーんとせまり、戦闘ポッド、大きくin 奥へ 手がのびる つかむ 光でて、爆発！	
508	地下神殿・入口 ポッド三機、入っていく	
509	同内 侵入していくポッド	
510	翼の間 飛行機に駆けよる陽子	
511	コックピットに乗る	
512	操縦桿を握ってる陽子の手 中央の玉、光り出す	
513	エンジン点火して 奥へ	S・E（キイイィ……ン…… ドキュ―――ン……）
514	↖付けPAN 廊下を飛ぶレダの翼	
515	背動←引き	
516	ん!!となるリンガム	
517	背動 ギューンと手前に来るポッド	
518	ムッ！となる	
519	飛びながら変形 ロボットに（レダのヨロイ）	
520	背動 撃ってくるポッド	
521	ロボット、銃弾をうけたり、よけながら手前に コックピット、UPまで	
522	ポッド	
523	背動 ロボット、来るポッドを一撃！ 二撃！ 三撃！	
524	手前にくるこわれたポッド 手前いっぱいで爆発!! 画面いっぱい	
525	神殿・入口 ⤸付けPAN とび出してくるロボット	
526	BG、夜明け前 上昇して ↘台 変形 飛行形態に	
527	台← フカン	リンガム「あそこじゃ！ ヨニのやつ、苦戦してるようじゃぞ」 陽子「ようし！」
528	ぶわっと手前にお腹みせて、ヒューンと奥へ	
529	機銃を乱射	
530	巨人の頭上 ポッド、次々と爆発！ 手前を横ぎる	
531	旋回⤺付けPAN	
532	ポッドの猛攻に、押され気味の巨人	
533	↗台 ポッド、ミサイルランチャーを出し、撃つ！	
544	ミサイル、巨人に命中、二発	
545	ブレ⇅ ヨニ	ヨニ「キャッ!!」
546	巨人の胸 ↗体をおこす 装甲がはずれ、中の歯車が見える	
546	↗台 ポッド、ミサイルランチャー出て、撃つ！	
547	ミサイル、巨人とそのまわりに次々と命中	
548	巨人 アオリ バラバラ歯車やらネジやらが落ちてくる	
549	→台	リンガム「巨人がやられるぞ！ 陽子、なんとかせい」 陽子「やってみる！」
550	奥へタメて、旋回して ⤺付けPAN 機銃を撃つ！ 機銃、ポッド追い、着弾あって爆発 手前をレダの翼、通過	
551	ガクッとヒザをつく巨人	
552	巨人、どこかのUP バラバラととびだす歯車類	
553	巨人の足元 バラバラと落ちてくる歯車類 はねて手前にきたり	
554	↗台	リンガム「いかんぞこりゃ！」 陽子「むこうが多すぎるぅ！」
555	↗台 ぐらーっと手前にたおれてくる巨人 頭部、ぶっこわれて、コックピットのヨニ見える コックピットごと空中へ ⤻付けPAN 画面手前に	
556	うつぶせにたおれ込む巨人 歯車手前に	
557	↓台 ヨニの飛行機、ポッドを追う 機銃命中 爆発するポッド ケムリ手前に	
558	↗台 空中 近づくヨニ、陽子	陽子「ヨニ！ そういう仕かけになってたの……私、もうどうしようかと思っちゃった……」 ヨニ「心配御無用！うまいことできてんだから……」
559	奥から来る戦闘ポッド三機、機銃乱射！ 二手に別れる陽子、ヨニ 手前に来るポッド	
560	↗台 ポッドのうしろをとるレダの翼	
561	↗台 機銃を撃つ陽子	
562	右から順番にポッドを撃ちぬいていく ↘台 次々と爆発、炎上	
563	遺跡にケムリを引いて落ちるポッド、爆発！	側近「まちがいありません。レダの翼です。やはり、あの娘、レダの戦士だったようです」
564	（点滅） PAN↓	ゼル「よし！出むかえの準備だ」
565		側近「はっ……しかし、レダの戦士を利用するといっても……どのようにして…」

カット	内容	セリフ
566	宝石、赤く光る ↑PAN	ゼル「盗むのだ…レダの戦士の心をな…」
567	台↑ 台↓BOOK 陽子、ヨニ、大きくinして、ドーーンと奥へ 点になるまで	
568	陽子、ヨニ ↙引き ↗台or背動 廃墟を低空飛行	
569	↖台 ↘引き 見張り塔	
570	↓台	
571	↗台	リンガム「ん?……攻撃してこんぞ……」
572	↖台	ヨニ「レダの翼を見て、おじけづいたんじゃない」
573	T・U 背動	
574	背動 上昇してくる	
575	→引き レダの翼、ヨニ、大きくinして奥へ	
576	見張り塔をかすめて飛ぶ、レダの翼、ヨニ	
577	↙台(密着)	
578	↖台(大フカン)	
579	↙台	
580	↑付けPAN 大きくinして奥へ行く(浮遊城の大きさを出すため、点になるまで)	
581	浮遊城に降下してくるレダの翼、ヨニ	
582	↓台	
583	浮遊城・割れ目 ↓台(二段)レダの翼、大きくinして割れ目の中へ	
584	背動 奥へまわり込んで腹みせて 腹、画面いっぱいより奥へ背動きれて ↙台 浮遊城・内部 T・U 浮遊物 →引き←	
585	↗台	
586	↖台	
587	中空都市 降下していく ↓付けPAN	
589	↗引き 中空都市 アオリ	
590	in通路へT・U ↑BOOK ↑台 地下通路 cut尻inして奥へ	陽子「ヨニ。あそこ、入口じゃないかしら」 ヨニ「らしいわね。行ってみましょう」 陽子「ええ」
591	通路前 ↓付けPAN降下してくる	
592	↑台 陽子、変形してロボットに噴射して	
593	穴の奥へ	
594	着地	S・E(ガコー……)(エコー)
595	←PAN	S・E(シーン)
596	T・B	リンガム「簡単にいきすぎて、かえって不気味じゃなァ……」 陽子「エエ……」
597	はっ!とする 来る、メカ →引き	

カット	内容	セリフ
599	お出むかえメカ ↘引き 近づく 止まる	お出むかえメカ「ようこそ、ガルバ城へ。お待ち申しておりました」
600	T・B あちこち点滅	お迎えメカ「食事の用意も整っております。さ、こちらへどうぞ」
601	(横位置)	陽子「どうする、ヨニ……?」
602	一同キョトン	ヨニ「罠かもしれないわよ!」 リンガム「それでも、あてもなくウロついてるよりは、ましなのではないか。いざとなれば、こっちにはレダのヨロイもある事だし」
603	止まって振りむく	お迎えメカ「どうしました?御料理が冷えてしまいますよ」
604		ヨニ「ようし、行ってみっか……でも、陽子、油断しちゃダメよ」 陽子「わかってる!」
605	進む、陽子、ヨニ	
606	↘台 背動 中へ BG 中O・L(トーカ光) 画面いっぱいに F・O	
607	黒ベタ 左右に開く BGトーカ光 ↘O・L ノーマルBG 大広間(ばかでかい!) ↓PAN 中央にテーブル	
608	入口、中へ入る	お出むかえメカ「ゼル様。お客様をお連れしました」
609	→PAN	
610	T・B	ゼル「ようこそ……レダの戦士よ」
611	陽子、リンガム、ロボットのコックピットから降りる	
612	ヨニも降りてくる 着地	
613		陽子「あなたが……ゼル」
614		ゼル「光栄だね……私の名を知っていていただけたとは……。さあ、どうぞ掛けておくれ」
615	にらむ陽子	
616	ゼル、立ち上る	ゼル「フフ……」
617	台↙手前へ	ゼル「そんなに、コワイ顔はやめてほしいな……。これでもずい分手加減はしたつもりだよ。判らなかった」
618	一歩近づく	
619	一歩うしろへ	←(こぼす) ゼル(off)「それとも…、もっとやさしくして欲しかったの?〜こんな風に」
620	かがむカンジで手前に	
621	キスしようとする	
622	陽子、とっさにあらがう バチン!!とビンタ!(A・C) cut尻スロー ニヤッ	
623	陽子、スロー	
624	↙一歩後退して踏みとどまるゼル 陽子	

シナリオ

カット	内容	セリフ
625	間↓	陽子「ゼルさん。私のテープ……いや、レダのハートを返して下さい」
626	奥へ	ゼル「そうだったね……」
627		ゼル「あれは、あなたのモノだったね。もちろんお返しするよ」
628		ヨニ「フンッ！調子のいい事いったってダメよ。あんたのたくらみはみーんな判ってんだから」
629	テーブルのはし　ふりむくゼル	ゼル「ウソではない！レダのハートは、ここにある」
630	そのUP!!	
631	陽子、あっとして	
632	思わず駆け出す陽子 ↖付けPAN　ズビュン…バリヤーにぶつかる（ハイライトのみで）	ヨニ「あっ、陽子待って……」
633	振りむく陽子、はねとばされる ヨニ、手前にたおれる	
634	起き上がって	リンガム「何じゃ！空気の壁？」 ヨニ「ちっくしょう……」
635	バリヤーをどんどんと叩く（叩くとハイライト走る）	ヨニ「陽子！陽子!!」
636	（こっち側はむこうの声は聞こえない）振りむき、剣をかまえる（ポーズよろしく） ↙付けPAN	ゼル(off)「彼女には少し黙っていてもらおう」
637	T・B	ゼル「我々はレダのハートをさがしていた。だが、このアシャンティにはそんなものどこにもなかった」
638	←テーブル越しPAN（密着）	ゼル「ところがある日、我々は異世界ノアからのレダの波動のキャッチした。次元の壁を越えたその波動こそ、レダのハートであるはずだった。我々は、それをアシャンティに引きこもうとした。そして、あなたは、我々の呼びかけに答えた」
639		陽子「呼びかけ……？」 ゼル「そう、我々はあなたがこちらに来るのを助けただけ。あなたが、アシャンティに来たのは、あなたがそれを望んだからなのだ」
640		陽子「ウソ!?……。私、別の世界があるなんて知らなかったわ」
641		ゼル「じゃあ、あなたは自分の世界から逃げだしたかったのではないかな」
642	ハッ……	
643	インサート　C―29兼	
644	ぐっとつまる	
645	ヨニ飛行艇、機銃を撃つ	S・E（ズダダダダダダ……）〜〜〜
646	飛行艇なめ、機銃弾、バリヤーにはねかえされる。	
647	機銃、撃ちやむ	ヨニ「だめ……全然歯がたたない……」 リンガム「陽子……」
648	兼	ゼル「どうしました。図星ですか。フフーつまり、あなたは来るべくしてこちらに来たのですよ」
649	ぐいと顔を上げ	陽子「確かにあの時は、そんな気分だったわ。でも、今は違う。私、自分の世界に帰りたいし。あの世界で生きていきたいと思ってるわ」
650	数歩前へ	ゼル「それは、都合がいい。だったら、我々と一緒に行けばいい。もうすぐこの城は動き出す。ノアにむかってね」
651	正面	陽子「そんな事、させないわ！」
652	正面	ゼル「レダの戦士は……レダそのものではない……」
653	正面	(off) その肉体は、私と変らね生身のもの…愛し合う事だってできるはずだよ。
654	動画でずおーっと手前に、額の玉に映っている陽子 そのままずおーっと陽子のUP 陽子の瞳のUP、映ってる！ ゼルの額の玉UPに。映ってる 陽子　陽子の目のUP　くり返しだんだん早く　光の爆発	(on) 愛し合う事だって……（フィードバック）」
655	ショック！	
656	ショック！	
657	ショック！	
658	ショック！	
659	ガチャーン…と落ちる剣	
660	ヒザをつく陽子　前のめりにたおれる	
661	あっとなるヨニとリンガム バリヤーをどんどん叩く	ヨニ「陽子……どうしたの!?　陽子！」
662	ガチャガチャと来る衛士ロボ↓ （in不要）	
663	振りむいてT・B　衛士ロボにとり囲まれているヨニ、リンガム	
664	ゼル、陽子の方に歩み寄って① ②↑①PAN	ゼル「たわいもない……フフフ……」
665	額の宝石に映っている、気絶している陽子	
666	浮遊城　フカン	
667	T・B	
668	衛士ロボ	ヨニ「やい！ゼル、いったいおまえ陽子に何をしたんだよ」 リンガム「まさか……殺したんじゃないだろうな……」
669		側近「我々には、レダのハートのエネルギーを使いこなせなかった。だから代りにレダの戦士に操ってもらおうというわけさ」
670		リンガム「なんじゃと……!?」 ヨニ「ど……どういう事よ……？」

カット	画面	セリフ
671	↓PAN	
672	→エネルギー炉 PAN	声Ⓐ「次元移動エネルギー発動。レダパワー全開」
673	コントロール室	「次元座標軸、確認！誤差修正……」
674	浮遊城なめ、ノアのしんきろうのまわりに、光がうずまく	
675	展望室	ゼル「もうすぐ、次元の扉が開く。新世界への旅立ちの時がきたのだ。そうだ、約束通り、その機械は、お返ししておこう」
676	衛士ロボ、ヘッドフォンステレオをリンガムの首にかける	ヨニ「じゃあ、レダのハートは……?」
677	T・B ↓降る 密着in 画面におおう絵O・Lして陽子（Wし）になり浮遊城内の様々なメカシステムに（毛細血管とか内臓とか人体内部のイメージで）	ゼル「レダのハートの音声パターンはすでに解読した。その音声パターンから生まれる次元移動エネルギーをレダの戦士を通して浮遊城に流し込んでいるのだ」 ゼル「彼女は、文字通り、この浮遊城のハートになったのだよ。ノアへの想いを秘めたな……」
678	ノアのしんきろうのまわりうずをまく	
679	浮遊城 ↗引き 街からアオリ ガレキが舞う 建物もくずれて舞い上る	
680	展望室	ゼル「もう誰にも止められない。新しい伝説の誕生だ!!」
681	ヨニ、リンガムの足元、穴が開き球がいくつも出てくる	
682	→PAN ヨニ、リンガムのまわり 8の字を描いて飛ぶ	リンガム「な……なにをする気じゃ！」
683		ゼル「おまえ達には、死んでもらう。いわば、ノアへの、いけにえというところだ」
684	台↘ シャキッ！と刀が出て回転 手前へ	
685	→付けPAN 球、ヨニのほっぺをかする	「キャッ」
686	リンガムにも、ピタッと止まりゆっくり漂う	「ヒエエエ……」
687	←PAN	ゼル「フフフ……すぐには殺さん。浮遊城が次元の道を越えるまでに、ゆっくりとな……」
688	ヨニ、リンガムのまわりをヒュンヒュンと飛ぶこむ（ゆっくりただよいながら一つずつ、攻撃してきます）	ヨニ「陽子！起きて！目を覚ましてっ！陽子！お願い」
689	額の宝石に映っている陽子 ↑PAN 動画でT・U止めなし O・L	ゼル「ムダだよ……彼女は今、夢の中だ。ノアへの想いをこめた、甘い夢の中だ…誰にもじゃまされず……幸福な夢にひたっているはずだ……」

カット	画面	セリフ
690	フォーカスinぶくみのO・L 帽子UP 振りむく陽子	ヨニ（エコー）「陽子……陽子……」 陽子「え!?……」
691	Ⓐ君缶コーラを差し出す 冷たそうな缶	Ⓐ「はい、陽子」
692	（プールサイド）Ⓐ 陽子に缶コーラを渡す Ⓐサンチェアーにねそべる	陽子「あ……ありがとう……」 Ⓐ「何、ぼんやりしてるんだよ……」 陽子「ううん、別に……」
693	コーラを飲む	Ⓐ(off)「ねエ、覚えているかい、あの並木道を……」
694	ハッとして	
695	並木道、入射光	
696	（プールサイド）手前	Ⓐ「あの時は、少しオドロイたけどね…君が急に話しかけてきて……」
697	Ⓐ君に話しかける陽子	
698	照れくさそうに うれしそうにして ハッとして	Ⓐ(off)「でも、そのおかげでボクはこんなステキな恋人と巡り逢えたってわけさ」 陽子「そう……そうだったわよね……ねエ……あの時私の持っていたテープ、どこにいっちゃったのかしら……」 Ⓐ「え?どのテープ……?」 陽子「ホラ、私がヘッドフォンステレオで聞いていた……」 Ⓐ(off)「ハハハ……何言ってるんだよ。あの時、君はそんなものつけてなかったよ」 陽子「そうだったかしら……」
699	プールサイド ざわめき	
700	タメ息ついて	陽子「だめだわ……想い出せない……人が多すぎるんだわ……」
701	目を閉じる	S・E（ざわめき、遠のく）
702	空トーカ光 舞うカモメ	
703	陽子、え？と目を開く	
704	うちよせる波	S・E（ザッパーン……）〜
705	海辺、砂浜にⒶと陽子	
706	Ⓐ君なめて陽子 陽子、立ち上って前	
707	←PAN 潮風になびく髪	陽子「……海……海だわ……」
708	フカン気味	Ⓐ「おかしいよ、今日の陽子は…。君が来たいって云ったんだよ」
709	振りむき	陽子「ねエ、確かにあったわ！」 Ⓐ「何が？」 陽子「テープよ、あの曲を入れたテープよ…」 Ⓐ「又、その話かい……でも、ボクは覚えてないよ」 陽子「ウソ……あなたにも聞かせた事があるはずだよ……ホラ、あのメロディ…」
710	がくぜんとする	「……メロディ……!?想い出せない！」
711	Ⓐ、陽子の背後にまわりin、肩に手を	Ⓐ「陽子……。そんな事、どうでもいいじゃないか。今、ここにこうしてボク達はいるんだ……それ以上、君は何を望むんだい？」
712	波、よせてきて	S・E（ザバーン……）
713	風、強く	Ⓐ(off)「愛してるよ……陽子……」

シナリオ

カット	内容	セリフ
714	カーテン、なびく	
715	（シーサイドホテルの一室）向き合っている陽子とⒶ 窓から入ってくるエイ	
716		陽子「ねェ……あの曲」 Ⓐ「愛してるよ」 陽子「あの曲は確かにあったわ」 Ⓐ「愛してるよ……」 陽子「あなただって聞いたはずよ……」 Ⓐ「君が好きだ」 陽子「想い出して……お願い!!」
717	フカン 二人のまわり飛びまわるエイ	Ⓐ「愛してる……君が好きだ……愛してる……君が好きだ……」
718		陽子「こんなのウソだわ！」 Ⓐ「ウソって何が……」 陽子「あの曲は、あったもの！本当にあったもの！そうでなきゃ、あなたと私がここにこうしているはずがないわ！」
719		
720		陽子「ウソよ！」
721		「こんなのデタラメよ！」
722	ゼル 額の玉 激しく点滅 のけぞる にらむ	ゼル「なにっ！」
723	→PAN 陽子のまわりから激しく放電	
724	↑PAN	陽子「ウソよ……ウソだわ……」
726	ノアのしんきろうのまわり放電	
727	コントロール室	Ⓐ「次元座標軸混乱」
728		
729		
730	城内、工場、調べられているレダのヨロイ ↑PAN	
731	ヨロイ、頭部、光 ピーン！と入る	
732	その手 ゆっくり開く	
733	ヨロイ、ゴンドラをはねのけ、前へ	
734	ヨロイの足in 逃げまどう衛士ロボ 奥へ行くヨロイ	
735	浮遊城 引き→ しんきろう放電	
736	エネルギー炉放電	
737	展望室、放電してる陽子	
738	球、シャカッと整列して、ヨニ陽子のまわりをまわり出す	ヨニ「陽子！起きて！早く目を覚まして！」 リンガム「起きてくれーっ！」 ゼル(off)「黙れ!!」
739	陽子、激しく放電、苦しそう	
740	目を閉じ念ずる 額の宝石に、T・U 光る	ゼル「なぜだ……なぜ夢から逃げる……」
741	兼 陽子にT・U	
742	兼 ゼル、額の宝石に映っている陽子 動画でT・U	
743	ゆっくり目を覚ます陽子	

カット	内容	セリフ
744	←PAN 夕暮の教室 エイに付けPAN← 黒板の前にⒶ	Ⓐ「陽子……、迎えにきたよ。一緒に帰ろう。今日はクラブの練習はないんだ。サ店にでも行こうよ……。君の好きなモノをおごるよ」
745		
746		陽子「……何でも……」 Ⓐ「ああ…欲しいものを言ってごらん」
747		陽子「じゃあ、あのメロディを想い出して」 Ⓐ(off)「何を云ってるんだ……」
748		陽子「私が、あなたに声をかけた時、持ってたテープよ……あの曲よ……」
749		Ⓐ「……どうしても……」
750	うなずく陽子	
751	Ⓐ君の前をエイ、隠すように、in—out ゼルになっている 影の中から出てくる	Ⓐ「……」
752		陽子「ゼル!?」
753	黒板、メキメキと盛り上り ドコーン！と巨大なエイがとび出してくる	
754	右へ逃げる陽子、巨大なエイ、↘inして、奥へ机、風圧で吹きとぶ	
755	教室から飛び出してくる陽子 ドーンと壁をつき破ってとび出してくるエイ ずおーっと陽子を追う	
756	階段 登る陽子 追ってくるエイ	
758	屋上、おどり場登ってくる陽子	
759	ドアに	
759	ドアが開く T・U むこう、BGトーカ光	
760	↖陽子 光の中へ セーラー服吹きちぎれていく	
761	屋上の建物 吹きちぎれた服の下は戦士のスタイル ぶちこわしてとび出してくるエイ	
762	光の中、戦士の姿、陽子 奥へ（BG考） 巨大エイ in カメラまわり込む 剣を、ぬく！	
763A	陽子の足なめ 迫るエイ 陽子ジャンプ	
763B	旋回するエイ	
764	背中にザクッ！	
765	剣をぬく	
766	落ちるエイ のたうちながら手前 目玉のUPに	
767	（浮遊城内・大広間） ゼルの額の玉 身をおこす	Ⓜ（〜クライマックス）「うおっ！」

カット	内容	セリフ・S・E
768	床を光が走る 床がバン！と はじけて飛び浮く	
769	←PAN エネルギー炉、下から爆発していく	
770	城内、中球都市 火の玉 内部から爆発	S・E（ちゅどーん！）
771	展望台 破片舞っている	
772	陽子、目を開ける↗付けPAN 起き上る陽子	
773		リンガム・ヨニ「陽子！」
774		
775	城内 あちこち爆発	
776		
777	起きる陽子（続き） ↗付けPAN	
778	→PAN	ヨニ「陽子ーっ」 リンガム「た……助けちくれーっ」
779	↘付けPAN 陽子、振りむき剣をぬきながら、体のまわりの光ふきちぎれていくカンジ	
780	着地！	
781	←PAN（動きにあわせて） 剣球一斉に、左へ	
782	陽子のもとにinしてくる剣球 次々と切りこわしていくものすごく早く	
783	T・Bむこうの鏡を破ってレダのヨロイ現れる	
784	破片バラバラ落ちてきて、衛士ロボ後ずさる レダのヨロイ足in	
785	↙付けPAN 身をかがめるレダのヨロイ	
786	手inして、リンガム、ヨニのいましめをこわす	「うほほーい！」
787	後ずさる衛士ロボ、レダのヨロイ、手inして、つかみあげる	
788	逃げようとする衛士ロボ、つかまえる	
789	持ち上げて、にぎりつぶす 爆発!!	
790	↘付けPAN 球剣、最後の一個	陽子「フウーッ！これでおしまいね」
791	ブレ破片等落ちてくる	ヨニ「陽子ーっ」 陽子「ヨニ、リンガム」 リンガム「ホレ、おまえさんの機械は、ここにあるぞ」 ヨニ「さ、早く逃げましょう。くずれてくるわ……」
792	ガクッとヒザをつく側近	側近「なにもかも……伝説のとおりに……」
793	ゼル、怒り……くやしさ ←PAN	

カット	内容	セリフ・S・E
794	ゼル、腰の剣をぬく、手元のUP ギラン!!	
795	ハッと振りむく、陽子	
796	だだだっと走るゼルの足元UP	
797	ミゾをとび越すゼル	
798	すばやく、剣をかまえる陽子	
799	（黒ベタ）陽子に切りかかるゼル（スロー）	
800	（黒ベタ） 額の宝石に宝石のベタ	（Mカット、音無し）
801	並木道をすれ違う陽子とA君（止メ）	
802	引いて（止メ）	
803	引いて 空、黒ベタ	
804	さらに引くと空に浮遊城 ビシッとヒビが入り 空ごと浮遊城割れる	S・E（ビシッ〜〜〜〜） S・E（バリーン……）
805	△オーバー ▽ノーマル 剣をつきたてている陽子 （スロー）↘破片	Ⓜ（F・I〜）
806	T・B ↘破片 T・B 信じるわ ぐいと目をむくゼル	
807	陽子の剣、額の宝石に突きたってる 黒ベタ O・Lして一マルBG 割れ目から炎	
808	額の宝石につきたってくる剣 ↓UP（スロー）	
809	よろっと後ずさるゼル	
810	後退していくゼル	
811	下って来て、ミゾに落ちる	
812	ゼル、画面いっぱいより、落ちていく 下から炎、画面いっぱい	「うわ〜〜っ！」
813	中球都市 あちこち爆発 ↓PAN	
814	浮遊城 うず消えていく すき間から火が吹き出し、見張り塔まきこまれて爆発!!	
815	落ちていく 見張り塔 浮遊城 あちこちで爆発 爆発	
816	浮遊城 見張り塔ぶつかって爆発 落ちていくもの、爆発	
817	浮遊城あちこちで爆発 ↘引き アオリ 下、建物くずれていく	
818	城内レダのヨロイ 付けPAN in—out あちこち爆発	
819	浮遊城表面 あちこちから火が噴き出している 飛び出してくるレダのヨロイ	
821	レダのヨロイ来てout ↘浮遊城 ↘引き 落ちる 落ちてくずれる	

シナリオ

カット	画面		セリフ
822	↙台　レダのヨロイinして、変形して翼		
823	見降ろしている　台←　→引き		
824	→台（ゆっくり）大フカン　くずれていく浮遊城		
825			ヨ　ニ「レダパワーを、復活するのは、これでふりだしかァ……」 陽　子「ゼルは、どうして、あれだけの力をアシャンティのために使わなかったのかしら……」 リンガム「まったくじゃ、アシャンティもまだ捨てたもんではないのにのォ…」
826	遠くを見るカンジ		陽　子「……そして、ノアもね……」
827	↙台　上昇していくレダの翼 入射光		リンガム「さア、急がんと、次元の道が閉されてしまうぞ」 ヨ　ニ「そうよ、ノアのしんきろうが消えないうちに」
828	ノアのしんきろう、うすれていく　奥へ行くレダの翼		
829	↙台		陽　子「ゆっくりお別れをしてるヒマもないわね」 リンガム「まーそのうち又会えるさ」 ヨ　ニ「あーあ、私も陽子みたいに恋でもすっかなァ」 リンガム「相手がおればな」 ヨ　ニ「(ムカッ!!)なんですって！」 リンガム「(とぼけて)おっと、急げ陽子、しんきろうがうすれていくぞ」 ヨ　ニ「フン！だ」
830	ハッとして見る		陽子(off)「ありがとう、ヨニ」
831	↖台		陽子(off)「ありがとう、リンガム」
832	左右見てフウッ……　一同微笑 大全　目をとじる		
833	スイッチを入れる		S・E　（ピアノ曲）
834			
835	台↖　動画で奥へ　BG0・L トーカ光　陽子以外もいない （トーカ光）これもトーカ光 （オス・メス・マスク要） 吹き流れる　気持よく空を飛ぶカンジ　光のフォルム吹き流れてくる　喜びの表情 まわり込んで　胸　ヒュンッと奥へ　消える　全面トーカ光になる		陽子(M)「今なら言える…きっと言える…」
836	並木道　木の枝のUP		
837	目を開ける陽子　目線上に		
838	並木道に立っている　0・L		
839	→PAN		
840	落ちる木の葉（兼）		
841	枯葉、陽子の前をひらひら（兼）		
842	木の葉、陽子の足もとに落ちる		

カット	画面		セリフ
843	陽子、はっとして		
844	振りむく　↗付けPAN		
845	見たメ　遠去かっていくⒶ君		
846			
847			
848	陽子、ニコーッ……ハッとして目線おとし		
849	ヘッドフォンステレオのスイッチに手をのばす		
850	ちょっと考え、小さくかぶりをふって		
851	スイッチを切る		S・E　（ピアノ曲ストップ）
852	ヘッドフォンをはずし		
853	本体にひっかけ、前を見る		
854	T・B　フカン		(M)　（エンディング）
855	T・B　はればれとした顔 深呼吸して、決意		
856	（スロー）トーカ光　走り出す 陽子足　力強く地面をける！		（エンディング前奏）
857	スロー　→陽子		
858	T・B—PAN(動きにつけて)		
859	立ち止まる　Ⓐ君の足 振りむく　↙PAN　立っている陽子		(歌)「♬すれちがった瞳に後で気づくように ♬想い出達だけ輝くのは何故 ♬遠くで見ているあなたへの愛が ♬ときめく気持を押さえられないのよ
860	陽子、Ⓐ君　T・B　大阪		♬今、風と愛のセレナーデ、心が虹になるメッセージ
861	青い空　白い雲　平和な町並 （ノーマル色） ↑PAN　T・B		♬東の空高く伝えたいのどんな星屑よりも ♬きらめく私を見つめていてー」

〈お　わ　り〉

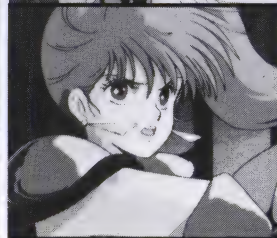
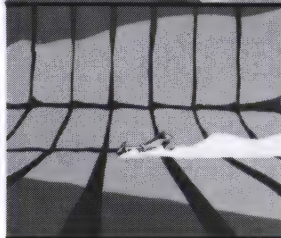
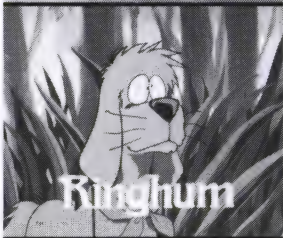
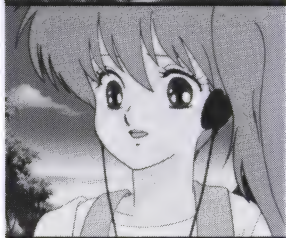
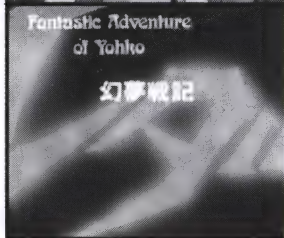
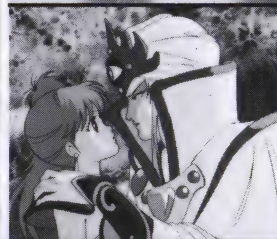
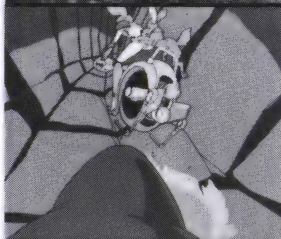
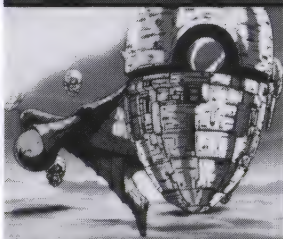
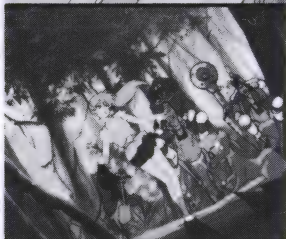
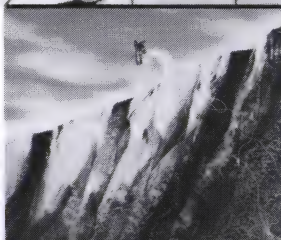
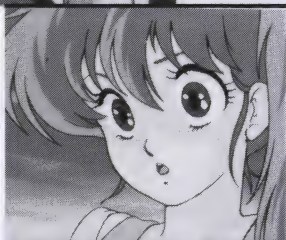
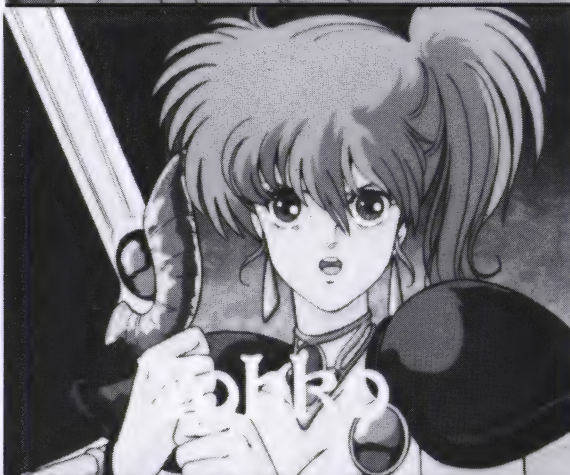
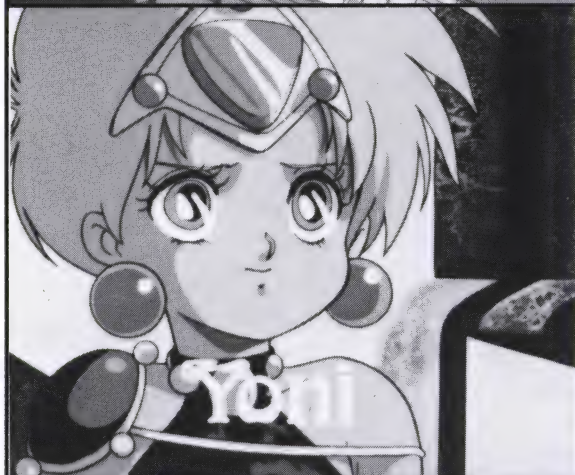
Trailer Film

予告編フィルム完全公開

この予告編フィルムは，ビデオのセールスプロモーション用にハイライト場面をまとめあげたもので，1984年11月上旬にできあがった。一部，完成フィルムと背景などが異なる部分がある。

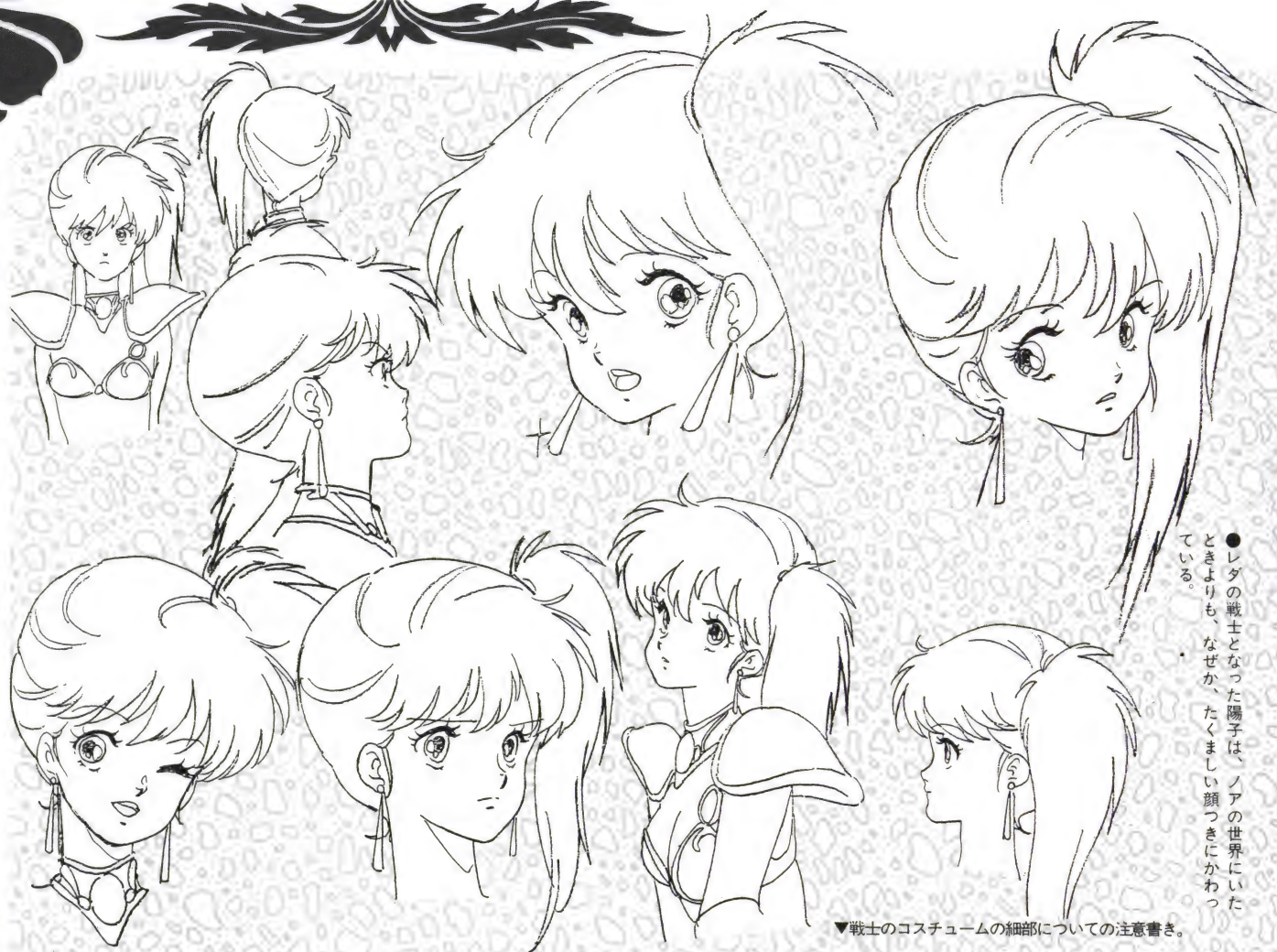
ナレーション

１年５か月という時が，
人を思うのに長すぎるのか，
短すぎるのか，わかりません。
でも，その思いをこめ，
この曲を作りました。
この曲ができたとき，
わたしは決心しました。
彼に告白しようって。
わたしがレダの戦士？
奪われたメロディーを求め，
アシャンティの空に
わたしは飛ぶ。
帰して，わたしの世界に。
リンガム，ヨニ，わたしを助けて。
レダのハートは渡さない。

TRAILER FILM

Character Design

朝霧 陽子

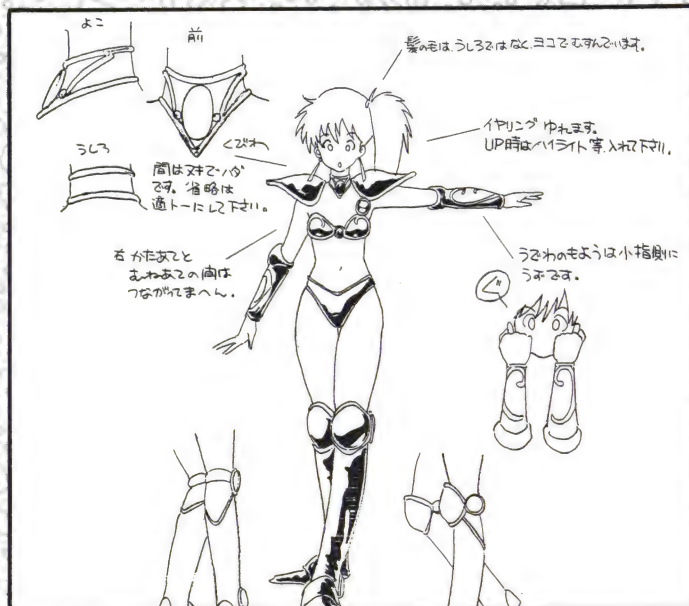
●朝霧陽子は、多感な女子高校生。あこがれの少年への思いをこめて、一年と五か月もかけて完成したピアノ曲によって、異世界アシャンティへひきこまれる。

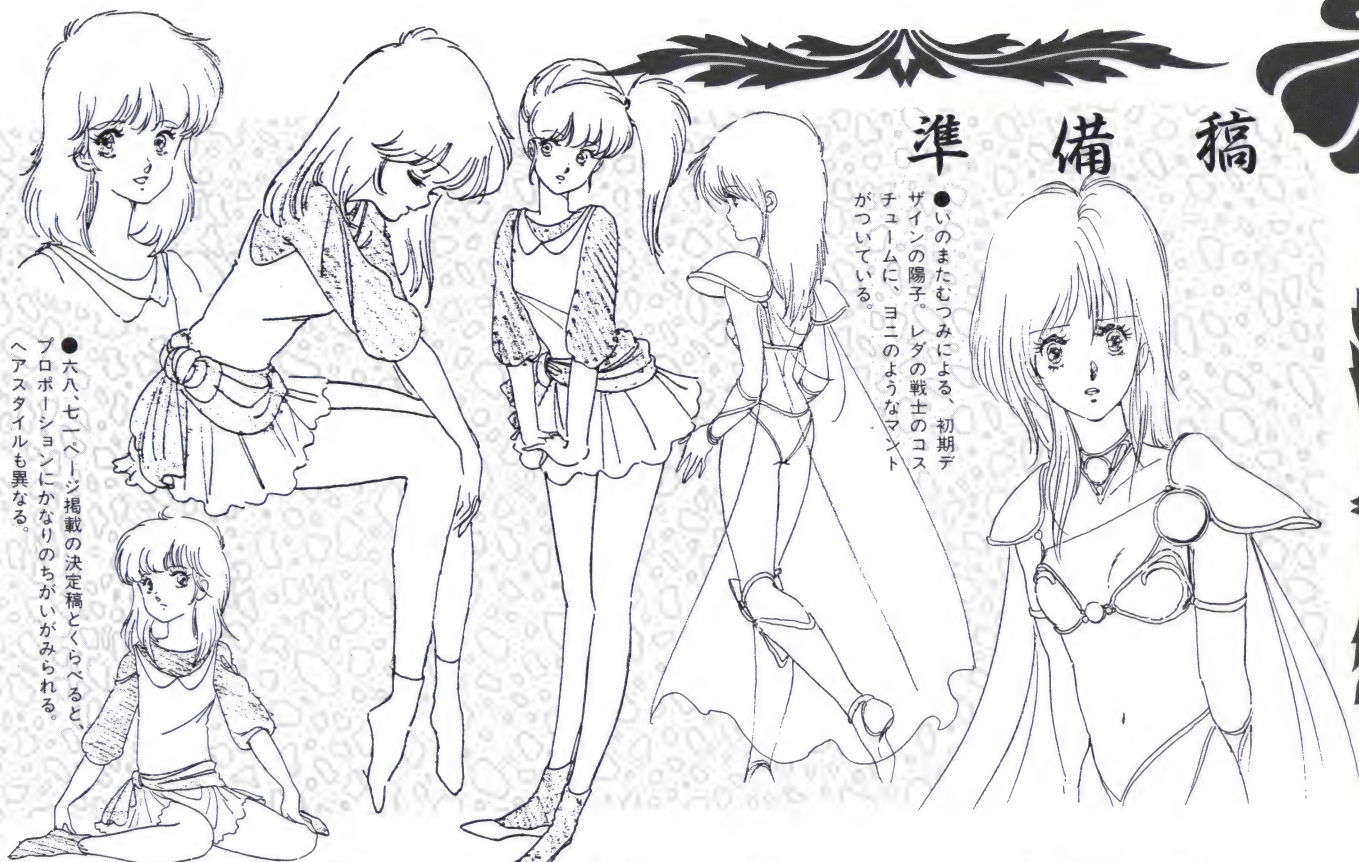
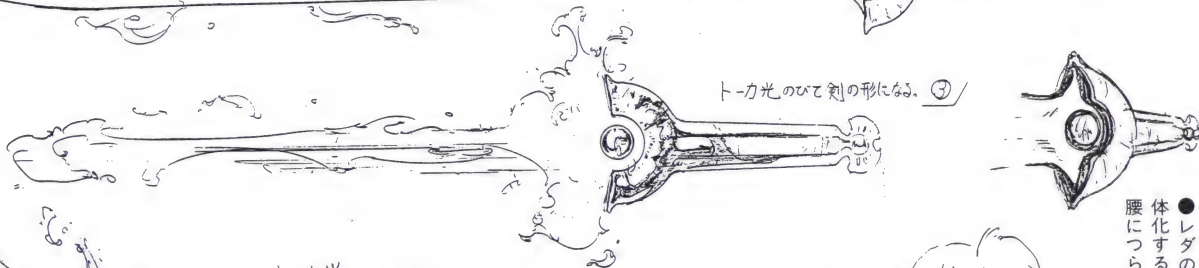
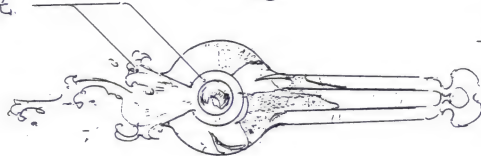
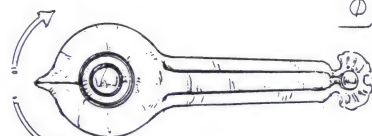
キャラクター・デザイン

●レダの戦士となった陽子は、ノアの世界にいたときよりも、なぜか、たくましい顔つきにかわっている。

陽子は大好きなキャラクター

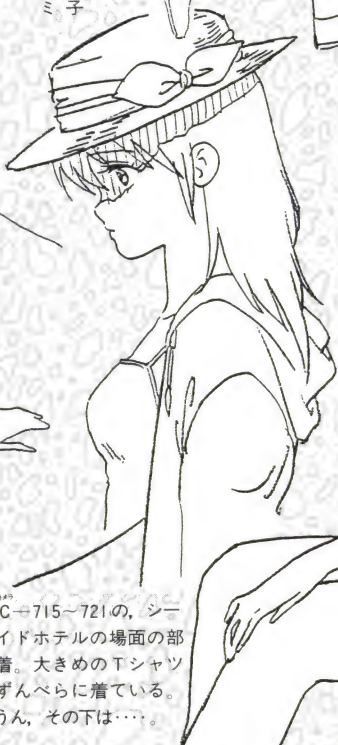
声優／鶴ひろみ

陽子のキャラクターはとってもかわいくて，初めて見たときに，これはぜひやりたいなあって思いましたね。特にレダの戦闘スタイルになったときの下半身のりっぱさには親近感をいだいたりして(笑)。やっぱり，自分で好きになれるキャラクターだったということと，ヒロインとしては久しぶりのお仕事でしたので，自分なりにがんばったつもりです。ただ，私は根はひょうきんなんですけど，声をだすと，なぜか暗くきこえてしまうらしくて，なるべく明るい声をだすように注意しました。ふつうの女子高生という，そのふつうらしさをだすのが難しかったですね。作品の印象としては，見終わったあとにすてきな気分になれるっていうか，学生時代を思いだしてちょっぴり懐かしい気分になりました。ヨニやリンガムとの別れのシーンも，じーんときました。ただ，ゼルが死んじゃったのは残念。あんな美しい男の人なのに，もったいない(笑)。

▼戦士のコスチュームの細部についての注意書き。

準備稿

●いのまたむつみによる、初期デザインの陽子。レダの戦士のコスチュームに、ヨニのようなマントがついている。

●六八、七一ページ掲載の決定稿とくらべると、プロポーションにかなりのちがいがみられる。ヘアスタイルも異なる。

●レダの戦士となった陽子の剣。使用時のみ、剣が実体化するので、ふだんはコンパクトなスタイルで左腰につられている。(デザイン/豊増隆寛)

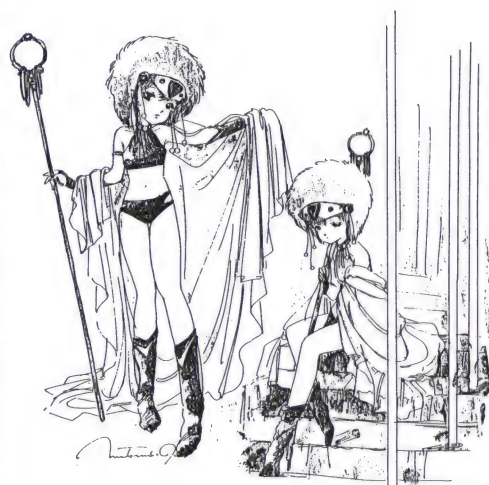
キャラクター・デザイン

●フツーの女子高校生、朝霧陽子の私服スタイル。陽子はこの服装でアシャンティへひきこまれる。健康的なミニスカートがかわいらしい。

●C(カメラ)—690～703による、プールサイドでの陽子。ワンピースの水着にヨットパーカーをはおっている。麦わら帽子をかぶっている。

●C(カメラ)—715～721の，シーサイドホテルの場面の部屋着。大きめのTシャツをずんべらに着ている。ううん，その下は････。

＊C(カメラ)—の番号は，48～65ページのシナリオを参照してください。

ヨニ

●廃墟となったレダの神殿を守る，レダ教の巫女。巨人を操ってゼルと戦っていた。(声／坂本千夏)

●一見すると、まだ子どものようにあどけないが、じっさいの年齢は不明である。

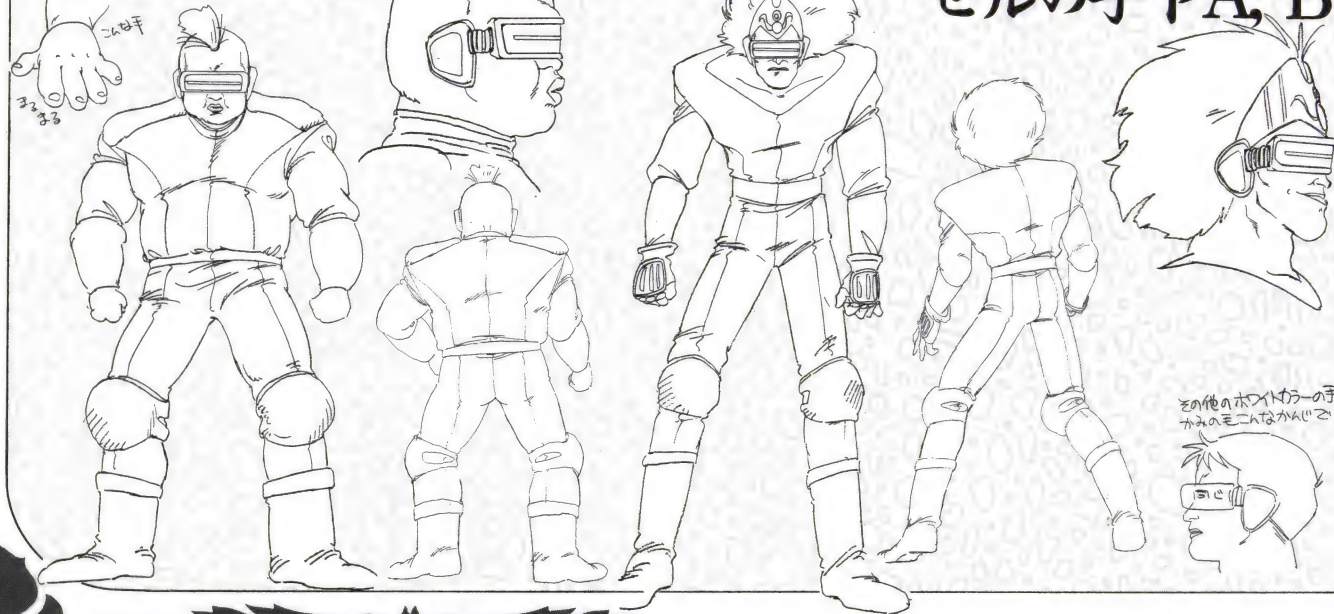
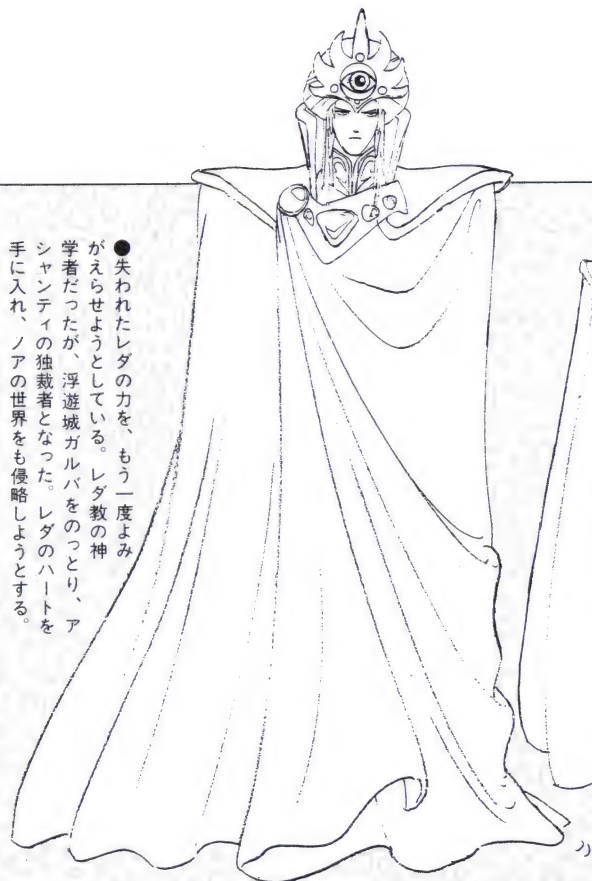
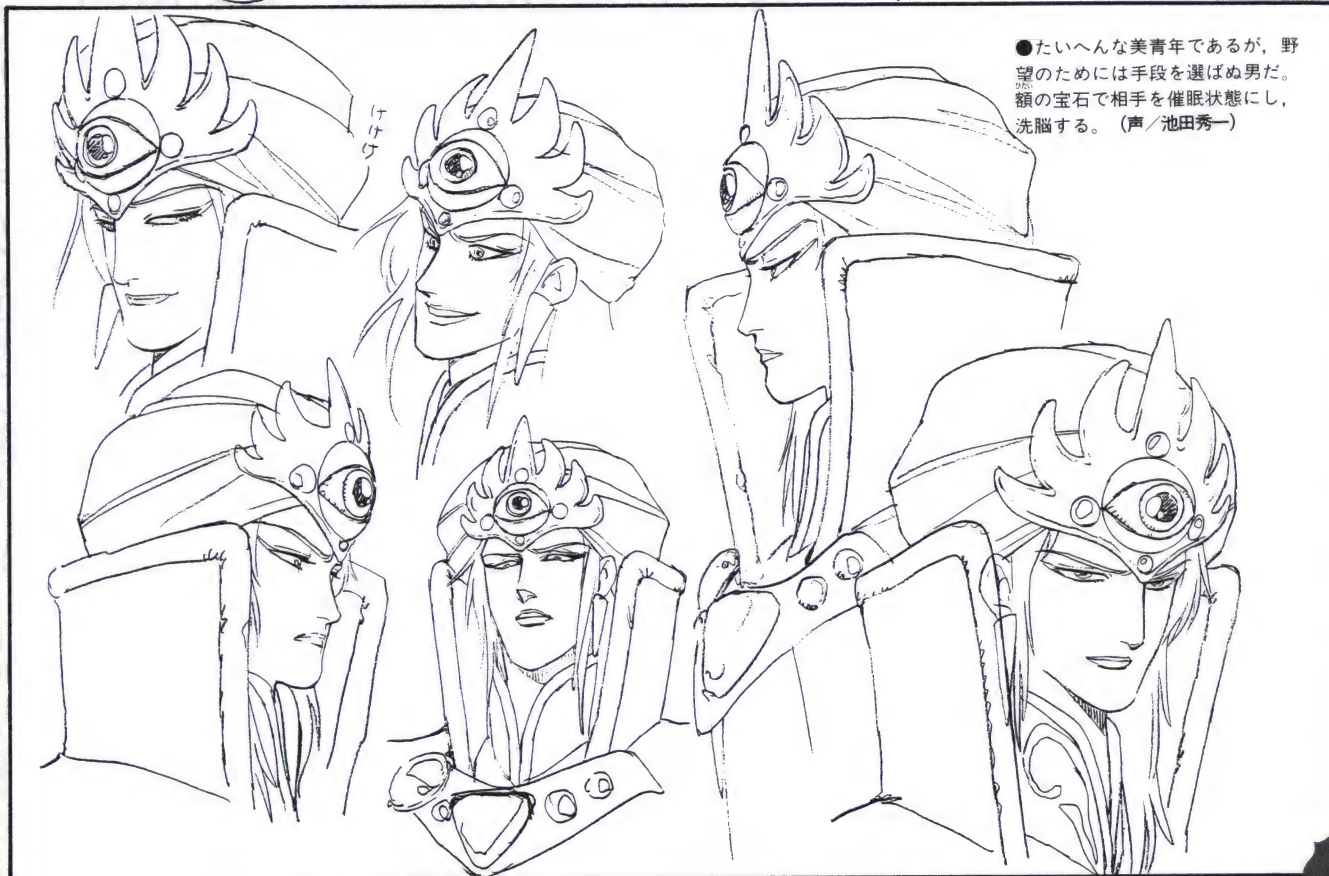
キャラクター・デザイン

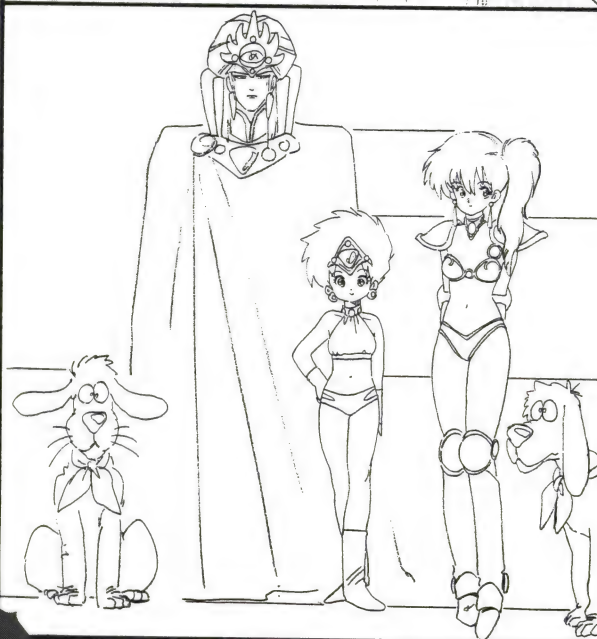
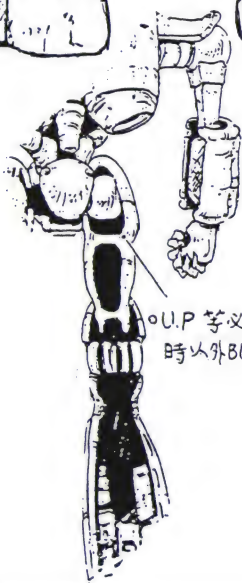
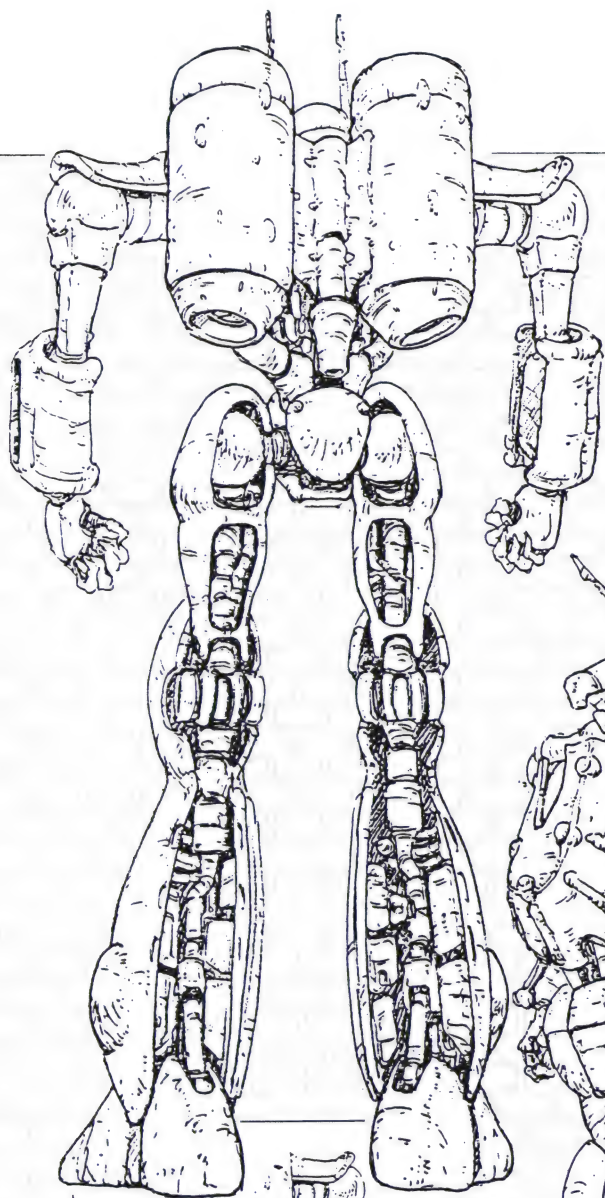
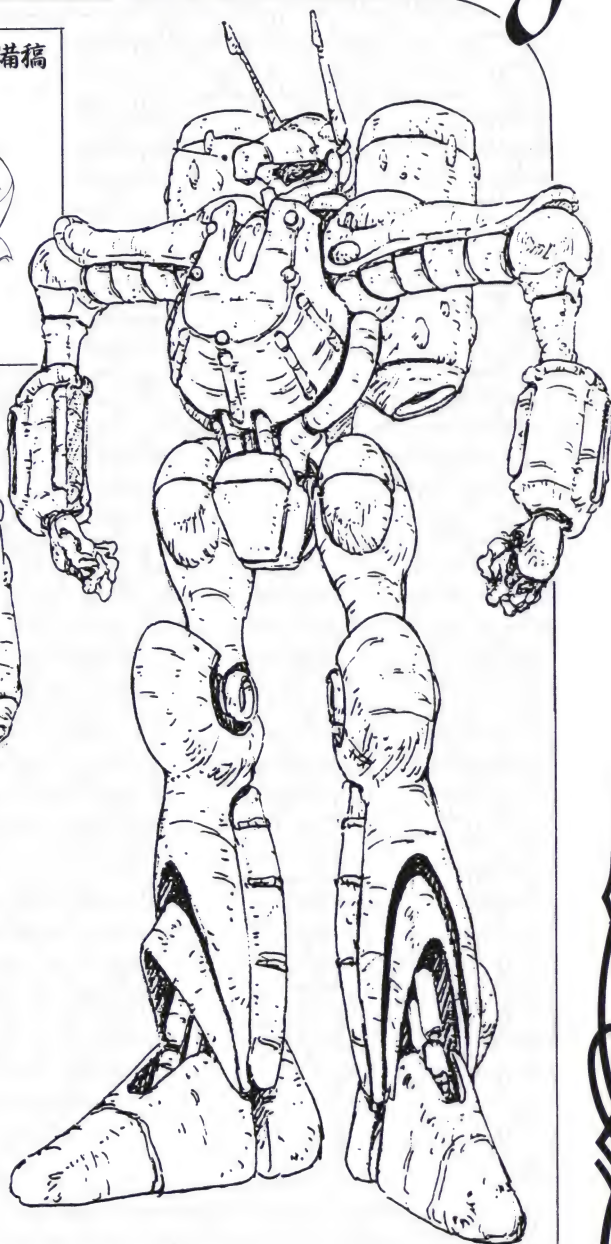
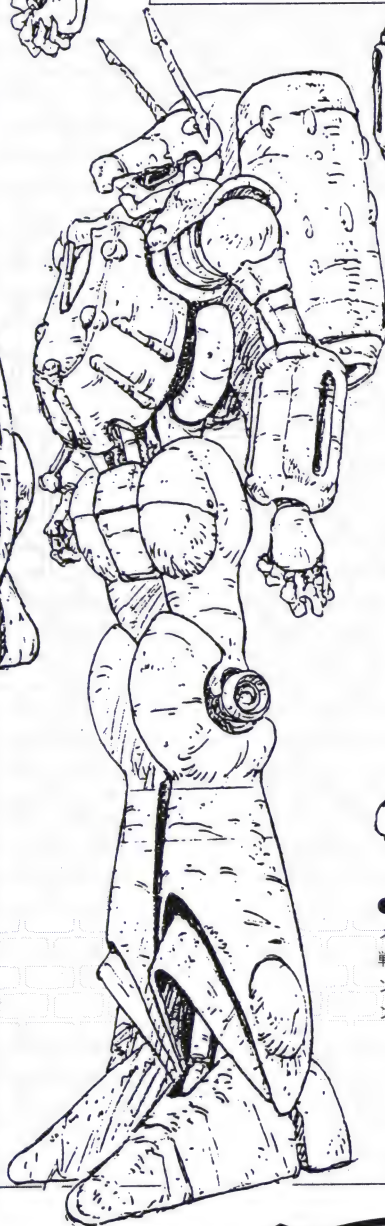
リンガム

●アシャンティを訪れた陽子が、最初にあった口をきく犬。この世界の学者で、陽子にアシャンティとノアの世界の存在を教えた。（声／富山敬）

ゼルの手下A, B

●ゼルの手下（特に決まった名まえはない）。陽子から、ヘッドホンステレオを奪って逃げる。

総統ゼル

●失われたレダの力を、もう一度よみがえらせようとしている。レダ教の神学者だったが、浮遊城ガルバをのっとり、アシャンティの独裁者となった。レダのハートを手に入れ、ノアの世界をも侵略しようとする。

●たいへんな美青年であるが，野望のためには手段を選ばぬ男だ。額の宝石で相手を催眠状態にし，洗脳する。（声／池田秀一）

●ガルバ城の副官。小心な男で，レダの戦士の存在を信じ，この世の終わりになるのでは，と不安を感じる。

Mechanic Design

●レダの神殿〝翼の間〟にあった，伝説の巨大ロボット。そのメカニズムは科学で解明されるようなものではないが，レダの戦士，陽子が玉座(コクピット)につくと同時に始動した。ウイング(翼)タイプ，アーマー(鎧)タイプ，どちらにも容易にチェンジできる。アーマー時の全身は，約10メートル。

レダの鎧

レダの翼

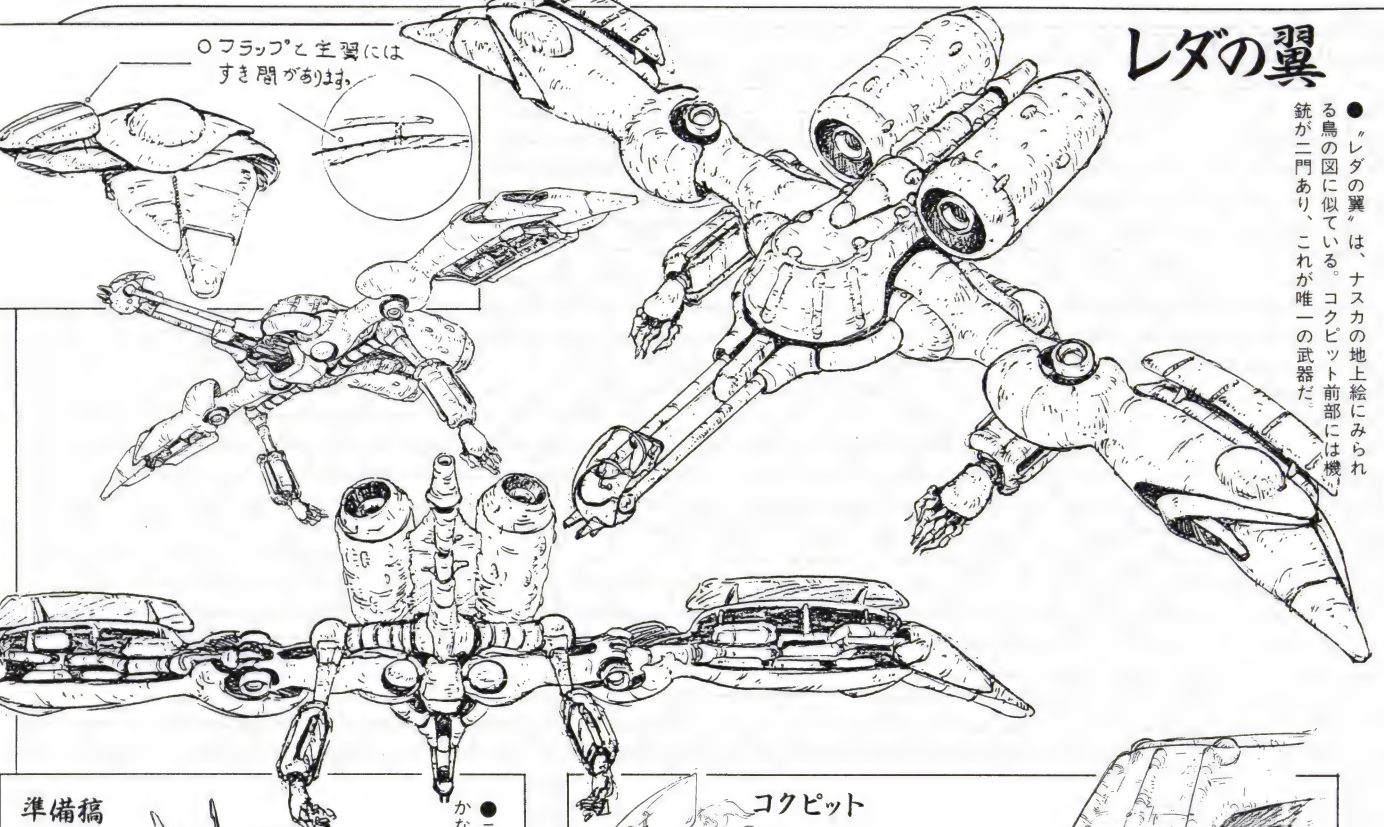
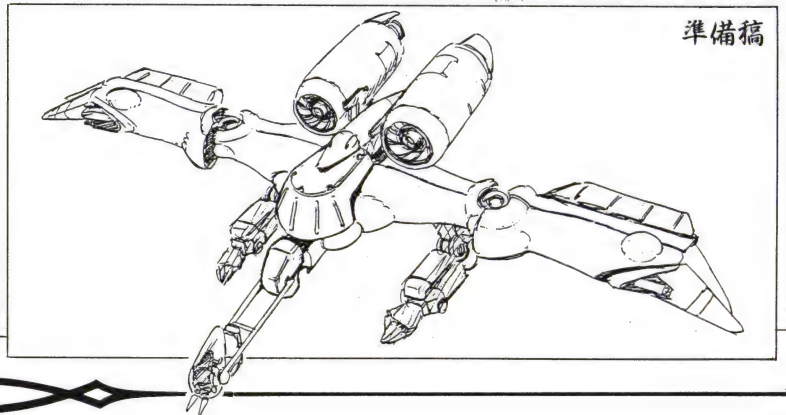
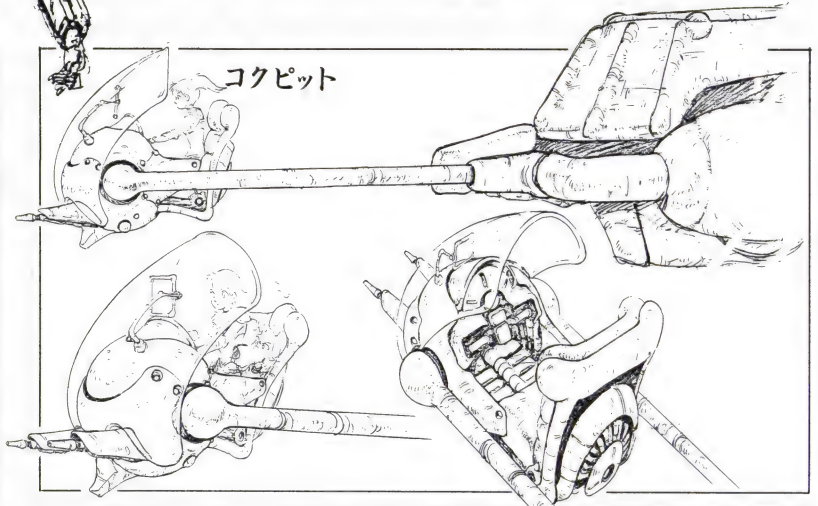
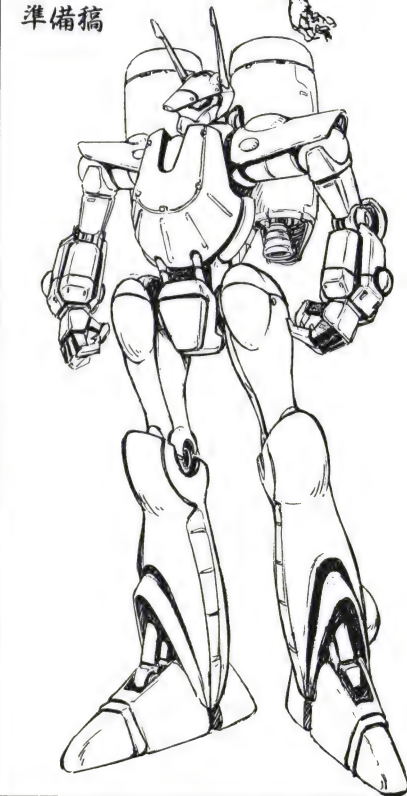
●"レダの翼"は、ナスカの地上絵にみられる鳥の図に似ている。コクピット前部には機銃が二門あり、これが唯一の武器だ。

○フラップと主翼にはすき間があります。

コクピット

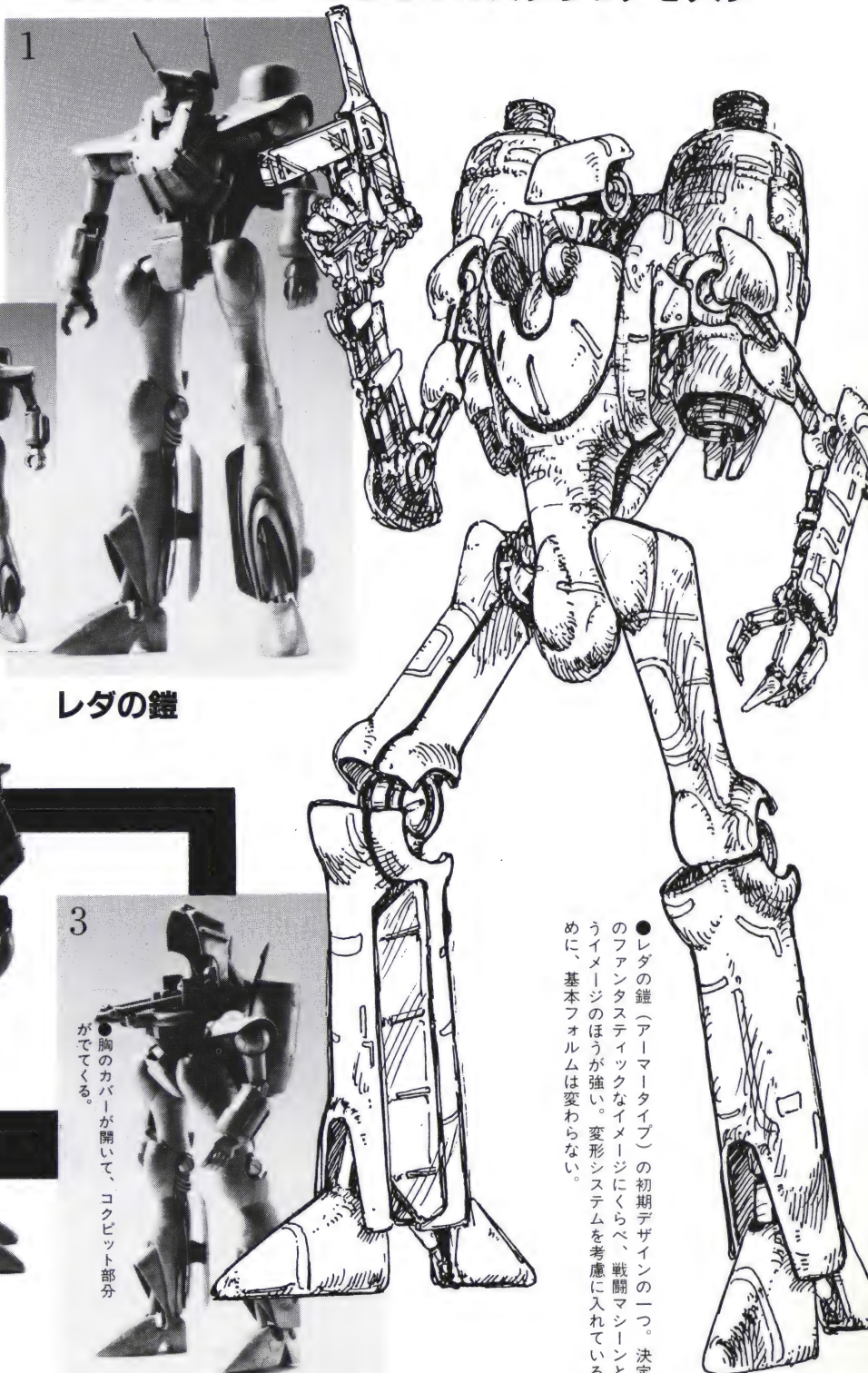
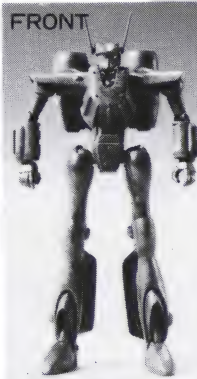
準備稿

●テレビシリーズ企画時にクリーンアップされたデザイン。玩具化を意識したために、かなりすっきりした表面処理でまとめられている。

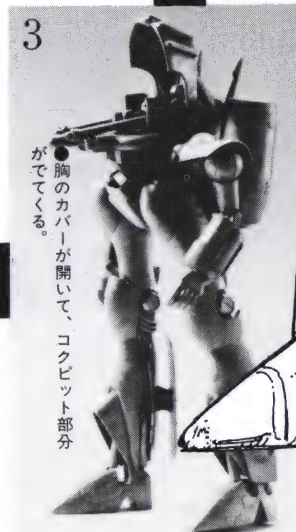
準備稿

レダの鎧 変形パターン

●メカデザイナーによるフルスクラッチモデル

この、レダの鎧のフルスクラッチモデルは、メカデザインを担当した豊増氏が、デザイン上の不都合な箇所や、変形の不可を確認するために、基本デザインが仕上がったさいに製作したもので、決定デザインは、このモデルのチェックを行ってから描かれている。いうなれば、このモデル自体が、立体設定ともいえるのだ。

本編中では、スピーディーな動きのため、わかりにくかった変形プロセスも、写真をみてもらえば、胸、コクピット、エンジンなどの複雑な移動パターンがわかると思う。モデルは、数種のロボットプラモなどからパーツを流用している。背中のエンジンは、ハセガワ社のサンダーボルトから流用し、その他の部分はプラ板から自作している。完成後、関節ががたつかぬよう、各関節部には木工用ボンドが流しこんである。表面にはプラパテを綿でたたくようにして付着させて、ざらついた感じがでるような加工がほどこされている。

レダの鎧

●腰部から上体が、後方に九十度、折れ曲がる。

●首が後方にかくれる。

●胸のカバーが開いて、コクピット部分がでてくる。

●レダの鎧（アーマータイプ）の初期デザインの一つ。決定稿のファンタスティックなイメージにくらべ、戦闘マシーンというイメージのほうが強い。変形システムを考慮に入れているために、基本フォルムは変わらない。

メカイメージ設定

豊増隆寛

以前から，仕事につくなら映像関係と思ってました。べつにジャンルにこだわらず,映画とか,とにかくフィルムを作っていく作業の一工程にでもたずさわれればいいな，と思っていたんです。僕の場合，それがたまたま，アニメーションだったわけです。最初，アニメスタジオにはいって半年ほど，動画の仕事をしました。そのうち，ゲストメカのデザインを描いてみないかといわれ,「戦国魔神ゴーショーグン」の最終回に登場した敵メカを描いたのが，メカデザインの初めです。子どものころからメカニックは大好きで，プラモデルを作ったり，メカを描いたりしてました。でも，そのころから，現実に存在する車や飛行機より，「ウルトラセブン」にでてくる〝ウルトラホーク〟などを好んで作ってました。いわゆる，キャラクターものですね。そのへんが，メカニックデザインを描くうえで，影響はあると思います。その後，メカデザインの仕事がふえて,ゲストのメカデザインを数本,「プラレス３四郎」「バース」ときて，今回の「幻夢戦記レダ」というわけです。「バース」のときには，僕のほかにも何人かのメカデザイナーがいて，分担して作業をしたのですが，今回はすべてを描かせていただいたので，たいへんでもあったのですが，とても楽しく仕事させてもらいました。戦闘ポッドや浮遊城などは，かなり好みの線がだせたので，自分では気に入ってます。レダの翼は，企画当初，おもちゃ会社から製品化される予定だったので，変形可能なデザインにしたのですが，とちゅうで製品化の話がなくなってしまい，デザインの変更も考えましたが，結局，そのままで通すことにしました。そのため,レダの翼のデザインは,アシャンティという世界では浮いた存在になったような気もします。

◀イメージイラストの一つ。

REAR

▶レダの鎧が使用する重火砲。ウイング変形時は、機体の下につるす。（豊増氏のオリジナルで、アニメには登場しない。）

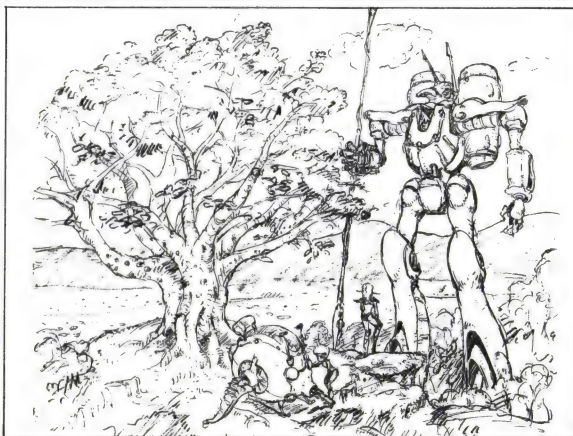
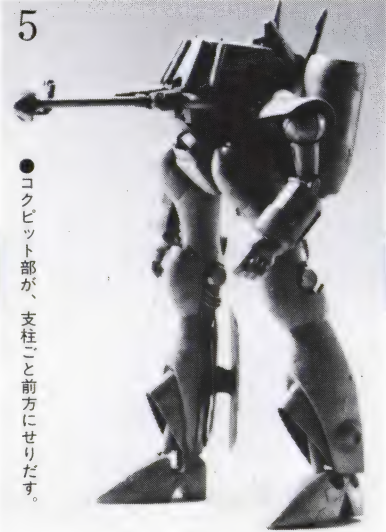
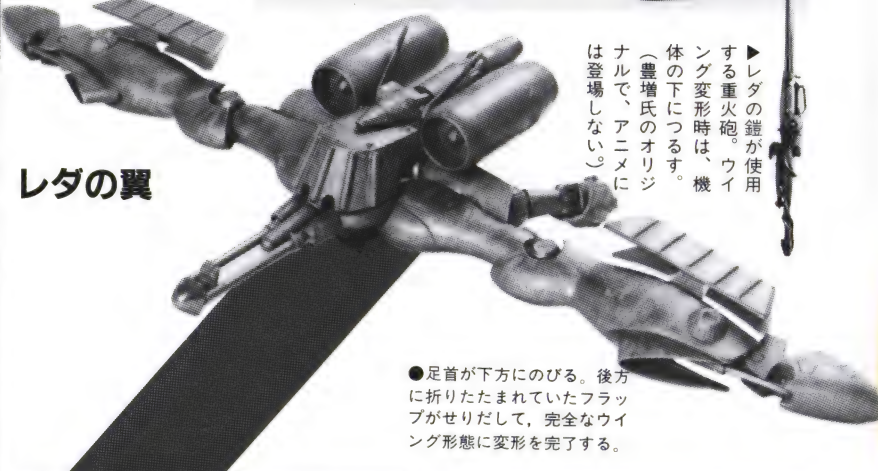
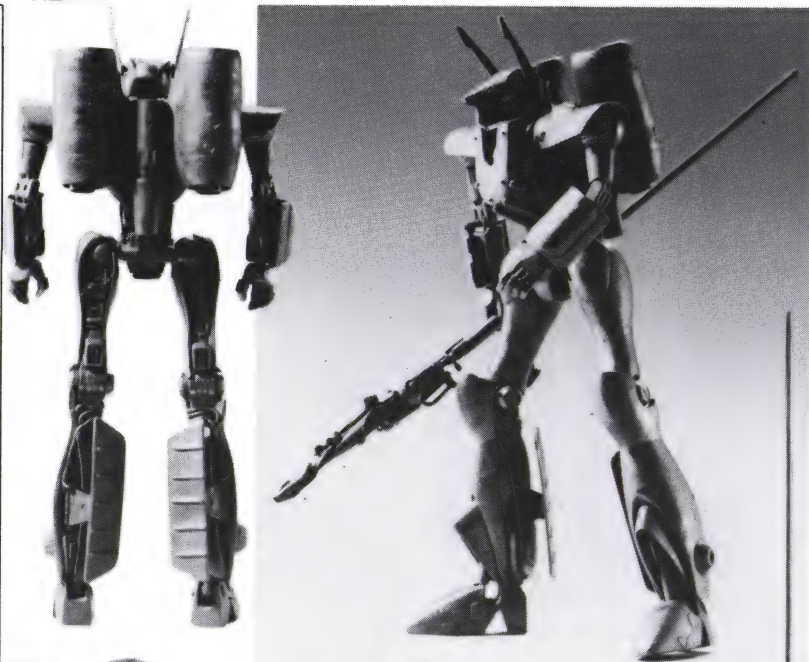
レダの翼

●足首が下方にのびる。後方に折りたたまれていたフラップがせりだして，完全なウイング形態に変形を完了する。

6

●背部エンジンが、水平位置まで上昇する。このあと、脚が左右に九十度開いて、レダの翼の形態になる。

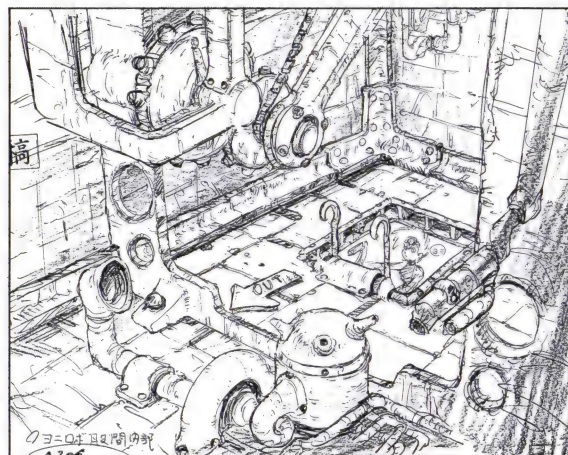
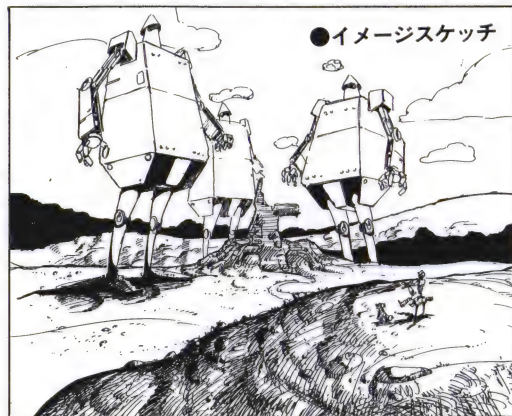
5

●コクピット部が、支柱ごと前方にせりだす。

エアバイクステード

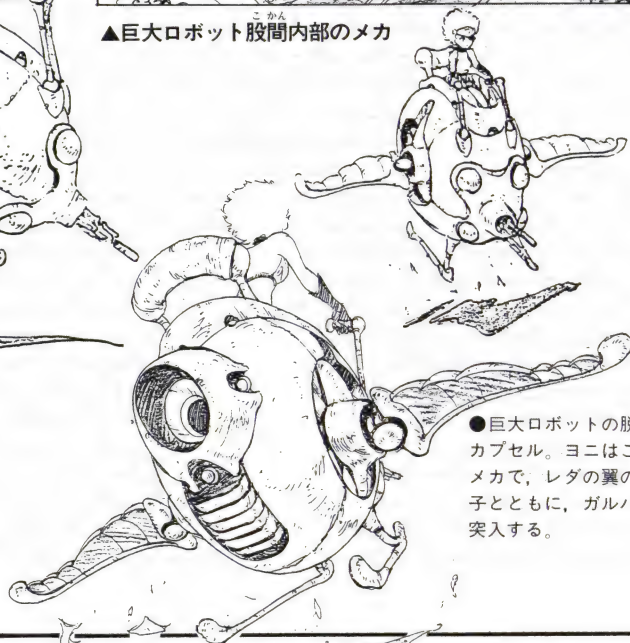
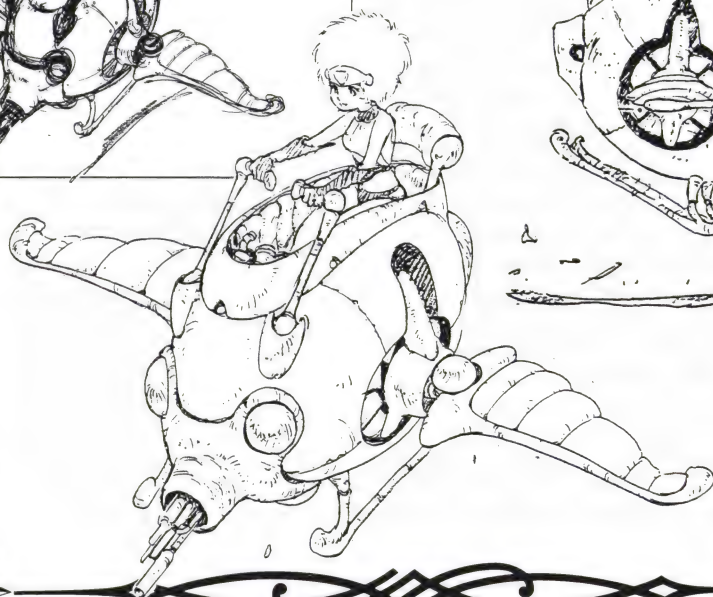
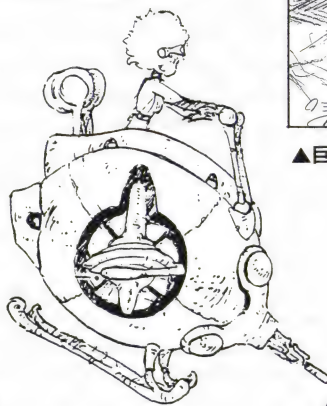
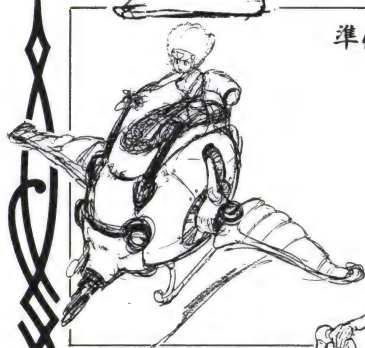
●ゼルの部下やウォーリアが乗用する騎馬形のエアバイク。動力は反重力エンジンのようなものらしい。陽子は、このメカに乗って、ヘッドホンステレオを奪ったゼルの部下を追いつめた。着陸脚で歩行することも可能だ。

▶準備稿では，メカ部分が露出していた。陽子のキャラが未定だったので，豊増隆寛氏のオリジナルキャラが乗っている。

巨大ロボット

●イメージスケッチ

●巨人とも呼ばれる巨大ロボット。ヨニはこれで，ゼルの攻撃からレダの神殿を守っていた。

準備稿

▲巨大ロボット股間内部のメカ

●巨大ロボットの脱出カプセル。ヨニはこのメカで，レダの翼の陽子とともに，ガルバへ突入する。

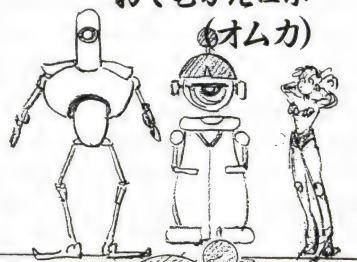
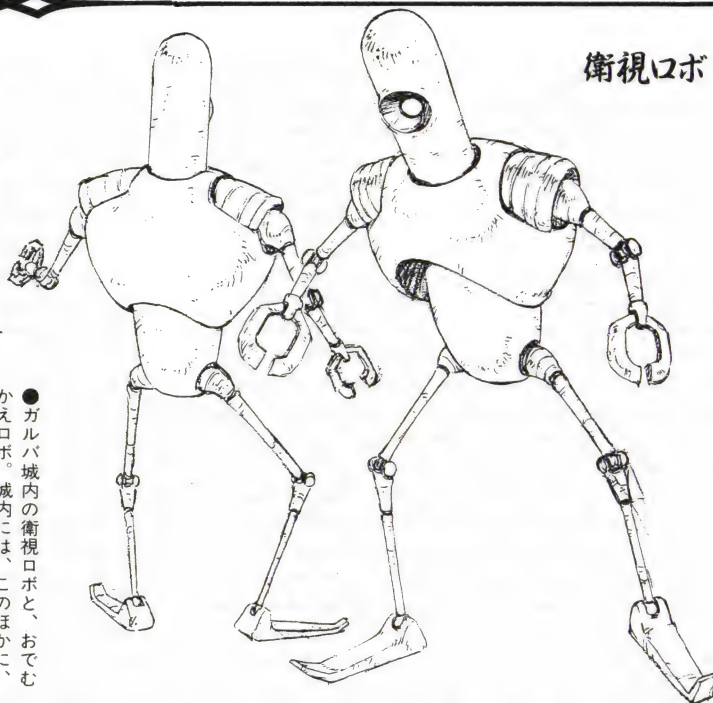
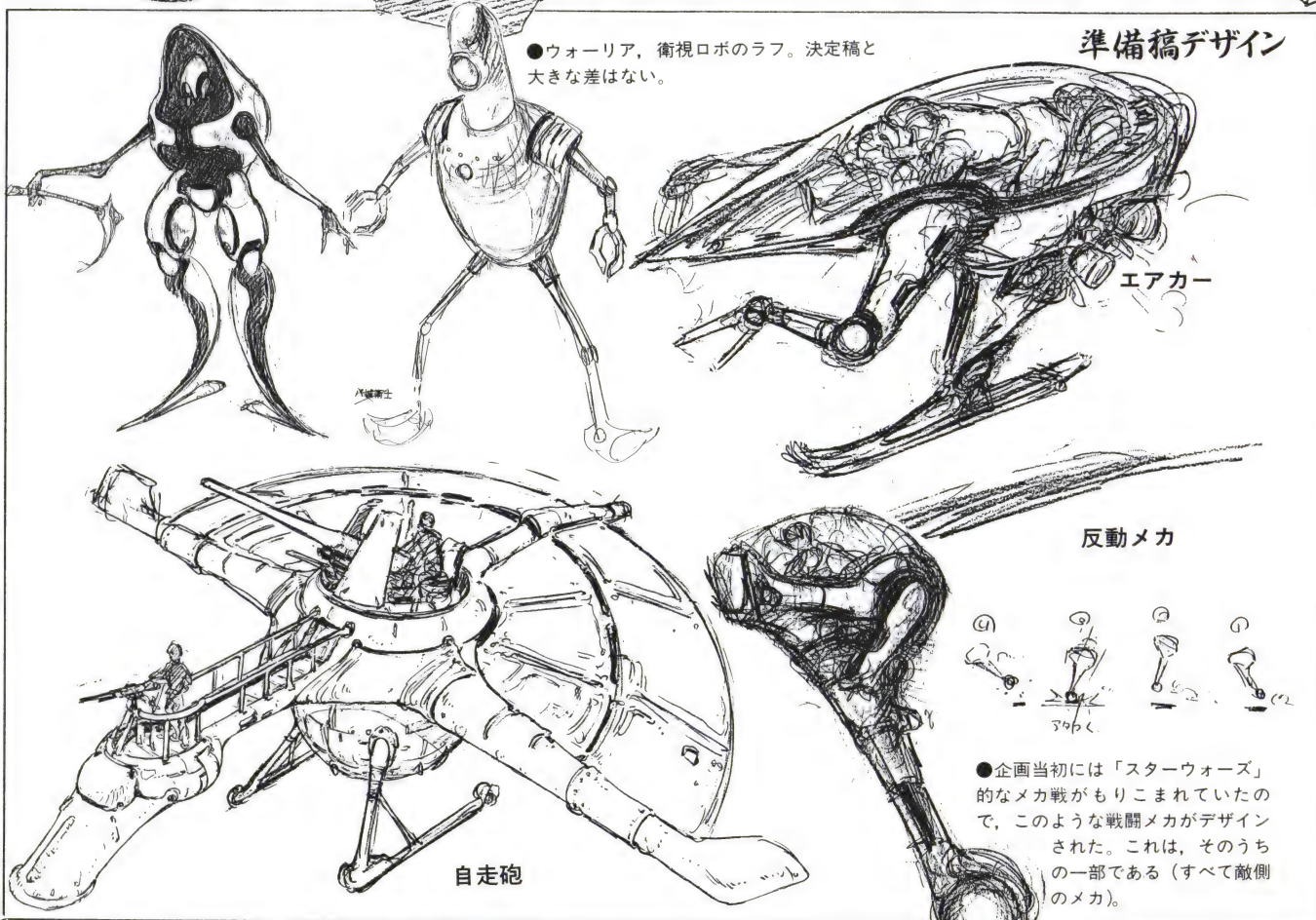
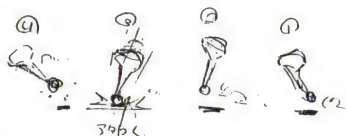
ゼル側のメカ

カエル兵ウォーリア

浮遊城ガルバ

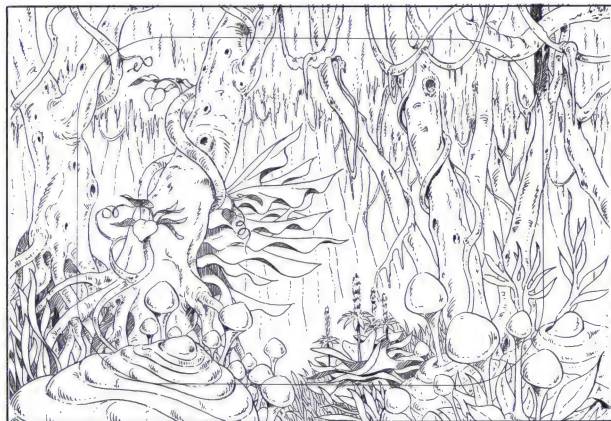
●レダパワーを集めるための古代遺跡であったが、ゼルによって改造され、ノアの世界を侵略するための要塞基地となった。

攻撃&偵察ポッド

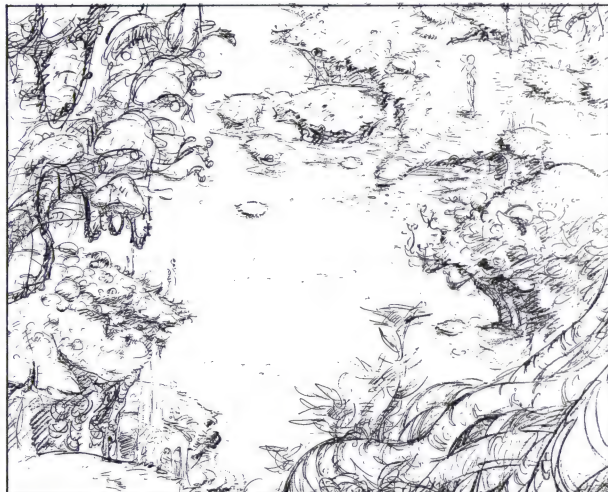
見張り塔

●ガルバ城内の衛視ロボと、おでむかえロボ。城内には、このほかに、部下A、Bとおなじスタイルの人間もいる。

●ウォーリア，衛視ロボのラフ。決定稿と大きな差はない。

●企画当初には「スターウォーズ」的なメカ戦がもりこまれていたので，このような戦闘メカがデザインされた。これは，そのうちの一部である（すべて敵側のメカ）。

Art

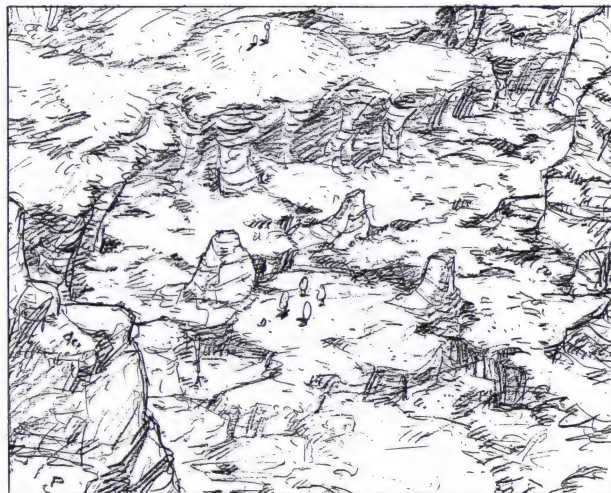
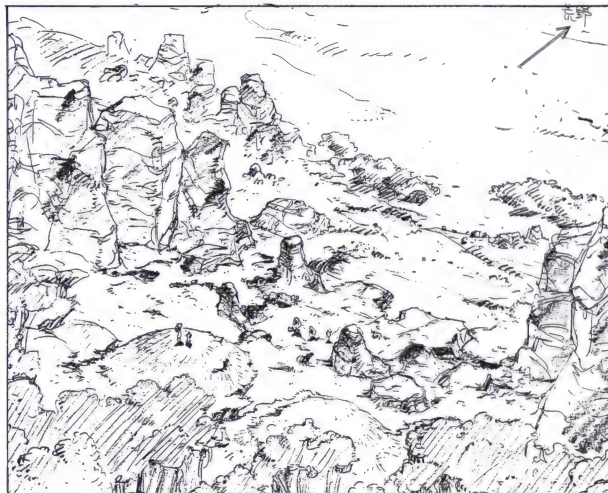
●美術設定（背景）も，メカニックデザインを担当した豊増隆寛氏によって描かれたものである。ここに，おもなイメージボードを紹介しよう。（C（カメラ）—番号は，シナリオを参照してください。）

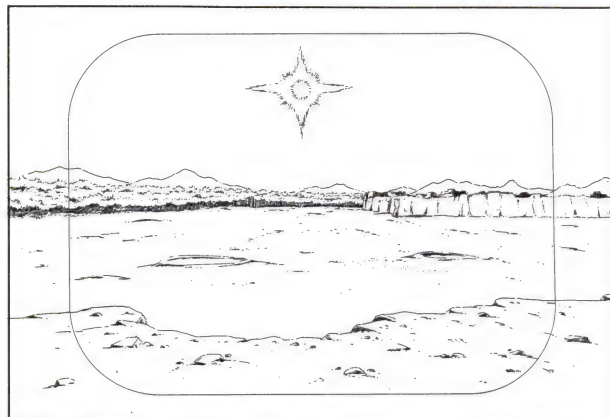
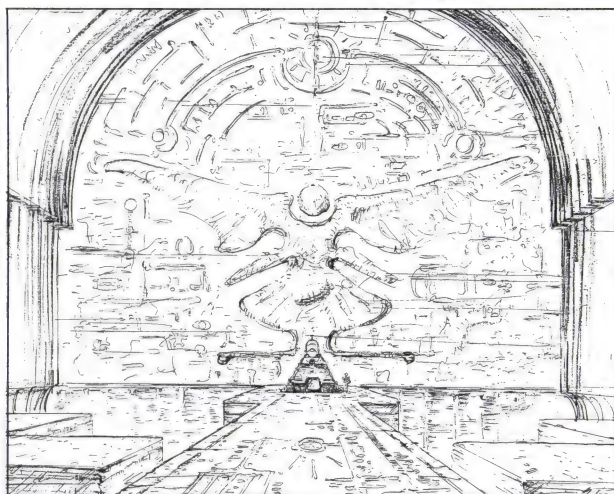
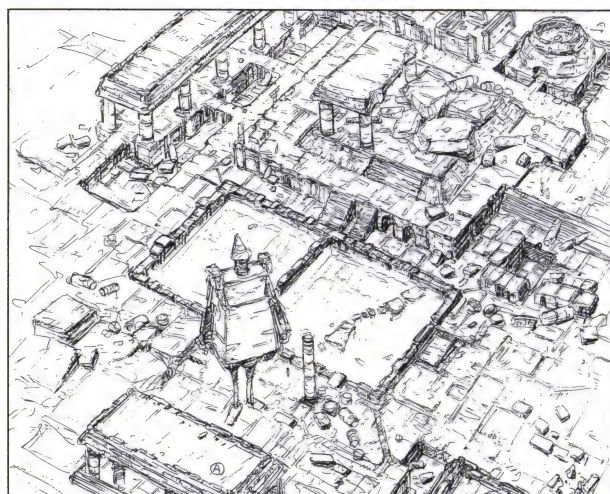
●アシャンティの森の池（C—57）

●公園の並木道（C—15）

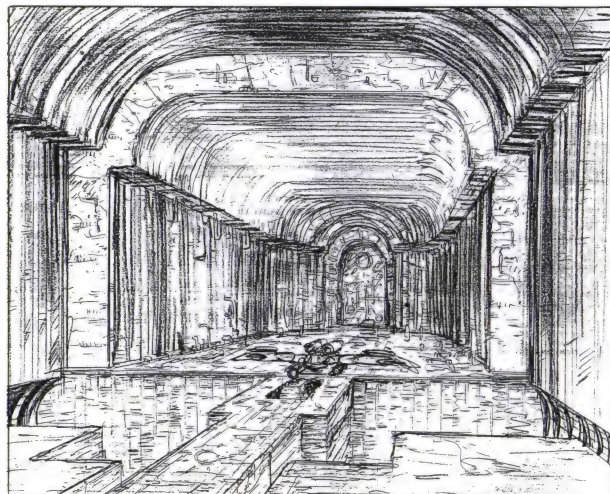
●巨大な花（C—181）

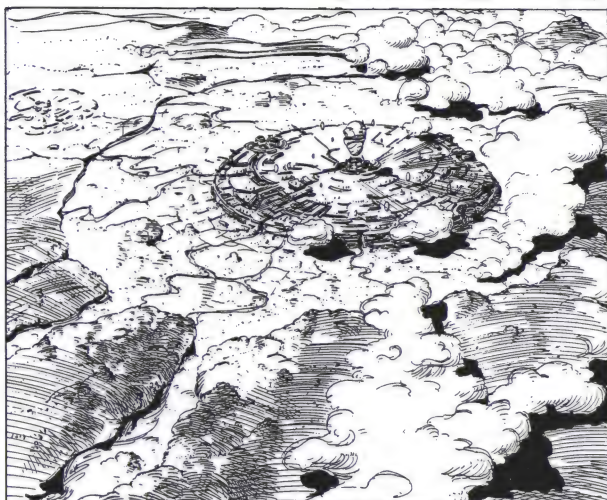
●森の中のしげみ（C—73）

●森のはずれ（C—151）

●森のはずれ（C—155）

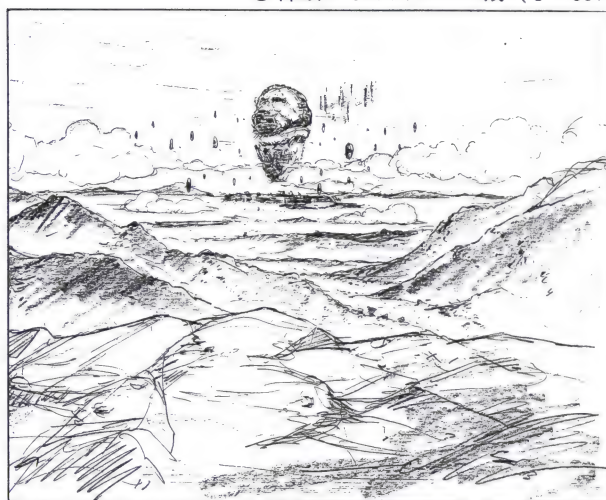
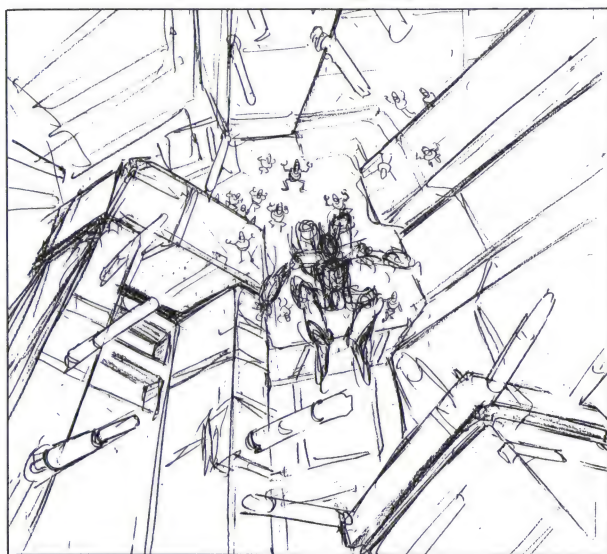
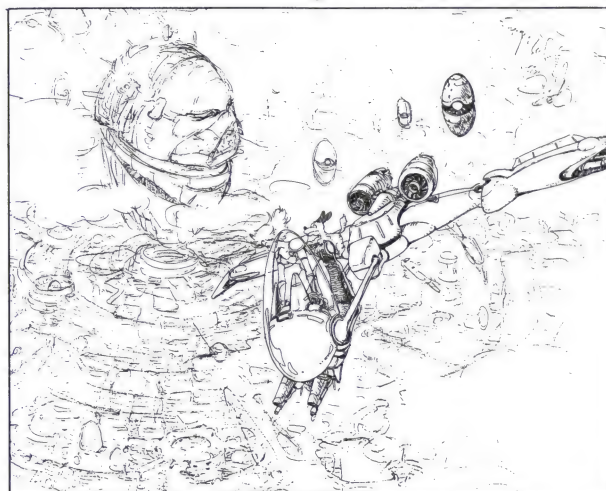
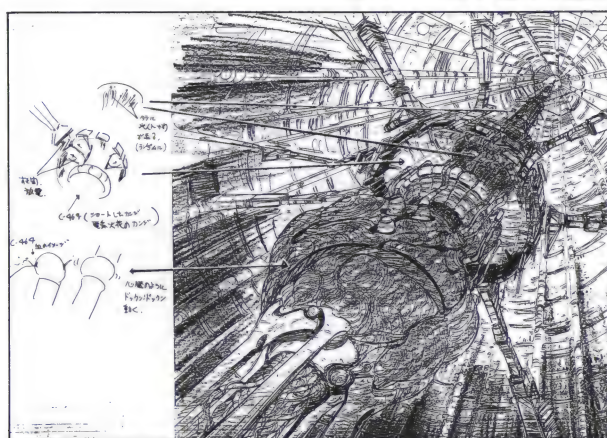
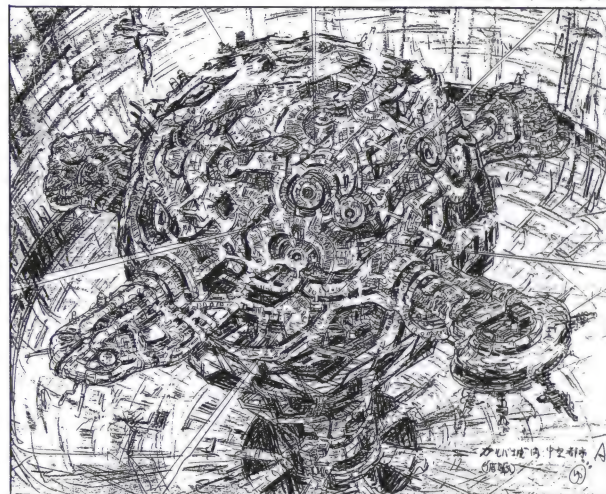
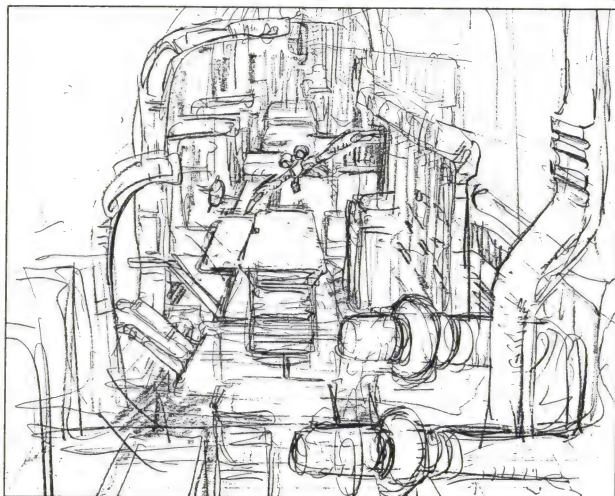
美術

●上空からみた八百沼（C—260）

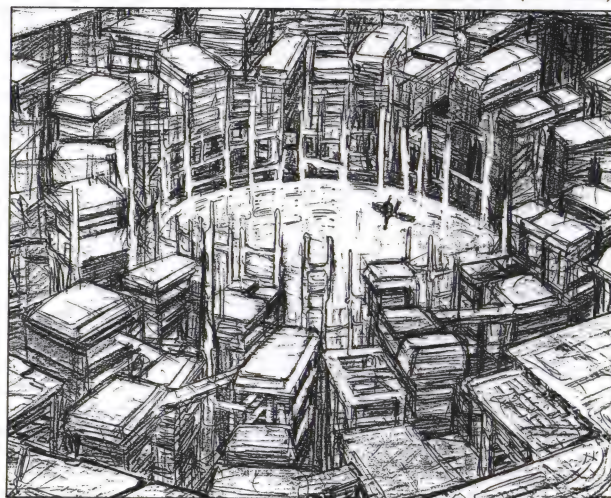
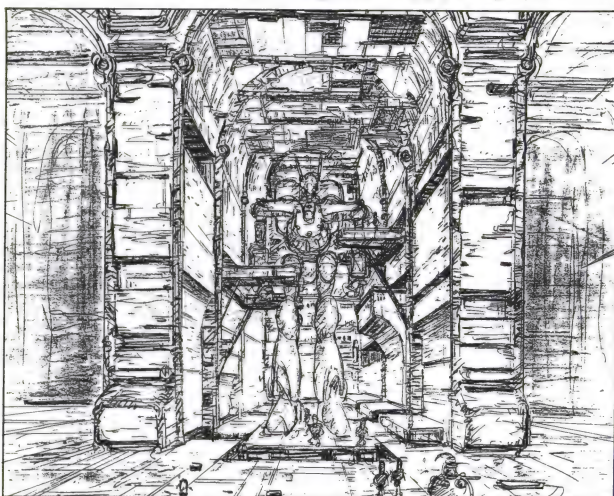
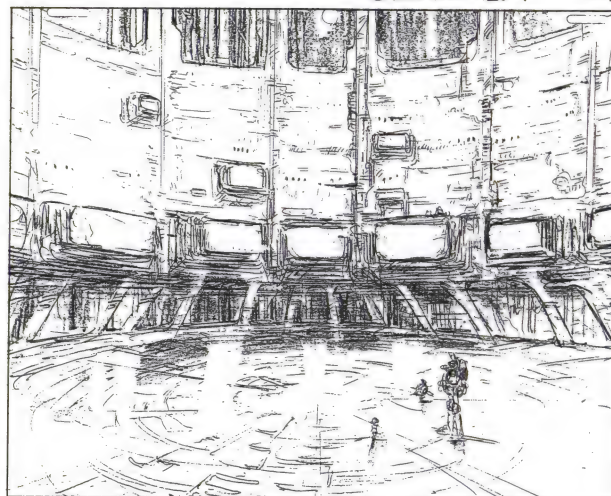
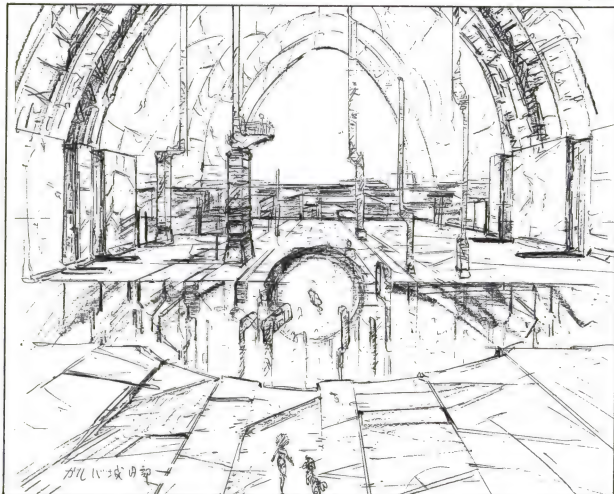
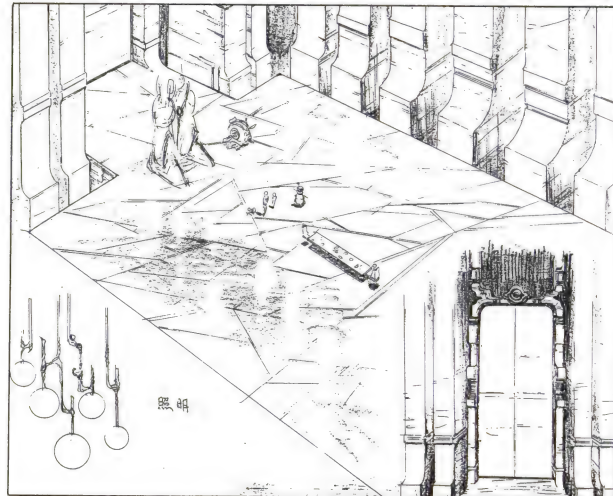
●神殿の崖の上からみた森（C—218）

●翼の間（C—415）

●神殿内のプール（C—338）

●玉座（C—417）

●翼の間 壁が開ききったところ（C—424）

▼八十四ページの上段二枚と、八十五ページの上段二枚は、下川忠海氏によって描かれたものです。

●ガルバ城上空からの俯瞰（ふかん）

●城内戦闘 ラフスケッチ

●ガルバ城内 動力心臓部

●神殿からみたガルバ城（C―357）

●ガルバ城 イメージイラスト

●ガルバ城内 中空都市

●中空都市 搬入路（C―584）

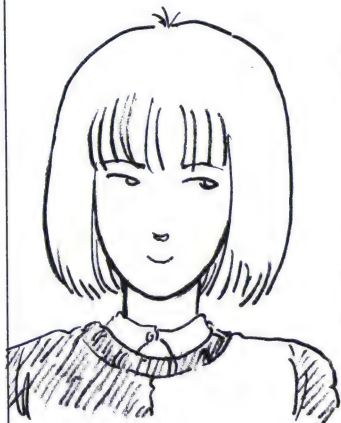
●中空都市 搬入路（C―590）

●ガルバ城内 工場（C―730）

●搬入路の底（C―594）

●ガルバ城内部

●ガルバ城内 大広間（C―607）

CONTENTS

PICTORIAL and NOVEL …… 9
NOVEL …… 41
SCENARIO（アフレコ台本）…… 48
CHARACTER DESIGN …… 68
MECHANIC DESIGN …… 76
ART …… 84
MAKING of LEDA …… 89

カバーイラスト／いのまたむつみ・影山楙倫

● 9～40ページのイラストは，カナメプロの作画スタッフ，山内英子さん，渡辺真由美さんによって描かれたものです。（作画チェックは，いのまたむつみさん。）

PROFILE

★山内英子

昭和38年９月11日，埼玉県所沢市生まれ。血液型はＢ型。

アニメ業界にはいったのは，４年ほどまえです。高校在学中でしたが，アルバイトで某アニメスタジオで動画を描きはじめました。カナメプロには２年まえに入社し，現在に至っています。「レダ」では，『コミックボンボン』のイラストが優先していたので，作画のほうになかなか参加できませんでした。もっとも，仕事が忙しくなった10月ごろからは，いやというほど描かせてもらえましたが‥‥。

みているぶんには，ゼルがいちばん好きなキャラクターなんです。自分で描くとなると，たいへんですけどね。彼にはずいぶん苦しめられましたが，フィルムになってからみると，やはり彼がいちばん美しい。はなやかさからいえば，女の陽子よりも上だったんじゃないでしょうか？

★渡辺真由美

1982年の春，杉並区荻窪１丁目のアカンサスマンションにある，できて間もないカナメプロダクションで，アニメーターとしての第一歩をあゆみだしました。そこでの最初の仕事は，「アクロバンチ」という作品の動画でした。うれしさと不安のまざりあった気持ちで描いた初めての動画。そうかんたんにとおるはずがなく，何度だしてもリテイク（やり直し）。やっとＯＫとなったとき，そのカット袋はボロボロになっていました。

それから，「さすがの猿飛」「プラレス３四郎」とつづき，「バース」では動画チェックを担当。なれないせいか失敗の連続で，追いこみになると頭がすっかりピーマンになっていました。

「レダ」では，動画チェックと『コミックボンボン』のイラスト連載等が並行していたため，ときどき頭がショートしたけど，なんとかぶじにのりきり，いま，ほっとしているひとときなのです。

コミックボンボン スペシャル 4

幻夢戦記レダ

定　価　1000円
発　行　昭和60年４月15日　第１刷

発行者　野間惟道
発行所　株式会社　講談社
〒112　東京都文京区音羽２―12―21
電話　東京(03)945―1111　振替　東京8-3930
印　刷　共同印刷株式会社
製　本　二葉製本株式会社

ISBN4-06-102304-7　(0)　(Tマ)

EDITORIAL STAFF

EDITOR／Shinsuke Nakazima
Kenichi Kusakari
PLANNING／Hisashi Yasui
DESIGN／Fujimori Design Office
Naotaka Fujimori
Nobuyuki Izawa

協力／カナメプロ・キングレコード・東宝事業部・ホリプロダクション

いのまたむつみ & 菊地秀行

ビデオ用のオリジナルアニメとしては、いまのところ、最上の作品じゃないですか(菊地)

司会　どうも、「レダ」完成、おめでとうございます。きょうは、製作を終えてということで、完全なオリジナル作品のキャラクターデザインおよび作画監督という大任をはたされたいのまたさんと、これから「レダ」のノベライズ——X文庫の小説版をお書きになる菊地さんのお二方に、この作品をめぐっていろいろと自由に話しあっていただこうと思います。また、あとで、プロデューサーの長尾さんにも加わっていただきますので、製作の裏話もきけると思います。よろしくおねがいします。

菊地　どうも、初めまして。

いのまた　初めまして。

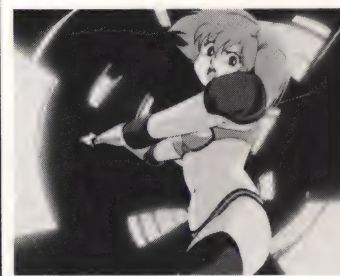
菊地　「コミックボンボン」で、イラストストーリーを書かせていただいたんですが、完成した作品はずいぶん整理されていて、むだがないように感じましたね。たとえば、主要人物が四人、犬が一匹まじってますけど(笑)、これもキャラクターをしぼった感じで。そのへんは、ビデオということを意識されてるんですか?

いのまた　そうですね。ストーリーを作る段階で、一時間くらいのビデオだったらば、こういうふうに作ったほうがいいだろうということを、ずいぶん考えましたから。監督の湯山さん、武上さん、影山さん、長尾さんたちとも話しあって、ああいう形になったんですけれど。反省点からいうと、もう少し時間の余裕——映画の長さという意味でですね、あるとよかったんじゃないかって思います。

菊地　全体の印象としては、色もきれいだし、いろいろとサービスも満点で、ビデオ用のオリジナルアニメとしては、いまのところ、最上の作品じゃないですか。

いのまた　ありがとうございます(笑)。

プロフィール
いのまた むつみ

●本名，猪股むつみ。昭和♡年12月23日，東京に生まれる。横浜育ち。血液型O型。まんがやアニメが好きで，高校時代に東映動画の「ＳＦ西遊記スタージンガー」「銀河鉄道９９９」「キャプテン・フューチャー」「花の子ルンルン」など，多くの作品で仕上げのアルバイトをしたことがきっかけで，葦プロに入社。本格的なアニメーターとしての道に進み，「くじらのホセフィーナ」の動画を経て「宇宙戦士バルディオス」「ずっこけナイト ドンデラマンチャ」「戦国魔神ゴーショーグン」の原画を担当。のちにカナメプロに移り，「魔境伝説アクロバンチ」のキャラクターデザインをてがけ，さらに「さすがの猿飛」で作画監督となる。「プラレス３四郎」ではキャラデザインと作画監督をつとめ，「幻夢戦記レダ」は初の完全オリジナル作品の試みである。コミック作品に「ＧＢボンバー」（徳間書店刊）ほかがあり，イラストやポスターなどでも大人気の女性アニメーターNo.１。現在，フリー。

もともと絵が好きで、アルバイトしてたら、アニメ会社を紹介してくれて（いのまた）

菊地　いのまたさんは、そもそも、どういうきっかけで、アニメ界にはいられたんですか？

いのまた　高校時代に、仕上げのアルバイトをしていて、たまたまその会社の社長さんが、「どうせだったら、はいっちゃったら。」ということで紹介してくれて、葦（あし）プロという会社にはいったんです。

菊地　もともと、アニメが好きで？

いのまた　絵が好きでしたから。アニメもまんがも、一応見てましたけれど、特にこれが、ということではなかったですね。

▲名古屋市で開かれた，「レダ」完成記念フェアから。

菊地　絵は、ずいぶん勉強されたんですか？

いのまた　いえ、落書きみたいのばかり描いてました。スケッチブックに。いまは押し入れにしまいこんでありますけど。

菊地　そのころの絵を、みてみたいですね。

いのまた　いえ、あれは、世の中にだしてはいけないものです（笑）。

司会　菊地さんは、アニメはいかがですか？

菊地　もうしわけないけど、あまりみてないですね。昔の、東映動画の長編くらいですか、きちんとみているのは。

いのまた　菊地さんは、いつごろから小説を書いていらっしゃるんですか？

菊地　大学時代、推理小説研究会にはいってまして、その会誌にちょこちょこと。特にSFが好きで、ハインラインとかブラッドベリをよく読んでましたね。自分で書く小説も、幻想的なものが多かったりして、将来、小説を書くとしたら、こういう方向かなと、漠然と思ってましたけど。

司会　デビュー作の「魔界都市〈新宿〉」はアクション作品ですけど、「インベーダー・サマー」などはブラッドベリ的でしたね、リリカルで。いのまたさんは、菊地さんの作品、お読みになりましたか？

いのまた　不勉強ですみません。なかなかきちんと読む時間がなくて……。

菊地　女性は読んじゃいけません（笑）。

司会　一時は“月刊菊地秀行”といわれたくらい、毎月のように文庫本がでてましたね。

菊地　だれですか、そんなことといったのは（笑）。上下巻に分けてだしたりしたから、そうなっただけですよ。

いのまた　いまは、どんなものをお書きになってるんですか？

菊地　じつは、つい先ほどまで、ホテルに缶づめになって書いてたんです（笑）。光文社の書き下ろしが四月に出ますけれど、きょう終わったやつがそのまえにでることになってまして。やっぱり、ホラーがかったSFです。

司会　お二人とも、机にむかってする仕事ですよね。たとえば、気分転換などはどうなさってるんですか？

いのまた　シャワーを浴びたり、ビデオをみたり、ごくふつうですね。あんまりテレビはみないほうなんですけど。

菊地　夜型ですか？

いのまた　やっぱり、昼間だと雑音が多いでしょう。雨の日とかだといいんですけど、晴れていいお天気だと、どうしてこんなことしていなくちゃいけないんだとかいって（笑）。でも、夜でも、つい友だちと長電話してしまって、結局、仕事にならない（笑）。

菊地　僕も夜中が多いですね。昼型にしたほうが健康にもいいし、仕事もはかどるんでしょうけど……。夜中に煮つまっちゃったりすると、寝ている女房をたたき起こして、早く寝ろ！（笑）ひどい気分転換法があったもんですよ（笑）。

司会　話が小々脱線しましたので、このへんで長尾さんにも加わっていただいて、テーマを「レダ」にもどすことにしましょう。

監督・脚本　湯山邦彦

いちばん苦労したのは、女の子が主人公なので、どうやって敵を倒すかという点でした。力ずくで敵をバタバタなぎ倒すだけじゃ、陽子がかわいくなくなってしまうだろうということで、あの幻夢のシーンを作ってみたんです。一度、陽子を敵にとりこんで、追いつめて、女の子が自分にとって大切なもの——自分の心を守るために戦うというふうに、納得（なっとく）できるようにもっていったつもりなんです。

いまは完成したばかりで、冷静な判断は下せませんが、全編見せ場で、スタッフがあれこれやりたいことをつめこんだわりには、一応、まとまった作品になっていると思います。あと十分、時間がほしいところですが、ビデオでは、この長さが限界かもしれませんね。

菊地 「レダ」の製作期間というのは、実質的にはどれくらいですか？

長尾 そうですね、構想からいえば、一年とちょっとです。よく、映画の宣伝文句で構想何年ていういい方しますけど、今回は、ほんとうに一年かかってますね。ストーリーをまとめるのにいちばん時間がかかって、実際の作画にはいったのは去年の六月ごろ。「バース」が終わるのと同時だったと思います。

菊地 最初から、こういう少女の冒険物語という線で考えられたわけですね。

長尾 そうです。まず初めに、いのまたさんのキャラクターがあって、それをどんなアニメにするかということを考えていったんです。

菊地 陽子の戦闘スタイルも、最初からああいう露出度の多い、なまめかしいものを考えられていたんですか？ というのはですね、アシャンティにいってからも、ごくふつうの女子高生であったほうがよかったんじゃないかって思ったもんですから。

いのまた レダの戦士という伝説の存在であるということを考えると、それに、女の子が剣を持って戦うときは、やはり、ああいったスタイルのほうがかわいくみえるだろうと思うんですね。陽子というキャラクターの明るさとか幼さとかいうものは、戦士になっても変わらないわけですから、ある程度、スタイルは過激にというか(笑)、そういう特徴づけをしたほうがよいだろうということで。

司会 でも、いのまたさんのキャラクターというのは、よく色っぽいとか、なまめかしいといわれますけど、女性が描かれているせいか、あまりいやらしくは感じませんね。

いのまた 特に意識したというわけではないですけど、やっぱり、あまりいやらしくみえてはいけないと注意した部分はありますね。

菊地 ああいうスタイルの女性というのは、海外ではフランク・フラゼッタやボリスのようなSFアーチストの手でイラストになったり、SF映画のヒロインとしてでてきますよね。日本でも、まんがなんかではよくみかけると思いますけど、女性が描いて、なおかつ色っぽくて、しかもアニメーションで、ということになると意外に少ないんじゃないですか？

いのまた 監督の湯山さんも、そうおっしゃってました。意外とこういう作品が少なかったことに、「レダ」をやって気づいたって。

司会 たとえば、アニメで女の子を色っぽく描くというのは、どっちかというと男のアニメーターのほうが得意で、というか好きで(笑)、ファンもパンチラとかそういうサービスを期待したりするんですが、「レダ」ではそういう点も淡泊で、やはり、女性の手がはいっているせいかなとも思うんですけど。

菊地 というより、それだけ陽子のキャラクターが生きている、血がかよっていて自然に動いているんだということだと思いますよ。それと、陽子がレダの戦士に変身するシーンで、花の中から誕生するのが印象的なんですが、あれはやはり、「ビーナスの誕生」を意識されて？

いのまた 絵的には、そうですね。それと、ストーリーでいろいろと説明している時間がないので、陽子をレダの世界の住人としてふさわしいスタイルに変身させるための一つのきっかけとして、みた目にもきれいなので、ああいうシーンを作ったんです。

長尾 時間が短いというのが、最大のネックでしたね。劇場版の一時間半の長さというのが理想ですが、家庭でみるビデオだと一時間くらいが限度だろうと。結果的に、シナリオや絵コンテにあったシーンやセリフをだいぶ切ってしまいました。それでも、完成したのは正味六十九分ですか、予定をオーバーしましたが、これはやっぱり、ぎりぎりに煮つめた結果なんですよ。もう十分あると、またちがってきたと思いますけど。

菊地 そういう点で、見終わったあとに考えてみると、この話は、いったいどれくらいの時間に起こったことなのだろうかとか(笑)、いろいろ考えなきゃいけないことがでてくる。

長尾 基本的には、一昼夜の話なんですよね。夕方にアシャンティに引きこまれて一夜明けて、また、夕方に現実世界にもどってくるという。

菊地 そういえば、陽子たちは、いったいどこで食事をしたのだろうか。それとも食べなくてもいい世界なのかとか。でも、こういうのは、あまり考えこんじゃいけないのかもしれませんね(笑)。

プロフィール
菊地 秀行

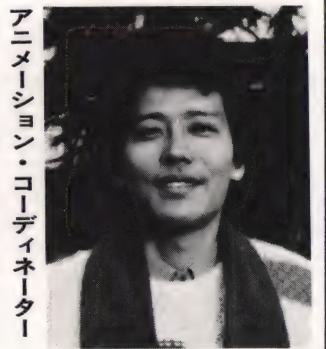
●昭和24年9月25日，千葉県に生まれる。血液型ＡＢ型。青山学院大学法学部卒業。在学中は推理小説研究会に所属。アメリカの叙情派ＳＦ作家レイ・ブラッドベリを愛し，機関誌に怪奇幻想風の小説や〝クトゥルー神話〟で有名な怪奇ＳＦ作家Ｈ・Ｐ・ラブクラフトの翻訳を発表していた。のちに雑誌のフリーライター，翻訳家として活躍し，57年「魔界都市〈新宿〉」(朝日ソノラマ文庫)で作家デビューを飾る。以後，コンスタントに力作を発表。「エイリアン秘宝街」に始まる〝トレジャー・ハンター〟シリーズを中心に，怪奇・ＳＦ・アドベンチャーが一体となったスーパー娯楽小説の新しい分野を開拓中である。また，ホラー映画の愛好家・研究家・コレクターでもあり，日本にもホラー・ＳＦ専門のＣＡＴＶチャンネルができることを待ち望んでいる。著書はほかに「インベーダー・サマー」「吸血鬼(バンパイヤー)ハンター〝Ｄ〟」「エイリアン魔獣境Ｉ・II」(いずれも朝日ソノラマ文庫)など多数。

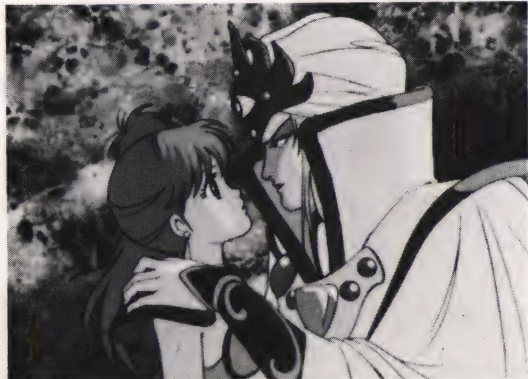
脚本 武上純希

僕の仕事は、湯山監督、いのまたさん、影山君、長尾プロデューサーたちと話しあいながら、「レダ」のストーリーを具体的なシナリオにまとめることでした。最初は、忍者ものとかハードSFとか、「コンバット」みたいな話にしようとか、いろいろなアイディアがでて、プロット（あらすじ）だけで三、四本、シナリオも決定稿以外に二本くらい別の話で書いたり、何タイプかの「レダ」があったんです。最終的には、やはり、いのまたさんのキャラを生かすということで、今の形におちついたわけです。そういう意味では、スタッフのチームワークがよかったし、できあがった作品も、オリジナルビデオアニメとしては満足度の高いものだと思います。

▲表紙用のイラストを手にしたいのまたさん，菊地氏，長尾氏。

やっぱり、ゼルが好きですね。美しい男の人というのはいいですよ(いのまた)

菊地 いのまたさんとしては、どのキャラクターに愛着がありますか?
いのまた やはり、陽子ですね。ヒロインですし、かわいいから。
長尾 ただ、アシャンティにはいってからは、女の子としての必然性みたいなものがうすれてしまったので、いのまたさんは不完全燃焼みたいな感じだったかもしれません。これも、時間がほしかったところですけど。
いのまた 私はあまり、不完全燃焼みたいには感じませんでしたけど、もう少し描写が細かくできるとよかったとは思いますね。
司会 でも、いまのSFアニメやまんがのヒロイン像というと、あまり女の子女の子した感じは受けないですよね。むしろ、中性的というか。
菊地 作家の立場でいいますとね、あまりなよなよした女性だと、話が進まないんですよ(笑)。だから、僕の小説には、しとやかな女性というのはほとんどでてこない。それはやっぱり、読者層みたいなものを意識しますから、高校生くらいの年ごろの男っぽい男の子が主人公というのが多いわけですけど、それといっしょに組ませるとなると、やはり、ある程度元気のいいほうがおもしろくなるということはありますよね。
長尾 ほんとうはね、イメージとして、大林宣彦さんの「時をかける少女」みたいなものが頭にあったんですよ。原田知世のイメージが……。ああいう感じも考えていたんです。湯山監督も、女の子の内面世界を描くというか、心情描写の得意な方ですから。
菊地 そうか、原田知世なのか(笑)。そうすると、長尾さんとしては、男性とか女性といった性別が未分化の状態の、たとえば、おなじ大林さんの「転校生」みたいな感じの作品を作りたかった?
長尾 個人的にはそうですね。「転校生」は好きな映画ですし。
司会 いのまたさんのキャラクターは、そういうことでいえば、男の子にも女の子にも受け入れられるタイプですね。
長尾 というか、ファンの男の子のほうがわりと女の子の感情的な部分に同化できるような風潮があるんじゃないですか? それは、まんがやアニメの傾向にも表れてますし。
司会 キャンペーンで、東京、大阪、札幌、名古屋、福岡と各地をまわられたと思うんですが、ファン層は、やっぱり男の子が多いでしょう?
いのまた ええ。特に東京は、男の子ばっかり(笑)。
長尾 名古屋のイベントでは、女の子がめだちましたけどね。
司会 やっぱり、アニメファンの男の子というのは、暗いですか? あ、これをいってしまうとおしまいですね。
いのまた やっぱり、おとなしいというか(笑)。サインを求めてくるのでも、ただ黙って色紙をだすだけとか。
菊地 それは暗い(笑)。
司会 でも、ちゃんと会えたときのために、色紙だけはしっかり持ってきているわけですね。
長尾 基本的に人間同士のつきあい方というのを知らないんじゃないかって思いますね。まあ、アニメファンだけじゃなくて、最近の子どもたち全般にいえることかもしれませんが……。
司会 菊地さんの小説にでてくる女性はわりと行動的なタイプが多くて、いのまたさんの描く女性キャラも男の子よりも強かったりするでしょう。もちろん、女の子らしさみたいものは残ってますけど。そういう意味では、女性主導型の時代のキャラクターですよね。
長尾 「ナウシカ」とか「マクロス」なんかをみても、アニメは完全にヒロインの時代になってますが、それは先ほども話にでましたけど、男の子とか女の子とかいう区別がなくなって、全体が中性化してきたことの象徴かもしれませんね。
菊地 僕の作品の主人公が男っぽいというのは、多分に作者の願望を反映しているからでして(笑)。ある意味では、男のほうがだらしなくなって、女の子のしっかりしたところというのが表にでてくるようになったのかもしれない。

アニメーション・コーディネーター 影山楙倫

僕と小原渉平君のアニメーション・コーディネーターという役割は、製作の段階で現場スタッフ(アニメーター)とかいろいろな人たちの意見をきいて、どういう形がアニメとして最善かを検討し、具体的に作品に反映させていく仕事なんです。「バース」のときもそうだったんですが、アニメの作家性を重視するカナメプロ独特のやり方ともいえますね。「レダ」は、最初は単純な冒険活劇として発想されたんですが、いまのような少女の内面世界みたいな形になったのは湯山監督のセンスですね。ビデオというのは家で気ままにみるものだから、そういう意味の〝軽さ〟ですか、何度でも楽しめる、いろんな楽しみ方ができるという作品になるよう心がけました。

司会　そうなると、たとえば美形の悪役キャラの極致といいますか、これぞ決定版！　という感じのゼルと、顔はみせませんけど、陽子の憧れの対象であるA君の設定は、いのまたさんの男性観が表れているわけですね。

いのまた　そういうことではないですけど(笑)、ゼルは好きですね。やっぱり、美しい男の人がいいですよ。

菊地　ゼルの衣装は、どのあたりから発想されているんですか？

いのまた　インドの王族の、皇太子のイメージですね。やっぱり、アシャンティの異世界の雰囲気にあっているだろうということで……。

菊地　エキゾチックというか、異郷感みたいなものをだすくふうというのは、冒頭の森の中のいろいろな生物がでてくるあたりとか、メカのデザインにもよく表れているように思いますね。

いのまた　美術的なコンセプトは、豊増さんのほうが中心になって作られたんですが、その点をいちばん注意しましたね。たとえば、ゼルの要塞であるガルバなんかも、金属製じゃなくて、むしろ石造りみたいな、古代遺跡の感じなんです。レダの鎧も、ふつうのロボットという感じじゃないですし。

長尾　変形シーンが短すぎるので、拍子抜けした人もいるみたいで(笑)。

司会　ヨニの巨大ロボットも、思わず笑ってしまうデザインですね。あれなんかをみますと、「オズの魔法使い」を連想する部分もあるんですが？

菊地　ああ、ティンマンですね。

長尾　ヒントにした部分はありますね。特に女の子の心情的な解放というテーマでは、黒人版の「ザ・ウイズ」のほうですけど。

菊地　ちょっとわかりにくかったんですが、ゼル＝A君というふうに解釈していいわけですか？　陽子がヘッドホンステレオをつけているのは、自閉症的というと大げさだけど、内気な女の子の象徴だと思うんですよ。で、その子が、夢の中で大きな敵として立ちふさがるゼル＝A君のイメージをうちこわすことで、女の子として一段階成長するというふうに、一種解放されて、いままでいえなかった一言がいえるという図式だと思うんですが。

いのまた　いろいろな見方ができると思うんですね。陽子の夢というのも一つの見方でしょうし。私自身は、ゼルとA君は別というふうに考えてますけど。

菊地　A君の顔をみせないというのは、やはり、演出上の意図で？

長尾　そうですね。キャラ表(上図参照)はあるんですが、顔をだすとイメージが限定されてしまうということもありまして、みせないことにしました。じつは、いま、「レダII」の企画も考えているんですが、A君の顔がみえないというところにヒントがあったりするんですよ。

司会　「レダII」は、具体的に決まっているんですか？

長尾　いえ、そうではありません。ただ、キャンペーンの会場の反応とか、ビデオの予約状況、キングさんの主題歌レコードも売れているということですし、手応えは予想以上にありましたので、できればと考えています。

司会　「レダ」の劇場公開の予定は？

長尾　それもはっきり決まっていませんが、こちらとしてはやりたいですね。

▲陽子の憧れの人〝A君〟の設定。画面では顔をみせないように演出されていたが，じつはご覧のとおり，ちゃんと設定書が描かれていたのだ。アシャンティのゼルとダブルイメージ的な雰囲気もあり，なかなか意味深なキャラクターなのだ。

プロデューサー　長尾聡浩

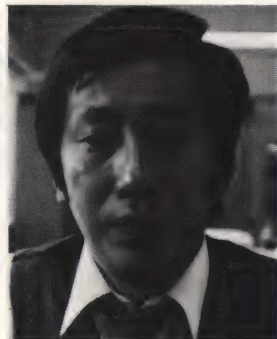
「レダ」の企画が始まったのは、一昨年(昭和五十八年)の十二月ごろでした。最初は、あるレコード会社からオリジナルビデオとしてだす予定で、ああいう音楽を重視した内容が考えられたんです。その後、テレビシリーズの企画もあったんですが、最終的に東宝から発売ということになりました。「バース」のときはかなり製作が遅れたりしたのですが、今回は順調にいきましたね。スタッフがオリジナルビデオになれたというのもあるかもしれませんが、これからもこういうオリジナルの企画がでてくると思いますので、さらにグレードの高い作品を作っていきたいと考えています。もちろん、「レダII」は、可能ならばぜひ、作りたいですね。

幻想的な内容の作品なので、小説版では、いろいろとふくらませられますね(菊地)

司会　菊地さんは、これから小説版を執筆なさるわけですが、なにか構想のようなものはありますか？
菊地　もちろん、基本的には映画とおなじです。ただ、いろいろとイメージをふくらませる余地はありますので……。たとえば、先ほど、時間の関係で説明不足になったりした部分があるというお話でしたから、小説のほうでは逆に書きこめるかなとか。
いのまた　どのくらいの長さですか？
菊地　文庫ですから、原稿用紙で二百枚くらいですか。いのまたさんには、表紙や口絵のイラストをお願いすることになってますが。
いのまた　そうですね。

▼対談終了後，菊地氏にサインを求めるいのまたさん。

菊地　このさいですから、いろいろ質問させてください。リンガムというのは、画面のほうではあまり説明されていませんが、学者のような存在ですよね。
いのまた　はい。もと神学者で、いまは知識を求めて旅しているという。なんで犬なのかは聞かないでください(笑)。
菊地　あのアシャンティの世界には、ほかにも人間がたくさんいるわけでしょ？
いのまた　人物が多くなると描写が複雑になるので、主要な人物が四人しかいないという世界になりましたけど(笑)、基本的には、レダ教徒の生き残りですとか、ゼルの部下たち、ガルバの中の人々とか、ずいぶんいるはずですよ。
菊地　ヨニも、年齢不詳のところがありますね。
いのまた　アシャンティの不思議さということで、犬がしゃべったり、おとなか子どもかわからない人物がでてきたりするということなんです。
菊地　いちばんまともなのがゼルの側近で(笑)、あんな顔で、まじめにヘッドホンステレオの解説をしたりするんですよね。
長尾　最初は、音楽アニメという発想だったもので、五線譜からおたまじゃくし(音符)が動きだすとか、「不思議の国のアリス」みたいなことも考えていたんですけどね。
菊地　陽子がゼルの心理攻撃をうける幻夢のシーンで、エイがでてきますね。
いのまた　あれはゼルの化身です。
菊地　あの、教室にエイがすっとはいってくるシーンはよかったですよ。僕らがみなれている風景に異質のものがはいってくるというのは、幻想的だし、じつに魅力的なものですからね。
いのまた　湯山監督もあのシーンが特に好きで、力を入れていたところですね。
司会　菊地さんとしては、どんなところを書きこんでみたいと思われますか？
菊地　そうですね、異世界の生物の描写ですとか、陽子が剣を使いますので、アクションなどもおもしろくできると思います。ただ、あまり凝りすぎてもいけないんで、そのへんは気をつけたいと。
司会　いのまたさん、長尾さんのほうから特にご注文とか、世界観の統一みたいなことで、なにかご意見はありますか？
長尾　いえ、特にはありません。おもしろいものを書いてください。
いのまた　そうですね、期待しています。
菊地　いや、これは、がんばらないといけませんね(笑)。
司会　というところで、しめくくりとしてですね、先ほど、「レダII」のお話がでましたが、もし製作が決まったとして、どんな形にしたいとお考えですか？
長尾　個人的には、最初の予定ではゼルがこの世界に来てしまうところまでやりたかったんで、もし、「II」ができるとすれば、陽子たちの世界へアシャンティのような異世界が侵略してくるような話になるでしょうね。これは湯山監督もおなじ意見で、「レダ」の幻夢のシーンの、エイが街の上を飛びまわったりするような絵のムードを、もっと本格的に、大きなスケールで描けたら、なんて話しているんですが……。

東宝事業部　藤原正道

東宝は、これまでにも「ナイン」三部作や「プラレス3四郎」を製作してきましたが、オリジナルビデオをだすのは初めてです。カナメプロさんからお話があったとき、まず、従来にないファンタスティックな内容ということで、アニメにしがいがありましたし、いのまたさんのキャラクターも非常に魅力的で、おまけに歌とか音楽の役割も大きく、いろいろな広がりのある作品ということで、製作に踏み切ったわけです。できれば、劇場公開、テレビシリーズ化、「レダII」の製作と発展していくといいんですが……。商品展開は、ファンシーグッズ、レターセットなどをまずだします。そのほか、プラモデルやフィギュアも発売されます。

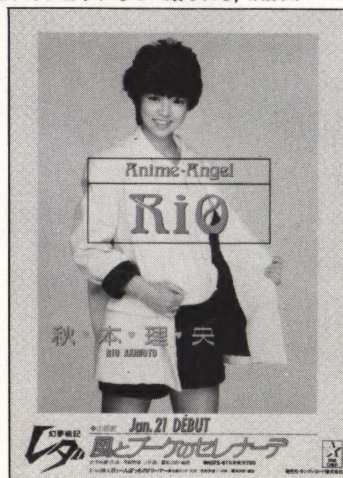
司会　いのまたさんはいかがですか？
いのまた　こんどやるとしたら、陽子のふつうの女子高生としての部分を、もっと描いてみたい気がします。A君とのその後がどうなったのかとか。
菊地　ああ、それは僕も興味がある。がんばってください。
司会　それでは、どうも、長い時間ありがとうございました。

(一九八五年二月七日収録)

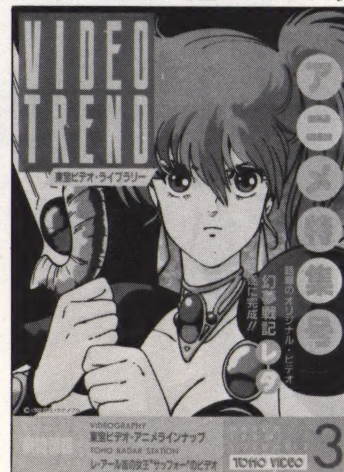
ITEM COLLECTION

▲いのまたむつみ描き下ろしイラストを使用したチラシ。

▲ビデオショップなどに貼られる，店頭用ポスター。チラシ用のイラストとフィルムの組みあわせ。

▲ＢＧＭを収めた〝音楽集〟ジャケット。

▲キングレコードのプロモート用パンフ。

▲発売予定を載せた〝東宝ビデオＮＥＷＳ〟。

▶主題歌「風とブーケのセレナーデ」のジャケットの裏表。（レコードは、いずれもキングレコードより発売中。）

▲東宝ビデオの情報誌〝ビデオ・トレンド〟。

アニメ天使RIO

ハーイ！ スポーツ大好きっ子のRIOです。「幻夢戦記レダ」の主題歌〝風とブーケのセレナーデ〟でデビューしました。おかげさまで，初めてのレコードなのに，オリコンのチャートには44位で初登場。新人ではめずらしいんですって。それにキャンペーンで大阪へいったとき，客席から初めてRIOちゃんコールがかかったんですよ。うれしくて，あがってしまいました。この歌は，最初難しいなって思ったんですけど，作曲の馬飼野康二先生やディレクターの方のアドバイスをよくきいてレッスンしているうちに，とても好きになりましたね。ほんとうは私，アニメってあんまり真剣にみたことなかったんですけど，「レダ」のお仕事で，いのまたさんにお会いしたりして，これからちゃんと勉強しなきゃいけないなって(笑)，そう思いました。いのまたさんって，とても気さくな方で，お話をすると楽しいんですよね。いろいろと親切にしてくださって，似顔絵まで描いてくださったんですよ。だから，いまは，まだまだ「レダ」のおかげで私がいるって感じだけど，将来はやっぱり皆さんの憧(あこが)れの対象になるような，そんな素敵な歌手になりたいですね。もちろん，アニメ・エンジェルとしてこれからもアニメの歌を歌っていきますので，応援よろしくお願いしまあ～す！　こんど，どこかのステージでお会いしたときは，気軽にRIOって声をかけてください。これは約束ですよ♡

★本名、橋本清美。昭和40年8月7日、埼玉県越谷市生まれ。百六十センチ、四十五キロ。スリーサイズはB＝80、W＝58、H＝88。血液型A型。NHK「レッツゴー・ヤング」のサンデーズのメンバー。ドラマ「転校少女Y」でも活躍。

▲いのまたさんが描いた，理央クンの似顔絵入り色紙。サインは直筆で，キングレコードのプロモート用に作られたもの。

TOHO VIDEO
いのまたむつみが描くファンタジック・アドベンチャー・アニメ！
幻夢戦記
レダ
FANTASTIC ADVENTURE OF YOHKO
●カラー・72分
Hi-Fiステレオ
▶TA1404◀(VHS・ベータII)
¥12,000
●海外向けプロモーションフィルム(英語版)付き
●お買上げ先着2万名様にオリジナルステッカー・プレゼント
★スタッフ
監督●湯山邦彦
脚本●武上純希／湯山邦彦
キャラ設定●いのまたむつみ
作画監督●いのまたむつみ
製作●東宝㈱／㈱カナメプロ
★声の出演
朝霧陽子●鶴ひろみ
ヨ　ニ●坂本千夏
リンガム●富山　敬
ゼ　ル●池田秀一
©1985東宝・カナメプロ
主題歌●「風とブーケのセレナーデ」秋本理央(キングレコード)
ノベライズ●菊地秀行(講談社刊X文庫)
オリジナルビデオ
絶賛発売中！
■お問い合せ、カタログの請求は下記へ■お求めは、全国有名電気店、レコード店、及びビデオ専門店へどうぞ
東宝株式会社・ビデオ事業室
〒100　東京都千代田区有楽町1-2-1　☎03(591)1017
関西支社ビデオ課　〒530　大阪市北区堂山町17-13　☎06(361)0256
中部支社事業課　〒460　名古屋市中区栄1-2-6　☎052(231)8086
九州支社事業課　〒810　福岡市博多区中洲5-5-1　☎092(291)2734
北海道東宝株式会社　〒060　札幌市中央区南一条西1-1　☎011(231)2907

雑誌68329-04　ISBN4-06-102304-7 C8774 ¥1000E (0)　定価1000円